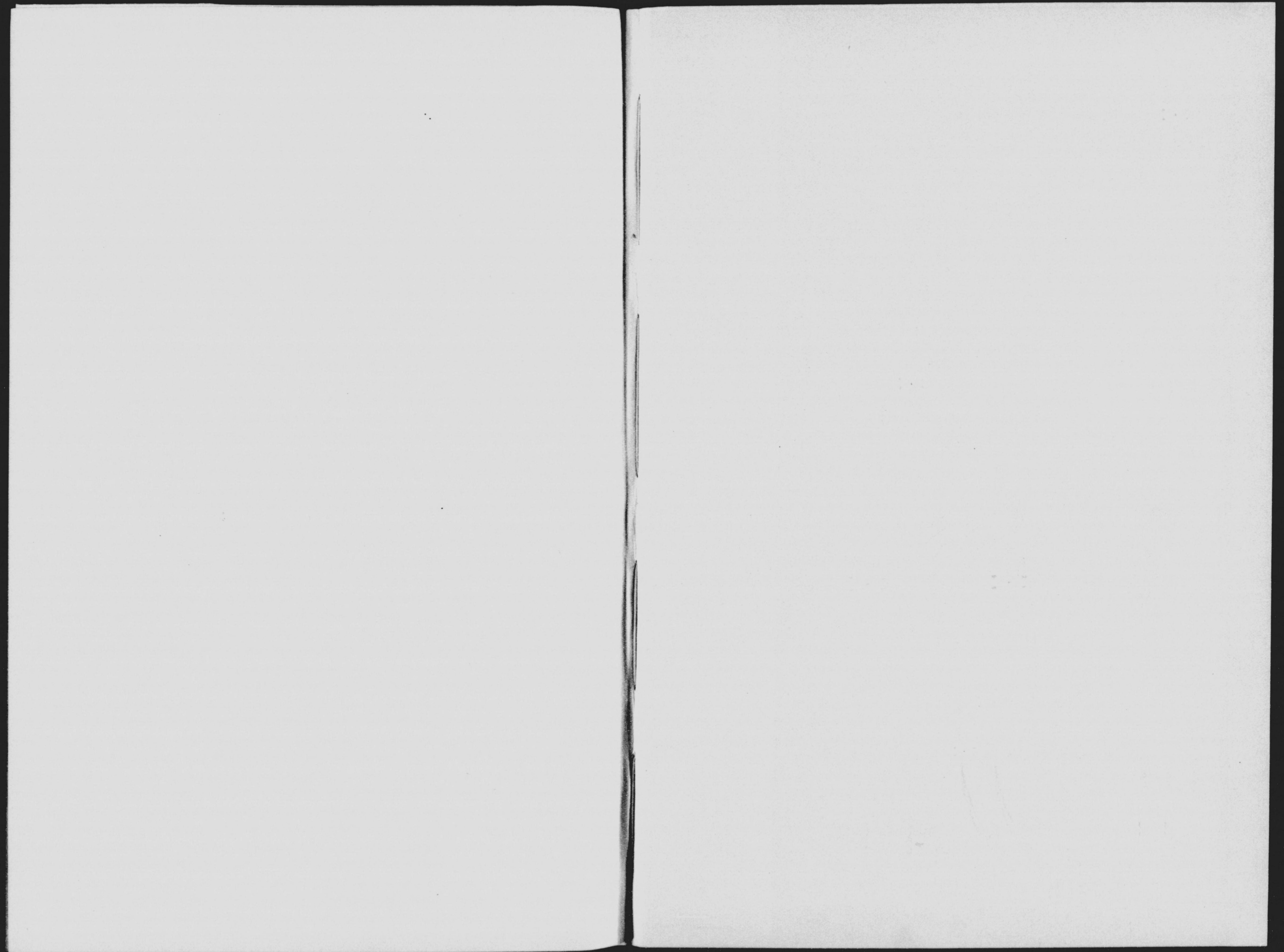
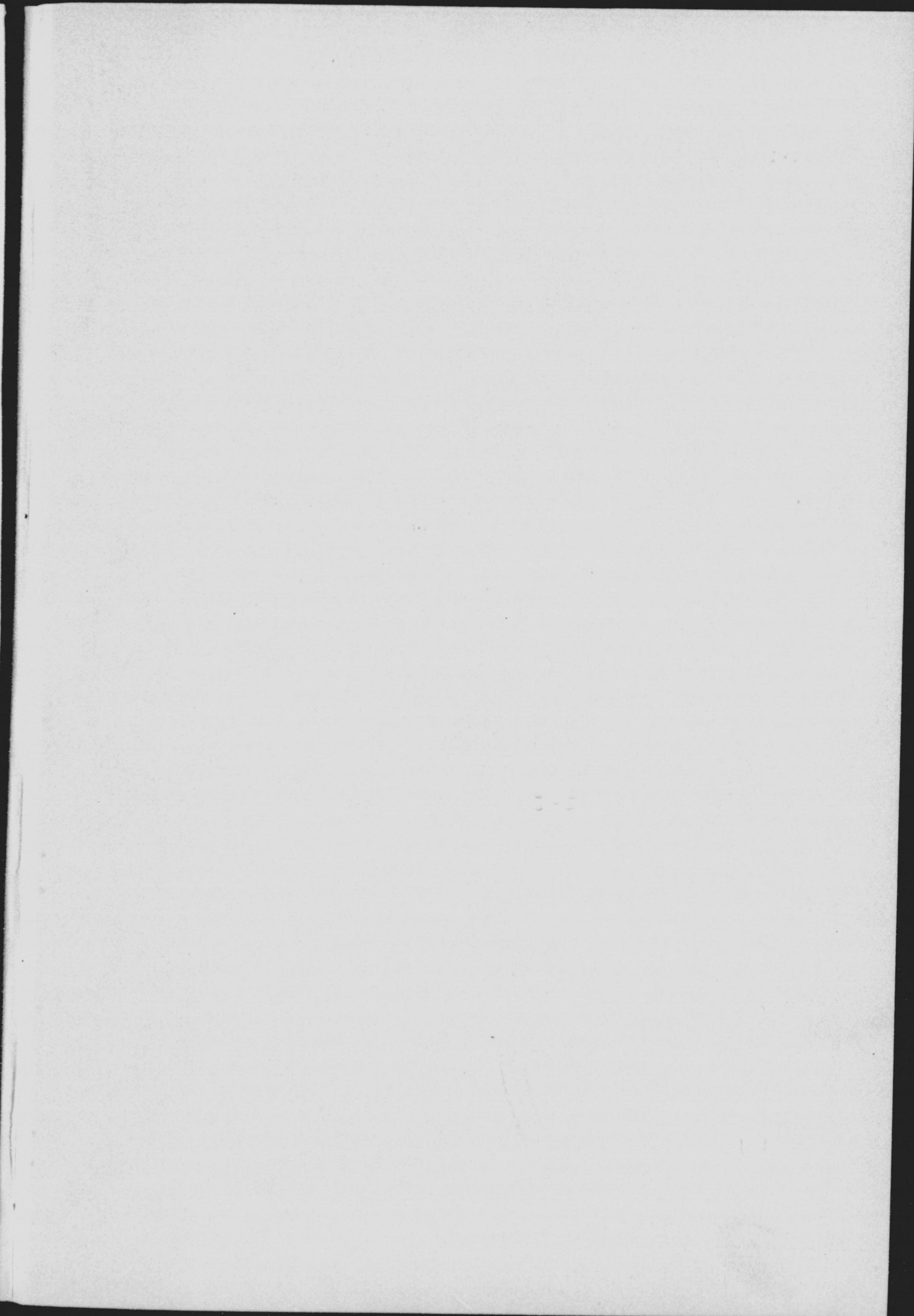


654
35





FEIP-55

明治
大正
保險
史料

第一卷

第二類

第三編



序

本邦生命保險事業ハ明治初期ニ於ケル類似保險ノ濫興ヨリ科學的保險ノ興起トナリ爾來五十餘年其事業ハ駸々トシテ發達シ今ヤ世界有數ノ保險國タルニ至レリ此間ニ於ケル斯業ノ經營ニ關シ將又學理ノ研究ニ關シ幾多ノ資料ノアルコトナレドモ歲月ノ經過ト共ニ既ニ散佚シタルモノ少ナカラズ今尙殘存スルモノト雖モ之ヲ等閑ニ附スレバ湮滅ノ虞ナシトセズ仍テ昭和三年十二月我生命保險會社協會二十周年ニ際シ保險史料編纂ノ議起リ翌年三月協會總會ニ於テ之ヲ可決シ乃チ伊藤萬太郎、岩間六郎、田中弟稻、玉木爲三郎、竹下清松、藤田讓、藤村義苗、麻生義一郎、清水文之輔、平澤眞、鈴木太郎ノ十一氏ニ其委員ヲ委囑セラレ茲ニ各委員ノ盡力ト會社ノ後援トニ依リ蒐集シ得タル所ヲ類別編纂シタリ尙本書印刷ノ後ニ於テ好資料ヲ得タルトキハ之ヲ追補スベシ

今本書上梓ニ當リ本史料蒐集ニ對シ東京、京都、大阪ノ府廳當局ヲ始メ三浦周行、三宅秀、森莊三郎、小島昌太郎諸博士、山内國太郎、加唐謙吉、野崎久治、塚越丘二郎、宮本

宜一諸氏其他多數諸賢ヨリ寄セラレタル厚意ヲ深謝シ併セテ大方有志ノ援助ニ
ヨリ此企ノ完璧ニ至ラン事切望ニ堪ヘザル所ナリ

昭和九年一月

委員長 玉木爲三郎

例言

第一卷 明治維新前後ヨリ明治二十二年末迄ノ史料トス
本史料ハ生命保險ヲ主眼トスルモノナレドモ其初期ニ在テハ他ノ保險並類似保
險モ亦相關聯スル所多キヲ以テ之ヲ収録ス
本史料ハ二大別シ第一編一般資料第二編會社資料トス
各資料ハ更ニ類ニ分チ年次ニ依リ便宜ノ爲番號ヲ附シテ之ヲ収録ス二類以上ニ
渉ル資料ハ其一方ニ全文ヲ掲載シ他ハ題目ヲ掲グルニ止ム
本文記載事項ノ見出ヲ欄外ニ小字ヲ以テ掲記シ之ニ依リ目次ヲ作成ス備考又ハ
註ヲ要スルモノハ「」ヲ附シ小字ヲ以テ之ヲ記載ス

第一編 一般資料

特定ノ會社ニ直接關係ナキ資料ヲ左ノ六類ニ分チテ収録ス

第一類 保險ノ文字

第二類 總說

例言

例言

第三類 法規

第四類 物保險

第五類 人保險

第六類 雜

第二編 會社資料

會社直接關係ノ資料ヲ集メ左ノ二類ニ分チテ會社設立年度ノ順位ニ依リ收録ス

第一類 物保險

第二類 人保險

明治大正保險史料 第一卷

第二編 會社資料 第二類 人保險之部

目次

丸屋 商社	
明治七年	
丸屋商社死亡請合規則(一).....	二
プロビデント會社横濱代理店	
明治九年	
營業豫報(二).....	六
明治十年	
生命保險ノ廣告(三).....	六
日東保生會社	
明治十二年	
創立願(四).....	八
創立願書(第一回提出)(五).....	八
日東保生社規程(六).....	三
目次	一
寄託人心得並約條(一).....	元
事務大略(保險料ノ基礎)(八).....	元
會社用語語解(九).....	三
設立ノ義ニ付東京府ヨリ内務省(何)(十).....	三
明治十三年	
創立再願(十一).....	三
創立願書(第二回提出)(十二).....	三
定款(定款及事業方法書)(十三).....	七
設立再願ニ付東京府ヨリ内務省(照會)(十四).....	七
拜借金願(十五).....	五
拜借金願書交換願(十六).....	五
定款追加願(積立金ニ關スル規定)(十七).....	五
拜借金願書引換並ニ定款追加ニ付東京府ヨリ内務省(照會)(十八).....	五

設立願、拜借金ノ件ニ付東京府ヨリ内務省ヘ伺
 (19)..... 110
 設立許可ヲ東京府ヘ若山氏ヨリ請願(20)..... 111
 右請願ニ付東京府ヨリ内務省ヘ上申(21)..... 111
 設立ニ關スル雜報(22)..... 111
 發起人ニ増員届(23)..... 111
 右届ニ關スル東京府ヨリ内務省ヘ照會(24)..... 111
 設立願、拜借金願ニ關スル内務省ヨリ東京府ヘ指
 令(25)..... 114
 會社ニ對スル東京府ノ指令(26)..... 114
 右指令ノ御受書(27)..... 114
 發起人除名届(28)..... 115
 右届ニ對スル東京府指令(29)..... 116
 右指令ニ基キ發起人退社届(30)..... 116
 開業ノ豫報(31)..... 117
 設立廣告(32)..... 117
 開業前ノ景況ニ關スル廣告(33)..... 117
 設立ニ際シ非難妨害アリ(34)..... 117
 會社營業監視ノ件東京府勸業課ヨリ知事ヘ伺(35)..... 118
 保生會社監視派出員心得(35)..... 118
 明治十四年..... 111

移轉届(36)..... 111
 移轉ニ關スル深川區ヨリ東京府ヘ照會(37)..... 111
 右ニ對スル東京府ノ回答案(38)..... 111
 解社願(39)..... 111
 右解社願ニ付東京府ヨリ農商務省ヘ届竝ニ會社ヘ
 指令案(40)..... 115
 若山氏ノ會社設立ニ關スル述情(41)..... 115
 共濟五百名社
 明治十一年
 規則編纂印刷ノ報(42)..... 115
 加入申込ニ就キ廣告(43)..... 115
 欠員ノ廣告(44)..... 115
 明治十三年
 第一回申合規則(45)..... 115
 社員名簿(46)..... 116
 社員大集會ノ豫報(47)..... 116
 總集會(48)..... 116
 幹事委員(49)..... 116
 集會ノ記(50)..... 116
 總集會後報(51)..... 116

社員滿員(52)..... 116
 五百名社禮讚(53)..... 116
 最初ノ死亡者(54)..... 116
 右ノ後報(55)..... 116
 第二期社員ニ對シ預金ノ法ヲ開ク(56)..... 116
 惠與金受領感謝廣告(57)..... 116
 第二期社員入社(58)..... 116
 (附 共濟千名會社設立ノ報)
 明治十四年
 社員後嗣入社廣告(59)..... 117
 總集會ノ豫報(60)..... 117
 申合規則ノ附則(61)..... 117
 總集會ノ後報(62)..... 117
 明治十五年
 盟約社員ノ除社ノ廣告(63)..... 117
 明治十五年度計算報告(64)..... 117
 明治十六年
 總集會ヲ催ス(65)..... 117
 明治十七年
 欠員廣告(66)..... 117
 明治十七年度收拂廣告(67)..... 117

明治十八年
 第二改正申合規則(68)..... 117
 犯則者除名ニ付募集廣告(69)..... 117
 柳北仙史肖像替并序(70)..... 117
 明治二十年
 募集廣告(71)..... 117
 明治二十年度計算報告(72)..... 117
 明治二十二年
 明治二十二年度計算表(73)..... 117
 遺族保全會社
 明治十三年
 設立ノ報(74)..... 117
 東北共愛社
 明治十三年
 設立ノ報(75)..... 117
 共濟千名會社
 明治十三年
 設立願(76)..... 117

創立緒言(77).....三三
 假約則(77).....三三
 設立ニ對スル東京府ノ指令案(78).....三四
 社員募集廣告(79).....三四
 右ノ再告(80).....三四
 明治十四年
 欠員ニ付募集廣告(81).....三六
 基金利用法ノ報道ヲ怠リタルコト(82).....三六
 社員ノ鳴謝廣告(83).....三六
 社員死亡廣告(84).....三六
 躋壽社
 明治十三年
 設立、ソノ組織ニ關スル報(85).....三九
 右ニ關スル詳報(86).....三九
 設立廣告(87).....三九
 社員ハ府下現住ヲ條件トスルノ廣告(88).....三九
 雜報(89).....三九
 社員満員ノ廣告(90).....三九
 明治十五年
 改正規則ノ要領(91).....三九

加入申込者ハ診査ノ廣告(92).....四〇
 明治十六年
 抽籤廣告(93).....四〇
 第二號ノ十五年度計算報告(94).....四〇
 第一號ノ第一回抽籤廣告(95).....四〇
 共惠社
 明治十三年
 設立并申込募集廣告(96).....四一
 共濟救樂社
 明治十四年
 設立廣告(並ニ規則要綱)(97).....四一
 郷愛社
 明治十四年
 宮城縣ニ創立サル(98).....四一
 共恤千人社
 明治十四年
 設立、申込募集廣告(99).....四一

他府縣人募集廣告(100).....四二
 募集期日延期廣告(101).....四二
 順天共救社
 明治十四年
 創立願(102).....四三
 創立緒言(103).....四三
 規則(103).....四三
 東京府ノ指令案(104).....四三

順天社

明治十四年
 募集廣告(105).....四三
 業務實施豫告(106).....四三
 順天社同盟諸君ニ厚謝ス(107).....四三
 募集廣告(108).....四三
 共濟壹錢社
 明治十四年
 創立願(109).....四四
 創立緒言(110).....四四

規則(110).....四五
 創立願書下戻願(111).....四五
 右ニ對スル東京府ノ符箋(112).....四五
 設立ノ件及ビ公債證書ヲ府廳ヘ預クルノ條款ニ付
 淺草區長ヨリ東京府知事ヘ伺(113).....四五
 右條款訂正ノ届出ニ付淺草區長ヨリ東京府知事ヘ
 上申(114).....四五
 右ニ對スル東京府ヨリ淺草區長ヘ回答(115).....四五
 申込募集廣告(116).....四五
 入員諸君ニ告ク(117).....四五
 副則(118).....四五
 基金ニ付説明(119).....四五
 共濟法實施並ニ申込募集ノ廣告(120).....四五
 舊規則證券文中ノ正誤(121).....四五
 社則實施並ニ募集廣告(122).....四五
 共濟金詐取ノ企(123).....四五
 共濟金贈與ノ廣告(124).....四五
 共濟金受領感謝ノ廣告(125).....四五
 入社當時ノ健康ニ關スル診斷書(126).....四五
 右承認ニ付醫師ノ謝狀(126).....四五
 右ニ對スル社員遺族ノ感謝(126).....四五

積立金ノ内ヨリ貧民ヘ分與(127) 三九七
 詐偽者ノ入社金沒收(128) 三九七
 社員名錄ノ印刷(129) 三九六
明治十五年
 年頭賀辭(130) 三九六
 新年事務開始ノ廣告(131) 三九六
 募集廣告(132) 三九六
 贈金報告(133) 三九六
 容體書(133) 三九六
 醫師ノ謝狀(133) 三九六
 共濟金受領感謝ノ廣告(133) 三九六
 規則改良廣告(134) 三九六
 改良規則(134) 三九六
 全燒ノ共濟金受領感謝廣告(135) 三九六
 新築移轉廣告(136) 三九六
 共濟金ノ紛爭(137) 三九六
 一週年ノ祝賀會豫報(138) 三九六
 祝賀會後報(139) 三九六
 同(140) 三九六
 全燒共濟金受領鳴謝廣告(141) 三九六
 贈金報告(142) 三九六

明治十六年
 社則改正廣告(143) 三九六
 改正趣意(143) 三九六
 改正社則(143) 三九六
 社則改正並ニ申込募集ノ廣告(144) 三九六
 十六年五月中贈金廣告(145) 三九六

日東共濟社

明治十四年
 募集區域擴張廣告(146) 三九六
 社則概要(146) 三九六

共濟万人社

明治十四年
 創立願(147) 三九六
 緒言(148) 三九六
 規則(148) 三九六
 概則並ニ募集廣告(149) 三九六
 募集廣告(150) 三九六
 社員未滿ニ付廣告(151) 三九六
 移轉並ニ募集廣告(152) 三九六

分 光 社

共濟金受領感謝廣告(153) 三九六
 募集廣告(154) 三九六
明治十四年
 申合規則第一號—第四號(155) 三九六
 申合規則第二號—第五號(155) 三九六
 設立趣意廣告(156) 三九六
 設立雜報(157) 三九六
 申込人員超過ノ盛況(158) 三九六
 總集會(159) 三九六
 陸續申込ノ盛況(160) 三九六
明治十五年
 維持金ヲ東京府ヘ保管(161) 三九六
明治十六年
 出張所設置ノ廣告(162) 三九六
明治十七年
 社員ヘ質疑應答ノ廣告(163) 三九六
明治十八年
 年輪相違ノ紛議(164) 三九六
 申合規則改正ノ緒言(165) 三九六

共 愛 社

組織上改正說明(165) 三九六
 改正抽籤按說明(165) 三九六
 改正申合規則(165) 三九六
 改正申合規則(165) 三九六
 規則追加(166) 三九六

靖 盟 社

明治十四年
 設立ノ報(167) 三九六
明治十四年
 設立趣意並ニ募集廣告(168) 三九六
 募集廣告(169) 三九六
 實施廣告(170) 三九六
 互救金受領感謝廣告(171) 三九六
明治二十年
 募集廣告(172) 三九六
明治二十一年
 募集廣告(173) 三九六

民 一 社

明治十四年
募集廣告(174) 四〇一
救助金贈遺ノ廣告(175) 四〇一
廣愛社
明治十四年
設立願(176) 四〇三
規則書(177) 四〇四
設立願書下戻願(178) 四〇一
右出願ニ對スル東京府ノ附箋(179) 四〇三
資産社
明治十四年
規則概要並ニ募集廣告(180) 四〇三
共持救濟社
明治十四年
設立届(181) 四〇四
社則緒言(182) 四〇五
社則(182) 四〇六
社則改正ニ付設立届下戻願(183) 四〇六

右出願ニ對スル東京府ノ附箋(184) 四〇六
開業廣告(185) 四〇六
明治十五年
募集廣告並ニ申合條款要略(186) 四〇七
龜齡社
明治十四年
創立營業廣告(187) 四〇六
募集廣告(188) 四〇六
明治生命保險株式會社
明治十三年
創起見込書緒言(189) 四〇三
創立見込書(189) 四〇三
明治生命發起ノ報(190) 四〇六
明治十四年
設立願(191) 四〇六
定款(192) 四〇九
株主引受高(193) 四〇九
生命保險ノ約束(創立ノ際東京府へ提出ノモノ)
(194) 四〇九

設立認可ノ東京府指令(195) 四〇七
明治生命設立ニ對スル郵便報知新聞ノ社説(196) 四〇七
規則緒言(197) 四〇八
會社規則(197) 四〇八
右ノ掛金表(197) 四〇九
開業豫告(198) 四〇九
開業届(199) 四〇九
會社印章届(200) 四〇九
役員撰定廣告(201) 四〇九
診查醫出張廣告(202) 四〇九
診查定日ノ廣告(203) 四〇九
開業後一ヶ月ノ業態(204) 四〇九
關西へ出張募集ノ豫告(205) 四〇九
明治生命ト東本願寺(206) 四〇九
大阪ニ於ケル募集廣告(207) 四一〇
大阪支店ノ廣告(208) 四一〇
第一回報告(209) 四一〇
明治十五年
最初ノ死亡者、第二次總會概況(210) 四一〇
診查定日(211) 四一〇
支店、代理店所在地廣告(212) 四一〇

會社ノ近況(213) 四一〇
第一回生命保險一覽表(214) 四一〇
阿部頭取函館出張取扱高(215) 四一〇
濱松出張募集廣告(216) 四一〇
第一回保險一覽表概要(217) 四一〇
同(218) 四一〇
第二回報告(219) 四一〇
明治十六年
移轉届(220) 四一〇
移轉公告(221) 四一〇
關西方面活動(222) 四一〇
定款改正願(223) 四一〇
出張廣告(224) 四一〇
同(225) 四一〇
第二回生命保險一覽表(226) 四一〇
明治十六年度(第三回)諸勘定要領公告(227) 四一〇
第三回報告(228) 四一〇
明治十七年
改刻割印届(229) 四一〇
金祿公債保護預廣告(230) 四一〇
第三回報告ノ要略(231) 四一〇

海上及生命保險會社諸勘定調ニ付商務局ノ依頼
(232) 五八

東京府ノ回答書及調書(生命ノ部)(233) 五九

第三回生命保險一覽表(234) 五九

第三回生命保險一覽表及業績近狀(235) 五九

第四回報告(236) 五九

明治十八年

外人ノ株主定款改正願(237) 六〇

改正定款第九條(237) 六〇

外人株主許可スベキヤ否ニ就キ東京府ヨリ内務農
商務兩省ノ伺(238) 六〇

外人株主不許可(239) 六〇

近火見舞御禮廣告(240) 六〇

第四回生命保險一覽表(241) 六〇

第一期決算報告(242) 六〇

勸誘廣告(243) 六〇

營業廣告(244) 六〇

開業滿四年業績、被保人體格調(245) 六一

横濱代理店ノ公告(246) 六一

診查醫出張廣告(247) 六一

石川島造船所ノ役員技師團體加入(248) 六一

團體申込(249) 六一

第五回報告(250) 六一

明治十九年

診查定日廣告(251) 六一

明治十八年度事業公告(252) 六一

團體加入ノ傾向(253) 六一

第一銀行重役團體申込(254) 六一

第一銀行ノ團體加入ノ趣旨(255) 六一

開業以來ノ被保人死亡數(256) 六一

第五回生命保險一覽表概要(257) 六一

阿部頭取福島地方出張(258) 六一

第六回報告(259) 六一

明治二十年

診查定日申込益増加(260) 六一

支配人更迭(261) 六一

第六回生命保險一覽表概要(262) 六一

阿部頭取醫學士同道出張廣告(263) 六一

物集女支配人伊豫松山ノ出張(264) 六一

畝傍艦沈没、軍人ノ死亡(265) 六一

第七回報告(266) 六一

明治二十一年

募集廣告(267) 六一

横濱出張體格検査ノ廣告(268) 六一

横濱再出張廣告(269) 六一

第七回生命保險一覽表概要並ニ宣傳廣告(270) 六一

横濱ニ於ケル新契約狀況(271) 六一

統計表官報ノ登錄願、附統計表其他(272) 六一

第八回報告(273) 六一

明治二十二年

生命保險ノ必要ヲ高唱シタル募集廣告(274) 六一

五千圓ノ保險金支拂(275) 六一

第二期決算報告(276) 六一

第八回生命保險一覽表ニヨル雜報(277) 六一

事業狀態ノ廣告(278) 六一

第九回報告(279) 六一

借 社

明治十四年

設立願書(280) 七二

創立假規則(281) 七三

設立規則下渡願(282) 七三

右ニ對スル東京府ノ附箋按(283) 七三

救 恤 社

明治十四年

社友募集ノ廣告(284) 七二

救合五厘社

明治十四年

業務實施廣告(285) 七二

信陽共存社

明治十四年

設立、社員募集廣告(286) 七二

資産共恤社

明治十四年

開設願(287) 七二

創立緒言(288) 七三

社則(288) 七三

社則概要及ビ募集廣告(289) 七三

共賀壹錢社

明治十四年

創立、募集廣告(290) 七三

募集廣告(291) 七三

目次

業務實施廣告(292) 七五

明治十五年
募集廣告(293) 七六

共同愛生社
明治十四年
社則概要並ニ募集廣告(294) 七六

東京喜憂社
明治十四年
社則概要並ニ募集廣告(295) 七六

募集廣告(296) 七六

實施廣告(297) 七六

明治十五年
實施廣告(298) 七六

移轉廣告(299) 七六

共恤金受領感謝廣告(300) 七六

同 酬 社
明治十四年
社則概要並ニ募集廣告(301) 七六

明治十五年
配與金受領感謝廣告(302) 七六

內國五惠義會
明治十四年
會則概要並ニ會員募集廣告(303) 七六

明治十五年
會員募集廣告(304) 七六

募集廣告(305) 七六

安 寧 社
明治十四年
設立趣意申合規約概要ノ廣告(306) 七六

實施廣告(307) 七六

明治十五年
募集廣告(308) 七六

共立朝生社
明治十四年
設立、募集廣告(309) 七六

移轉並ニ募集廣告(310) 七六

同 慶 社
明治十四年
社則概要並ニ募集廣告(311) 七六

共資立身社
明治十四年
社則概要ノ廣告(312) 七六

本所共同社
明治十四年
規則摘要改正廣告(313) 七六

友 仁 社
明治十五年
募集廣告(314) 七六

協同助力社
明治十五年
第二號社則概要ノ廣告(315) 七六

募集廣告(316) 七六

救 籤 會
明治十五年
募集廣告(317) 七六

共濟貳錢社
明治十五年
開業廣告(318) 七六

共立至誠社
明治十五年
規則概要社員募集廣告(319) 七六

集 濟 社
明治十五年
集濟金受領感謝廣告(320) 七六

概則並ニ社員募集廣告(321) 七六

興 隆 社
明治十五年

規則概要社員募集廣告(322) 三五

三 緣 社

明治十五年
規則概要社員募集廣告(323) 三五

布德行惠社

明治十五年
概則並ニ社員募集廣告(324) 三三

海事共救會社

明治十五年
募集廣告(325) 三三

抽 春 會

明治十五年
創立廣告(326) 三四

勸業共立社

明治十五年
募集廣告(327) 三五

共同保險義社

明治十五年
共濟萬人社、共持救濟社、順天社合併廣告(328) .. 三五
募集廣告(329) 三七

共濟潤整合

明治十五年
募集廣告(330) 三七

尙 義 社

明治十五年
募集廣告(331) 三六
同(332) 三九

諸藝共愛社

明治十五年
略則並ニ募集廣告(333) 三〇

生命保險共愛社

明治十五年

募集廣告(334) 七一

五 救 社

明治十五年
社則概要並ニ募集廣告(335) 七三

內國共濟社

明治十五年

社則概要社員募集廣告(336) 七三

支局設置募集廣告(337) 七四

東京組合社員募集廣告(338) 七五

東京組合實施廣告(339) 七五

共濟交深社

明治十五年

社則概要並ニ募集廣告(340) 七六

東京同濟社

明治十五年

社則概略ノ廣告(341) 七六

社員滿員施行廣告(342) 七六

募集廣告(343) 七九

善 同 社

明治十五年

惠與金受領感謝廣告(344) 八〇

行 惠 社

明治十五年

募集廣告(345) 八一

水 益 社

明治十五年

貸附金當籤廣告(346) 八一

遠方社員入社手續(347) 八一

積 潤 社

明治十五年

持寄金貸附並募集廣告(348) 八三

明治十六年

募集廣告(349) 八四

愛 仁 社

明治十五年
社則概要並ニ募集廣告(350) 七五

日本福福共同義社
明治十六年
設立ノ雜報(351) 七六

明治養老會社
明治十六年
社則概略募集廣告(352) 七七

盟濟社
明治十六年
改正規則(353) 七九

共濟兩全社
明治十六年
社則概要募集廣告(354) 七六

內國合同共濟社
明治十六年

六社合同設立社員募集廣告(355) 七六

內國共同共濟社
明治十七年
社長解任退社廣告(356) 七九

擴愛社
明治十七年
的籤廣告(357) 八〇

東洋生命保險會社
明治二十年
設立發起ノ報(358) 八〇

大日本生命保全會社
明治二十年
設立ノ趣意、目的ニ關スル報(359) 八一

設立届(360) 八二

設立趣意要領(361) 八三

會社規則(361) 八四

明治二十一年

設立出願ニ及ズトノ事(362) 八七

株主募集廣告(363) 八七

會社設立ニ關シ東京醫會ノ反對論(364) 八八

設立雜報(365) 八八

創立趣意及ビ同社設立ノ社會的意義ニ關スル論評(366) 八八

開業豫告(367) 八五

開業ニ關スル雜報(368) 八六

帝國生命保險株式會社
明治二十年
會社損益比較豫算調(369) 八七

設立豫報(370) 八八

同(371) 八八

設立願(372) 八八

定款(373) 八八

保險規則(374) 八八

右ノ掛金表(374) 八八

設立認可ノ東京府指令案(375) 八八

設立許可ノ報(376) 八八

設立趣意書(377) 八八

明治二十一年
設立廣告(378) 八九

株式募集閉鎖、開業豫報(379) 八〇

開業前ノ雜報(380) 八一

會社組織雜報(381) 八一

創立事情ノ演說(加唐氏)(382) 八一

創立委員ヨリ株主ノ設立事情報告(383) 八一

開業期日其他雜報(384) 八一

創立委員ノ感謝記贈(385) 八一

役員就任廣告(386) 八一

橫濱ニ代理店設置(387) 八一

營業廣告(388) 八一

株式募集(389) 八二

最初ノ死亡者(390) 八二

新社長就任ノ廣告(391) 八二

事務所移轉其他廣告(392) 八二

橫須賀代理店設置案内狀(393) 八二

創立以來ノ業績及祝宴ノ報(394) 八二

保險金支拂ト業績(395) 八二

第壹回報告(396) 八二

第壹回生命保險一覽表(397) 八二

明治二十二年

總會開催ノ報(398) 九七

大阪支店設置廣告(399) 九七

大阪支店設置披露ノ報(400) 九六

診査日廣告(401) 九六

掛金計算方法覺書(402) 九六

第二回報告(403) 九三

第三回報告(404) 九三

第二回生命保險一覽表(405) 九六

紐育生命保險會社

明治二十一年

三井物産ノ代理店依託(406) 九四

募集廣告(407) 九五

業績並ニ會社組織ノ紹介(408) 九五

日本ニ於ケル營業方針(409) 九六

營業廣告(410) 九七

明治二十二年

營業廣告(411) 九七

横濱生命保全會社

明治二十二年

創立ノ報(412) 九六

生命保險會社

明治二十二年

創立ノ報(413) 九六

帝國生命十全會社

明治二十二年

創立趣意及株主募集廣告(414) 九六

株式募集廣告(415) 九七

東京生命保險會社

明治二十二年

設立ノ報(416) 九三

日本生命保險株式會社

明治二十二年

創立發起ノ報(417) 九三

設立ニ關スル雜報(418) 九三

設立出願ノ報(419) 九三

創立願(420) 九五

定款(421) 九五

發起人負擔株金表(422) 九三

會社規則(創立願ニ添ヘ大阪府廳へ提出セルモノ)
(423) 九三

右ノ掛金表(423) 九四

事務所設置届(424) 九四

大阪府ノ認可指令案(425) 九四

創立趣意書(426) 九六

株主總會雜報(427) 九三

同名會社設立ニ付照會(428) 九三

右照會ニ對スル回答(429) 九三

右回答ノ寫御受書(430) 九三

同名會社ノ改稱勸誘方願(431) 九三

大阪府ヨリ東京府へ社名改稱方取計依頼(432) 九三

役員撰定届(433) 九六

定款中更正増補願(434) 九六

右ニ對スル指令案(435) 九六

假事務所引拂ヒ業務開始廣告(436) 九六

營業開始廣告(437) 九六

體格診査日廣告(438) 九六

保險之大要(439) 九三

保險規則(開業ニ當リ實施確定ノモノ)(440) 九三

右ノ掛金表(440) 九三

第一回報告(441) 九三

第一回統計表(442) 九三

大日本生命保險會社

明治二十二年

設立願(443) 九三

定款(444) 九三

保險規則(445) 九三

右ノ掛金表(445) 九三

設立願ニ對スル東京府ノ指令案(446) 九三

大藏省ニ對スル東京府ノ通知案(447) 九三

設立認可ノ報(448) 九三

移轉届(449) 九三

定款改正願(450) 九三

右ニ對スル東京府ノ指令案(451) 九三

發起人除名届書却下願(452) 九三

右ニ對スル東京府ノ附筆案(453) 九三

役員就任届(454) 九三

定款改正認可願(455).....	二四
右ニ對スル東京府ノ認可指令案(456).....	二四
移轉届(457).....	二四
營業廣告(458).....	二四七
設立開業ノ雜報(459).....	二四
有限東京生命保險會社	
責任	
明治二十二年	
設立願(460).....	二四九
定款(461).....	二五〇
會社規則(462).....	二五〇
右ノ掛金表(463).....	二六
設立認可ノ東京府指令(464).....	二六
右ニ付東京府ヨリ大藏省ヘ通知(465).....	二六
設立認可ノ報(466).....	二六九
株主募集廣告(467).....	二七〇
追補	
日東保生會社組織說明(467).....	二九一
保命會社事務大略(468).....	二九
日東保生會社診査報狀(469).....	二九四

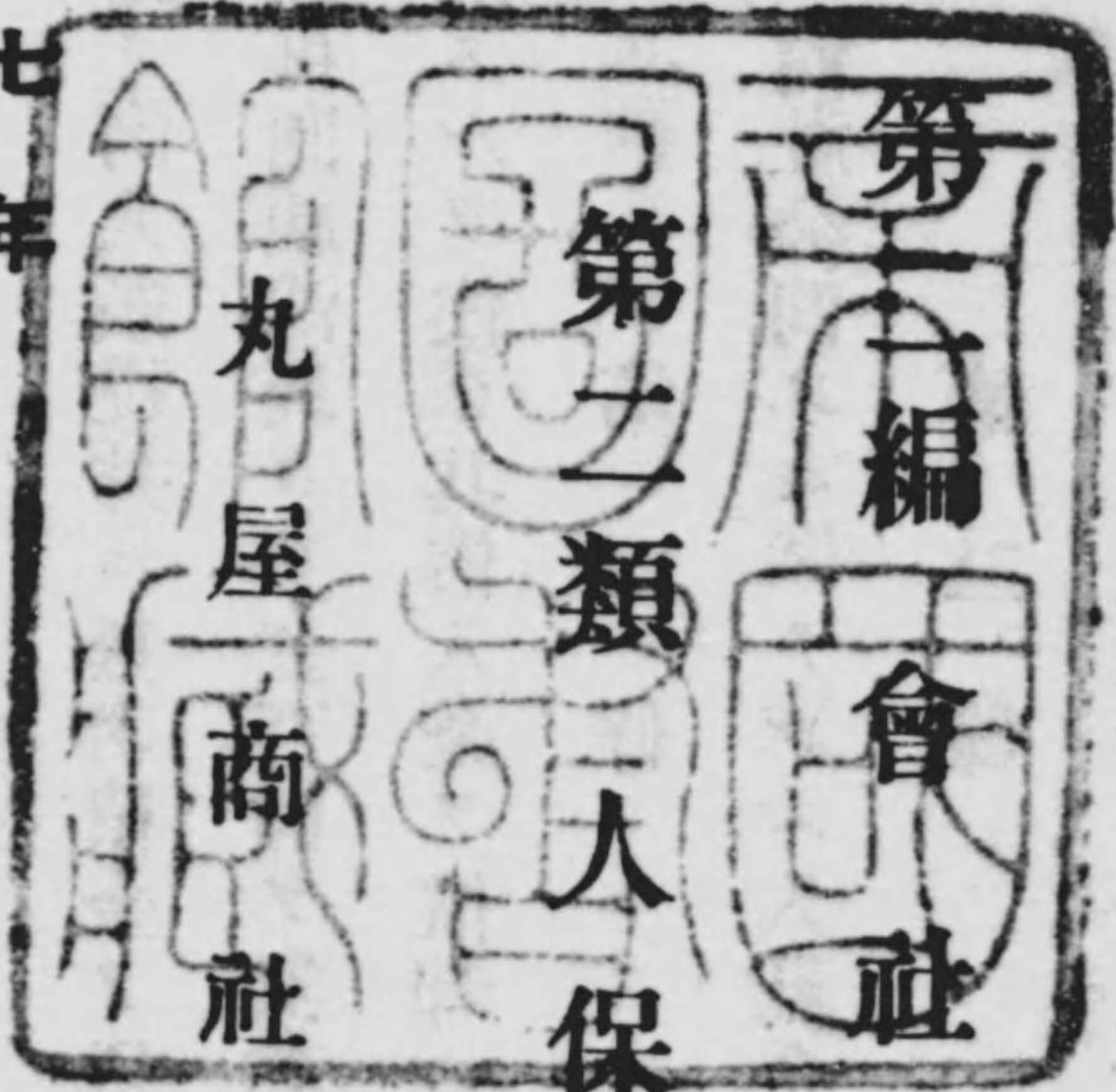
挿圖目次

日東保生社創立願(5).....	左ノ頁
日東保生會社廣告.....	八
掛金表(右廣告ノ裏面).....	二六
日東保生會社解社願(39).....	二六
共濟五百名社々員之證(45).....	二六
共濟五百名社掛金受取證.....	二六
明治生命保險會社創立願(191).....	二六
明治生命保險會社開業届(199).....	二六
明治生命保險會社第壹號保險證書.....	二六
帝國生命保險會社損益比較豫算調(369).....	二六
日本生命保險會社規則(423).....	二六
日本生命保險會社第一回報告書表紙(441).....	二六
日本生命保險會社第一號保險證書.....	二六
京都大阪滋賀三知事ノ推薦狀.....	二六

明治大正保險史料 第一卷

資料

第一類 人保險之部



明治七年

丸屋商社之記

明治四十四年第三版

此社則ハ明治二年己巳ノ正月始メテ議定シ謄寫シテ社中ニ頒チ六年癸酉十月ニ於テ之ヲ上
 木シ七年五月ヲ以テ更ニ死亡請合規則ヲ追加シテ再ヒ上木シタルモノナルガ今茲ニ早矢仕
 先生ノ追悼會ヲ開クニ當リ記念トシテ三タヒ上木シテ之ヲ諸君ニ頒ツ

明治四十四年十月一日

第二編 會社資料

【第三版
ノ前書】

第二類 人保險之部

丸屋商社死亡請合規則

當社ニ入テ商賣ヲ勉ル者ハ人々ノ働ニ從ヒ配分ノ利益モアルコトナレバ存生ノ間ハ衣食ニ差支ナシト雖モ或ハ死後ノ覺悟マテハ手ニ及ハサル人モアラン依之此度元金五百圓ヲ備ヘ毎年ノ利足ヲ以テ死亡ノ人ニ給スル議ヲ定メ其規則左ノ如シ

第一條

從來積金ノ内人頭稅并ニ無名積金ヲ以テ此元金ニ備フベシ但シ現今積高不足ナルガ故ニ保續積金ヨリ金百圓福澤氏ヨリ金百圓ヲ無利足ニテ借入定數ニ充タシメ年々ノ積金并ニ利足ヲ加エテ其高増加スルヲ俟テ其借入金ヲ償却スベシ

第二條

此元金ハ商社共同ノモノナレバ入社金トシテ之ヲ用ヒ毎年其利益ヲ加ヘテ増加スベシ

第三條

社中死亡スル者ヘハ死後即時ニ金五十圓ヲ與ヘテ病中死後ノ用ニ供ス可シ

第四條

死後ノ用ニ供ヘテ餘アラバ當人ノ遺言ニ從ヒテコレヲ處置スル歟又ハ遺言ナクバ最モ近キ親族ヘ渡ス可シ

第五條

目今此請合ノ高ヲ五十圓ト定メタレモ此後死亡ノ人少ナクシテ元金ハ次第ニ利倍増加スル時ハ再議シテ此高ヲ増スベシ

第六條

脱社シテ他ノ事ヲ爲ス者ヘハ請合ノ高ヲ與フルコトナシ但シ年老シテ隱居スルカ又ハ現ニ社ノ事ヲ辭スト雖モ他ノ商業ニ就カズシテ隨意ニ社ノ議ニ關スル者ハコノ請合ノコトニ付キ社中ト視做シテ定リノ高ヲ與フ可シ

第七條

此請合金ヲ受ル者ハ社中一同ナレモ試中并ニ臨時雇ノ人ハコレヲ除ク
試濟ノ後一ケ年ヲ經テ評議上
第一類ニ入ルハ次條ノ如シ
但シ入社退社其外ノ事故ニ由リコレヲ受ク可キト人ノ姓名ハ卷末ニ記シ置キ時々増減アルベシ

第八條

吾社中ニ來ルモノ商業稽古人
中年或ハ小僧ノ類ハ試濟ノ上全一ケ年ヲ經テ始テ死後請合金第一類ノ連名ニ

第二類 人保險之部

入り金十圓ヲ與フ 第一類全一ケ年ヲ經テ第二類ニ入り金二十圓ヲ與フ 第二類全一ケ年ヲ經テ第三類ニ入り働社中ト均シク金五十圓ヲ與フベシ

第九條

臨時雇ノ人ハ之ヲ除クノ法ナレモ試濟ノ上全一ケ年ヲ經テ社中ノ入札ニ由テ此連名ニ入ル時ハ上件ノ如シ

第十條

働社中ノ評議ニ由テ新ニ働社中ニ加ハル人ハ入局後ノ日數ニ拘ハラズ働分合ノ多少ヲ問ハズ第三類ノ連名ニ加フベシ金五十圓ヲ與フ

第十一條

賄所奉公人并ニ荷造方等ハ入局ヨリ全三ケ年ヲ經テ始テ第一類連名ニ入ルヲ得ベシ但シ社中評議ノ上ニテ業務方ノ人員ニ加ハル時ハ其商業ニ入ルノ年ヲ以テ第一類連名ニ加ヘ次年ヨリ之ヲ倍スコト一般ノ例ノ如シ

巳辰卯寅丑子亥

早矢仕有的

丁巳 酉一 八月一 生日

三	次	半	七	巳	壬	巳
澤	井	秀	造	巳	辰	一
大	塚	熊	吉	午	三	三
鬼	頭	良	助	午	三	三
柴	田	安	藏	戊	午	三
				戊	九	三
				月		月
				生	月	月
						日
						生日

(以下省略)

プロビデント會社横濱代理店

明治九年

讀賣新聞 第五六一號 明治九年十二月五日

横濱六十七ばんのホールとか云ふ佛國人（がらふじん）は是まで外國人ばかりの、ライフ、インシュアランス（人の命を保護する法）をして居りましたが今度また日本人でも受合ふと云ふ

明治十年

讀賣新聞 第六九九號 明治十年五月二十一日

東京日々新聞 第一六五七號 明治十年六月十三日

下名今般日本國人性命請負の依頼擔當の委任をプロビデント、クラルクス、マチュアール、ライフ、インシュアランス（英國龍動に有之性命會社の名）の總理より受け性命會社を立て廉價を以て擔當す

概則

生命保險ノ廣告

(3)

(2)

年齢滿二十五才の者は每一ヶ年金額十二弗の掛金を以て性命請負の依頼擔當可申已に擔任の後其依頼人死去する時は同人親族へ當社より金額五百圓相渡可申年齢二十五才以下は其掛金これより増減あるべし爾餘の詳悉下名へ御訊問可被下也

横濱六十七番

ジョン、ウキルリアム、ホール

日東保生會社

明治十二年

創立願

別冊日東保生社創立願書其他書類等差出候間至急御進達被成下度此段奉願候也

東京府下廻町區下六番町四十五番地平民

明治十二年九月十三日

若山儀

東京府知事 楠本正隆殿

日東保生社創立願 (4)

創立願書 (5) 提出

愚等竊ニ惟ルニ凡ソ世ノ最モ憂フヘキ者後ノ備ナキヨリ大ナルハアラス王制ニ曰ク國ニ三年ノ蓄ナキハ國其國ニ非スト儲蓄ノ要亦急ナルカナ是ヲ以テ皇邦支那ノ古先哲王荒政ニ備フルヲ以テ最モ重シト爲ス泰西諸國當初亦其備アリ輒近其制漸ク衰替ニ屬シ復之ヲ講スル者稀ナリ蓋シ聞ク渾輿ノ人民其數無慮一十億ニシテ誠ニ能ク其地力ヲ盡セリト爲スヘキ者ハ猶僅ニ其面積

日東保生社創立願書

日東保生社創立願書

東京府下廻町區下六番町四十五番地平民 若山儀

愚等竊ニ惟ルニ凡ソ世ノ最モ憂フヘキ者後ノ備ナキヨリ大ナルハアラス王制ニ曰ク國ニ三年ノ蓄ナキハ國其國ニ非スト儲蓄ノ要亦急ナルカナ是ヲ以テ皇邦支那ノ古先哲王荒政ニ備フルヲ以テ最モ重シト爲ス泰西諸國當初亦其備アリ輒近其制漸ク衰替ニ屬シ復之ヲ講スル者稀ナリ蓋シ聞ク渾輿ノ人民其數無慮一十億ニシテ誠ニ能ク其地力ヲ盡セリト爲スヘキ者ハ猶僅ニ其面積

(5) 日東保生社創立願書

明治十二年九月十三日
東京府下廻町區下六番町四十五番地 平民 若山儀
東京府知事楠本正隆殿

十分ノ一ニ過キス而シテ凶荒頻ニ臻ル者ハ唯其上暴虐ニシテ政治宜ヲ得ス下亦卑陋無智ニシテ苟モ安ヲ食リ田野開ケス耕耘務メサルノ國ニ限ルノミ其政文明ニ其俗開化シ野ニ曠土ナク民ニ冗食ナキ國ニ在テハ歎歲飢饉其來ル極メテ稀ナリト然則チ政治愈々寬明ニ人智益々通暢スルニ隨テ農耕ノ術亦其精妙ヲ究メ昔日ニ在テ特リ元行ノ威ニ任シテ其勢ヲ擅ニセシメタル者今日ニ在テハ乃チ能ク人カヲ用ヒ之ヲ克制スルヲ得ルヲ以テ生人既ニ庶シト雖穀米常ニ足ルニ由ルナリ宜ナリ歐米諸國ノ荒政ニ備フルヲ怠ルヤ而シテ是唯食ニ就テ言フノミ若夫レ有季穀多クシテ餘アリ衣賤フシテ棄ルカ如シト雖モ民猶身ニ襁褓ヲ纏ヒ面ニ菜色アル者寡カラス故ニ泰西官ニ濟貧法アリ以テ窮乏ヲ賑恤シ野ニ仁者アリ結社釀金シテ之ヲ給養ス蓋シ所謂濟貧法ノ制タル官ノ府庫ヲ發イテ之カ賑乏ニ給スルカ如シト雖其實ハ富者ニ課スル所ニシテ即此民ヲ損シテ彼民ヲ益スルナリ仁者ノ義捐モ亦然リ止其上ノ令スル所ヲ待ツト自ラ出テ施ストノ異アルノミ而シテ動モスレハ狡胥黠吏カ利ヲ營ムノ資トナルノミナラス且懶民カ惠ニ馴レ施ヲ貪ルノ媒トナルノ弊アルヲ免レス安ソ之ヲ窮民ヲ救フノ長策ト謂フヘケンヤ然リト雖モ愚等此美舉ヲ以テ敢テ益ナシト爲スニ非ス苟モ人ニシテ豈同類ノ慘狀ヲ路視スルニ忍ンヤ但一旦良心ニ感觸スル所階タ切ナルヨリ之ヲ恤ムニ急ニシテ熟ク之ヲ圖ラサルトキハ却テ冗食懶民ノ爲ニ地ヲ爲ス而已ニ

シテ其仁爲ヲ空徒ニ屬センコトヲ恐ル、ノミ然ハ則チ之ヲ爲ス如何曰ク民ヲシテ自ラ其用ヲ節スルヲ知ラシメ併テ之ヲ勵マスニ在ルナリ蓋シ日ニ一錢二錢ヲ節省スレハ其事頗ル迂濶ナルカ如シト雖モ之ヲ積ムノ久キ漸ク其驗ヲ見ルトキハ則チ之カ爲ニ勵マサレテ望ヲ將來ニ懷クテ益々盛ナルニ至ルヘシ何トナレハ其用ヲ節シ費ヲ省スル者ハ素ト其目下艱辛ノ陋狀ヲ脱シ逸樂自由ノ域ニ入ランコトヲ欲スルカ然ラサレハ老境ノ安息ヲ期シ兼テ子孫ノ計ヲ爲スニ在ルカ故ニ進一進步一步倍々其鴻的ニ近クヲ以テナリ是故ニ此ノ如キノ徒ハ操ル所ノ業賤シト雖服スル所ノ役煩ハシト雖其地位日ニ進テ躬ヲ前日ト異ナルヲ覺フルヲ以テ賤業卑役モ之ヲ操ルヲ厭ハス之ヲ爲スヲ憚ラサルナリ而モ且是等ノ良民ノミ相集テ社會ヲ成ストキハ其國富强ナラサラント欲スルモ得ヘカラス之ニ反シテ人ニ素蓄ナク家ニ豫備ナク朝ニ獲テ夕ニ費シ今日ノ形狀ハ昨日ト同ク將來ノ生計ハ今日ト異ナルナキ是之ヲ口手相接スルノ俗トイフ其生ヤ實ニ望ム所ナキナリ何ヲ樂テ其心思ヲ煩ハン何ヲ願テ其肢體ヲ勞セン故ニ勞作ヲ厭ヒ辛難ヲ避ケ唯纔ニ其得ル所ヲ費シテ以テ足レリトシ偶々少シク贏餘アルモ徒ニ淫酒ニ靡シテ復後ヲ顧ミス此等ノ徒其窮極マルニ至ルトキハ或ハ人ヲ殺シ財ヲ盜ミ或ハ妻ヲ賣リ女ヲ鬻キ或ハ嬰孩ヲ掩殺シ孕兒ヲ墮胎シ其策終ニ盡ルトキハ自ラ溝壑ニ轉シテ死スルニ至ル此ノ如キハ特リ風俗ヲ頹壞セシムルノミナラス

實ニ是禍亂ノ階ナリ凡ソ此等ノ徒ハ文明開化百業大ニ進ムノ國ト雖大約其三分ノ一ニ居ル故ニ此等ノ民ヲシテ人世適應ノ營生ヲ得セシメントスルハ經濟學上最モ難解ノ疑團トナレリ而シテ此貧民ノ俗習ヲ改良スルハ實際ニ於テ甚々難シト雖然トモ此等ノ民皆怠惰ニシテ勞作ヲ厭フト謂フニ非ス又用ヲ節スルヲ欲セスト謂フニ非ス唯之ヲ節スルモ之ヲ蓄フル能ハサルノミ抑々商貨ヲ流通シ算籌ヲ把テ生ヲ爲ス者ハ能ク子母ヲ權ルノ道ヲ知ルト雖夫ノ手工ヲ以テ業ト爲シ賃雇ヲ以テ生ヲ營ム者ノ如キハ多クハ産息ノ事ヲ知ラス偶々之ヲ知ルモノアルモ朝暮ニ節省スル所ノ餘錢ハ稱貸シテ之ヲ増殖スルノ道ナキカ故ニ亦唯徒ニ費靡スルニ至ルナリ是ヲ以テ歐米諸國節用銀行ノ設アリテ幾許ノ程限ヲ定メ貧民ヲシテ瑣碎ノ餘錢ヲ寄託スルヲ得セシム而シテ託ヲ受クル者ハ之ヲ利用シ子母倍息シテ之ヲ本人ニ還ス是ニ於テ乎細民ノ利息ヲ享クルコト彊リナク終ニ能ク之ヲシテ競フテ其用ヲ節スルノ志ヲ起サシムルニ至ル豈亦無上ノ良策ナラスヤ然トモ人ノ命ヤ限アリ財ヲ積ムヤ量アリ榮辱盛衰窮達貧富ハ人世ノ常ナリ若夫レ權門貴豪威ハ赫々トシテ旭日ノ如ク財ハ疊々トシテ積山ノ如シト雖一朝蹉躓アルニ方テハ焉ソ其妻子親屬ノ路傍ニ行吟シ花子ノ群ニ入ルナキヲ保センヤ然ハ則チ之ヲ濟フノ術如何獨リ保生會社ノ設アリテ然後之ヲ能クスヘシ是歐米諸國ニ於テ保生會社ノ日月ニ多キヲ加ヘ節用銀行ト并行ハレテ能ク社

シテ其仁爲ヲ空徒ニ屬センコトヲ恐ル、ノミ然ハ則チ之ヲ爲ス如何曰ク民ヲシテ自ラ其用ヲ節スルヲ知ラシメ併テ之ヲ勵マスニ在ルナリ蓋シ日ニ一錢二錢ヲ節省スレハ其事頗ル迂濶ナルカ如シト雖モ之ヲ積ムノ久キ漸ク其驗ヲ見ルトキハ則チ之カ爲ニ勵マサレテ望ヲ將來ニ懷クテ益々盛ナルニ至ルヘシ何トナレハ其用ヲ節シ費ヲ省スル者ハ素ト其目下艱辛ノ陋狀ヲ脱シ逸樂自由ノ域ニ入ランコトヲ欲スルカ然ラサレハ老境ノ安息ヲ期シ兼テ子孫ノ計ヲ爲スニ在ルカ故ニ進一進步一步倍々其鴻的ニ近クヲ以テナリ是故ニ此ノ如キノ徒ハ操ル所ノ業賤シト雖服スル所ノ役煩ハシト雖其地位日ニ進テ躬ヲ前日ト異ナルヲ覺フルヲ以テ賤業卑役モ之ヲ操ルヲ厭ハス之ヲ爲スヲ憚ラサルナリ而モ且是等ノ良民ノミ相集テ社會ヲ成ストキハ其國富強ナラサラント欲スルモ得ヘカラス之ニ反シテ人ニ素蓄ナク家ニ豫備ナク朝ニ獲テ夕ニ費シ今日ノ形狀ハ昨日ト同ク將來ノ生計ハ今日ト異ナルナキ是之ヲ口手相接スルノ俗トイフ其生ヤ實ニ望ム所ナキナリ何ヲ樂テ其心思ヲ煩ハン何ヲ願テ其肢體ヲ勞セン故ニ勞作ヲ厭ヒ辛難ヲ避ケ唯纔ニ其得ル所ヲ費シテ以テ足レリトシ偶々少シク贏餘アルモ徒ニ淫酒ニ靡シテ復後ヲ顧ミス此等ノ徒其窮極マルニ至ルトキハ或ハ人ヲ殺シ財ヲ盜ミ或ハ妻ヲ賣リ女ヲ鬻キ或ハ嬰孩ヲ掩殺シ孕兒ヲ墮胎シ其策終ニ盡ルトキハ自ラ溝壑ニ轉シテ死スルニ至ル此ノ如キハ特リ風俗ヲ頹壞セシムルノミナラス

實ニ是禍亂ノ階ナリ凡ソ此等ノ徒ハ文明開化百業大ニ進ムノ國ト雖大約其三分ノ一ニ居ル故ニ此等ノ民ヲシテ人世適應ノ營生ヲ得セシメントスルハ經濟學上最モ難解ノ疑團トナレリ而シテ此貧民ノ俗習ヲ改良スルハ實際ニ於テ甚タ難シト雖然トモ此等ノ民皆怠惰ニシテ勞作ヲ厭フト謂フニ非ス又用ヲ節スルヲ欲セスト謂フニ非ス唯之ヲ節スルモ之ヲ蓄フル能ハサルノミ抑々商貨ヲ流通シ算籌ヲ把テ生ヲ爲ス者ハ能ク子母ヲ權ルノ道ヲ知ルト雖夫ノ手工ヲ以テ業ト爲シ賃雇ヲ以テ生ヲ營ム者ノ如キハ多クハ産息ノ事ヲ知ラス偶々之ヲ知ルモノアルモ朝暮ニ節省スル所ノ餘錢ハ稱貸シテ之ヲ増殖スルノ道ナキカ故ニ亦唯徒ニ費靡スルニ至ルナリ是ヲ以テ歐米諸國節用銀行ノ設アリテ幾許ノ程限ヲ定メ貧民ヲシテ瑣碎ノ餘錢ヲ寄託スルヲ得セシム而シテ託ヲ受クル者ハ之ヲ利用シ子母倍息シテ之ヲ本人ニ還ス是ニ於テ乎細民ノ利惠ヲ享クルコト疆リナク終ニ能ク之ヲシテ競フテ其用ヲ節スルノ志ヲ起サシムルニ至ル豈亦無上ノ良策ナラスヤ然トモ人ノ命ヤ限アリ財ヲ積ムヤ量アリ榮辱盛衰窮達貧富ハ人世ノ常ナリ若夫レ權門貴豪威ハ赫々トシテ旭日ノ如ク財ハ疊々トシテ積山ノ如シト雖一朝蹉躓アルニ方テハ焉ソ其妻子親屬ノ路傍ニ行吟シ花子ノ群ニ入ルナキヲ保センヤ然ハ則チ之ヲ濟フノ術如何獨リ保生會社ノ設アリテ然後之ヲ能クスヘシ是歐米諸國ニ於テ保生會社ノ日月ニ多キヲ加ヘ節用銀行ト并行ハレテ能ク社

會ノ福祉安寧ヲ補ケ政教風化ノ布行ヲ裨クル所以ナリ或人曰ク人民ヲシテ用ヲ節スルノ重キヲ知ラシメント欲セハ學校ヲ設ケテ以テ知識ヲ進メ理財ノ道ヲ知ラシムルニ若クナシト此言ヤ實ニ然リ然トモ人民皆白手赤貧學ニ就クノ資ナク業ヲ肄フノ違ナキトキハ教導至ラサルナク學校備ハラサルナシト雖何ヲ以テカ教ヲ受ケ業ヲ修ムルヲ得ン夫レ歐米諸國ノ如キ公學ノ制アリテ貧民ノ學費ヲ給スル能ハサル者ニハ地方ノ財産ヲ有スル者ニ分課シテ其費ヲ助ケシムト雖其教化猶普ク及フ能ハサルハ何ソヤ此等ノ細民ノ其子女ヲシテ學ニ就カシムル能ハサルハ營ニ學資ニ乏キノミニ由ルニ非ス皆之ヲシテ幼ヨリ其家業ヲ助ケシムルカ然ラサレハ他其微力ニ堪フルノ勞ヲ操リ家計ニ資セシムルヲ以テ終ニ學ニ從事スルノ違ナキニ由ルナリ故ニ學校ノ教ヲシテ周カラシメント欲セハ獨リ學費ヲ給スルノミニシテ足レリト爲スヘカラス宜ク彼レヲシテ學ニ就クノ餘暇アラシメスンハアルヘカラス學ニ就クノ餘暇アラシメント欲セハ先ツ其父母ヲシテ子女ノ助ヲ仰カスシテ學費ノ備アラシメスンハアルヘカラス凡ソ此等ノ備給悉ク之ヲ官ニ仰カシカ租稅ノ課收ヲ重クセサルヲ得ス其課收ヲ重クセンカ民ノ囂々ヲ如何セン富者ノ自ラ出テ助クルニ任センカ其費費ラレサルヲ以テ亦其能クスル所ニ非ス其理固ヨリ之ヲ強ユルヲ得ス然則チ公學ノ設アリテ細民ヲ化育スルハ十全ノ良策ナリト雖モ特リ其効ヲ最モ永遠ニ期センノミ其

間先ツ細民ヲシテ自ラ節省シテ子女ノ學ニ就クノ備アラシメスンハアルヘカラス而シテ其備アラシメント欲スレハ其節省スル所ヲシテ能ク殖息ノ驗アラシメ益々之ヲ獎勵セスンハアルヘカラス即是節用銀行ノ無ンハアルヘカラス所以ナリ然リ而シテ疾病死亡ハ命ノ定ムル所顛沛流離ハ數ノ免ルヘカラサル者ナレハ亦以テ之カ備ナクンハアルヘカラス夫レ嵬岨致々トシテ營生ニ奔走スルモ其蓄フル所未タ子孫ノ計ヲ爲スニ足ラサルニ一旦溢焉トシテ世ヲ逝ラハ其寡婦孤子何ニ藉テカ世ニ立タン食ニハ九鼎ヲ陳子身ニハ錦綉ヲ纏フモ榮枯其勢ヲ異ニスルトキハ故舊親戚誰カ憂ヲ共ニセン是世ノ情態ナリ故ニ其力猶務ニ當ルニ足リ其財尙餘リアルニ及ンテ夙ニ能ク自ラ節省シテ衰老ノ備ニ充テ子孫ノ計ヲナサハ死スル者ハ安ク存スル者ハ虞ナク而シテ失敗スル者モ亦活理ヲ得ルノ道アリ即是節用銀行アリト雖モ保生會社無ンハアルヘカラス所以ナリ夫レ醫ノ劑ヲ下スヤ必ス先ツ其病根ヲ穿ツテ之ヲ除カンコトヲ務ム之ヲ根治ノ療法ト謂フ而シテ病ヲ致スノ源已ニ多シ故ニ治法モ亦百方ナラサルヲ得ス蓋シ衰弱痿憊スル者ハ衝動保固ノ藥ヲ投シテ之ヲ補養シ傍症劇烈ナル者ハ制痛鎮痙ノ方ヲ處シテ先ツ之ヲ治メ君臣佐使調和宜ヲ得テ藥始メテ効アルナリ然トモ人身素ト自ラ良能ノ妙機アリテ病毒ヲ排逐スルニ非レハ神方仙藥モ施スニ處ナキノミ是ヲ以テ醫ノ病ヲ治ムル者ハ其實ハ唯此良能ヲ翼クルノ術ヲ行フノミ病

ヲ治ルニ非サルナリ夫レ人ニシテ親ヲ懷ヒ後ヲ慮ラサル者ハ未タ嘗テ之レアラス故ニ其用ヲ節シテ之カ備ヲ致スヲ欲スルハ即人ノ良能全ク然ラシムルナリ夫ノ徒費濫靡今日アリテ明日アルヲ知ラサルカ如キハ是其病ニ罹レルナリ而シテ其病根ヤ習慣ニ因ル者アリ已ムヲ得サルニ因ル者アリ習慣ニ因ル者ヲ治スルハ漸ク其智識ヲ開進シ徐ニ其本善ヲ化セシムルヲ要ス已ムヲ得サルニ因ル者ヲ治スルハ或ハ之ヲ勵マシテ其因ヲ除キ或ハ其因ヲ除キ兼テ之ヲ保固慰安シ施治果シテ効アルトキハ能ク其精神驅幹ヲシテ強壯ナラシムヘク寧口効ナキモ亦後顧ノ慮ナカラシム可シ夫レ初ノ因ヲ除ク者ハ病ヲシテ再發ノ患ナカラシメ且其毒ヲシテ子孫ニ遺傳セシメサルノ根治法ニシテ則チ教育ニ非レハ之ヲ能スルヲ得ス後ノ因ヲ除ク者ハ病毒ヲシテ必ラス子孫ニ遺傳セシメサルヲ保スル能ハスト雖能ク志ヲ勵マシ望ヲ將來ニ懷カシムルヲ以テ其効却テ速ニシテ且子孫ノ爲ニ此病毒ヲ除クノ備ヲ爲サシムルカ故ニ兼テ初ノ因ヲ除クノ補翼トナルナリ而シテ此治法ヲ主ル者ハ則チ節用銀行ト保生會社トナリ殊ニ保生會社ノ如キハ其用ヲ節スルヲ勵マスノ力アルト恰モ節用銀行ノ如クニシテ猶其後顧ノ慮ナカラシムルヲ以テ託者ノ心身ヲ強固スルノ功アリテ其利タル萬全ナリ但夫ノ已ニ貧困ノ極症ニ陥リテ復タ救フヘカラサル者ノ如キ濟貧法ノ一劑ヲ用テ其痛ヲ癒シ其悶ヲ鎮メ其生ヲ終ラシムヘキノミ 抑愚等熱々我 邦現今ノ

景況ヲ視ルニ賤工細商ノ如キハ其用ヲ節スルニ意ヲ用ヒサルト歐米ノ賤民ニ比スルニ尙甚シキモノアリ加フルニ懶行性ヲ爲シ淫邪俗ヲ爲シ十日ニ獲ル所ヲ一日ニ費スモ顧ミルト知ラス風雨霜雹ニ方ツテハ全ク其業ヲ輟メ淫酒賭博ヲ以テ日ヲ消ス是ヲ以テ益々其資ヲ失フ故ニ此等ノ民ニシテ能ク後圖ヲナス者ハ實ニ寥寥タリ是ニ於テヤ嚮ニ所謂人ヲ殺ス者出テ財ヲ盜ム者出テ妻女ヲ鬻ク者嬰孩ヲ掩殺スル者孕兒ヲ墮胎スル者出ツ警視ノ逐捕嚴ナラサルニハアラサレ私窠鼠盜ノ屬續々トシテ出ツ是レ法ノ以テ禁スルヲ得ヘカラサル所ニシテ而シテ教ノ未タ化スルヲ得サル所ナリ蓋シ此等ノ徒ト雖モ當初亦其用ヲ節セントヲ思フナキニアラスト雖竹筒錢函ニ貯フルヨリ他策ナキヲ以テ已ムヲ得スシテ無用ニ費了スルカ故ニ終ニ亦怠惰ノ徒ト群ヲ同ウスルニ至ルナリ官此ニ見ルアリテ貯金預所ヲ設ケ以テ細民ノ私蓄ヲ寄託セシメ倍息シテ之ヲ還ス即是歐米節用銀行ノ制ニシテ實ニ我社會ノ爲ニ一大利惠ナリ然リ而シテ節用銀行ハ特リ細民ニ利アルノミ而モ其急需アルニ當テヤ之ヲ引用シテ數年蓄積ノ勞ヲ一朝ニ空ウスル者ナキニ非ス且子母殖息ノ法ナリト雖モ其生涯ニシテ積ム所ノ額ハ僅々知ルヘキノミ故ニ未タ以テ之ヲ無上ノ放債ト爲スヘカラス又子孫ノ生計ヲ改良スルニ足レリト爲スヘカラス況ヤ其積ムヲ始ムルヨリ僅ニ三兩年ニシテ死スル者ニ於テヲヤ夫ノ保生會社ノ如キハ其用ヲ節シテ後計ニ備ヘシムル

ノ志ヲ勵マスヲ猶節用銀行ノ如クニシテ其利益ハ却テ大ナル者アリ今其ノ一二ヲ舉テ之ヲ言ハシニ尋常ノ保生ヲ寄託スル者ハ其死スルニ非サレハ約スル所ノ金ヲ還付セサルヲ通則トスルカ故ニ半途ニシテ之ヲ引用シテ妻子カ給養ノ資ヲ失スルノ患ナキ一ナリ一旦會社ニ寄託スル者ハ數日ニシテ死スト雖其寡婦孤子ハ約スル所ノ金額ヲ得ルヲ以テ後顧ノ患ナキ二ナリ寄託者生存ノ間ハ毎年若干ノ金ヲ納ムヘキヲ以テ少ク平日ノ嗜好娛樂ヲ省カサルヲ得スト雖寄託者愈々多キヲ加フルキハ毎歲得利益ノ配與ヲ受クルヲ自ラ少カラサルヲ以テ自家節省ノ額漸ク些少ニシテ足ル可ク且其死スルニ當テハ是ニ至ル迄テ捐セル所ヨリ適ニ多クノ額ヲ得ルヲ以テ其益タル量ナキ三ナリ又老後ノ安息ヲ計ルカ爲ニ壯時ニ於テ每歲平均幾何ノ捐金ヲ爲シ或ハ一次ニ若干ノ金ヲ委頓スル者ハ期滿ルノ年ヨリ其約セル所ノ金額ヲ一回或ハ每歲ニ本人ニ賠償スルノ法アリ之ヲ養老金トイフ是亦此會社ニテ其託ヲ受タルナリ是等ハ節用銀行ノ無キ所ニシテ而シテ保生會社ニ於テハ日常ノ事業トナス愚等按ルニ保生術ノ彼邦ニ行ハル、ヤ久シ而シテ其盛大ヲ致シタルハ纔ニ茲ニ六七十年ナリ其間社會ニ大益アリシハ人皆之ヲ知レモ夫ノ寄託者ニシテ其死ニ至ルマテ續々捐金ヲ爲ス能ハサル者ハ設令捐スルノ年已一久シト雖其金ヲ會社ニ没入シテ復ヒ償ハサルト長生スル者ハ天死スル者ノ爲ニ徒ニ捐金ヲ爲サ、ルヲ得サリシトヲ以テ其弊ナキヲ

免レス且人亦信任スル者少カリシカ多年ノ經驗ニ因テ人命ノ中數ヲ計ル、愈々確切ニ子母倍息ノ利益々々明瞭トナリシカ故ニ嚮ノ會社ニ没入スル者ハ或ハ寄託者捐金ノ年ヲ計ツテ其子母共ニ之ヲ還シ或ハ最初ニ豫メ寄託金ヲ捐シ了ルノ年數ヲ定メ已ニ捐シテ幾年以上ニ及フ者ハ其保生金ノ幾分ヲ死スル時ニ方テ後嗣ニ與フヘキヲ約シ將タ會社カ豫算スル所ヨリ尙長生スル者ニハ從來積ム所ノ利子ヲ還シ而シテ死スル時ニ方テハ尙其初ニ約スル所ノ金額ヲ與フヘキヲ再約シ或ハ之ヲ以テ保生金ノ額ヲ増ス等百般社會ニ便スルノ方法ヲ發明シタルヨリ昔時論者ノ攻撃ヲ受ケシ所ノ弊害今ハ則チ盡ク革リ其法益々行ハル、ナリ米國ノ此新法ヲ初メテ用ヒタル某ノ會社ノ如キハ其寄託ヲ受クルノ數ト其富トハ世界第一ト稱ス夫レ此新法ノ如クニシテ始メテ貧富上下ノ別ナク齊シク其利害ヲ蒙ルヘキナリ抑々我邦細民ノ情態ハ已ニ上ニ述ルカ如ク所謂中等以上ノ商賈ト雖モ其衰頹セサルヲ保スル能ハス加フルニ近年人情頗ル輕薄ニ陥リ忍耐勞力久ヲ待ツテ財ヲ積ムヲ務メス一朝ノ機慧ヲ以テ陶朱倚頓ノ富ヲ致サント欲スル者往々是ナリ其遊計一タヒ失スルニ方テヤ負債山ノ如ク身代限トナル者項背相望ミ陸續踵テ來ル愚等又竊ニ按ルニ內國貨財ノ融通閉塞スル所以ノモノハ多クハ此等ノ徒カ商業ニ於テ缺クヘカラサル信任ヲ失ハシメタルニ出ルナリ豈歎セサルヘケンヤ又顧ミテ士族ノ景狀ヲ觀ルニ世祿ノ制廢セラレテヨ

リ 官之ニ惠ムニ奉還金ヲ以テシ或ハ金祿券ヲ以テス其恩已ニ厚カラストセス然レモ彼レ皆徒食ニ慣レテ手工算籌ヲ以テ生ヲ活スルヲ知ラサルカ故ニ或ハ細利ニ餌セラレテ習ハサルノ商業ヲ營ミ爲ニ錢幣ヲ耗スルモノアリ或ハ奸獪ニ騙セラレテ碯碯用フヘカラサルノ地ヲ購ヒ爲ニ錢幣ヲ損スルモノアリ或ハ舊染ヲ脱スル能ハス依然坐食シテ自滅スルモノアリ其最モ拙キハ之ヲ花柳ノ一夢ニ徒費シテ明日ノ糊口ニ困スルノ輩アリ街頭ノ叫商輓夫等多クハ此輩ヨリ出ルナリ其窮ヲ極ムルニ及フヤ廉耻ヲ破リ刑典ヲ犯ス₁他ノ賤民ト異ナル₁ナシ是レ固ヨリ其心術ノ拙劣ナルニ出ルト雖亦憐ムヘキナリ又仰テ 官ニ在ルノ人ヲ觀ルニ給俸多カラサルニ非サルニ尙滿年賜金ノ制アレハ恩亦至レリト謂フ可シ然レモ仕ハ未タ以テ終生ノ業ト爲スヘカラス賜金已ニ薄カラスト雖モ奉仕久シカラサル者ハ此賜ヲ以テ子孫ニ遺スニ足ラス蓋シ 官ノ世祿ヲ廢シ官吏ノ賜與ヲ大ニセサルハ國用ヲ節シ民勞ヲ省クノ仁政ニシテ愚等カ常ニ感戴スル所ナリ夫ノ官人士族ト雖モ亦遺憾ナカルヘシ愚等以爲ラク此昭代ニ生レ此恩澤ニ浴スルハ人ハ宜ク自ラ奮テ後ニ備フルノ計ヲ爲シ以テ淳然タル獨立國ノ人民タラン₁ヲ期セスンハアルヘカラス大富農ト雖モ轆軻ノ厄ナキヲ保タサレハ是亦後圖ヲ經營セスンハアルヘカラス思フニ人皆慮ヲ此ニ注カサルニアラスト雖唯其節省スル所ヲ増殖保全シ且不時ノ需ニ充ルヲ難ニスルノ

ミ愚等之ヲ憂フル者茲ニ年アリ近日私ニ有志者ト謀リ米國紐育府共持保生會社ノ制ニ倣ヒ新ニ保生會社ヲ立テ之ヲ日東保生社ト號シ以テ貴賤貧富ノ別ナク老後ノ安養ニ備ヘ妻子ノ保育ニ給セント欲スル者ヨリ初約ノ類ニ隨ヒ尋常保生金ハ二百五十圓ヨリ五千圓迄養老保生金ハ五百圓ヨリ二萬圓迄ノ寄託ヲ受ケ是カ保擔タラントス蓋シ社ノ制タル素財主ヲ募リ資本ヲ積ミ以テ保生金ノ抵當ト爲スニ非ス寄託者共ニ其捐金ヲ以テ相維持シ相救助スルナリ故ニ會社ノ經費ニ給シ非常ノ準備ニ資スルノ外社益ハ盡ク之ヲ寄託者ニ分配スルヲ以テ復株主等ニ利ヲ頒ツノ冗費ヲ要セス最モ保生會社ノ本旨ニ合フ者ト爲ス但其我 邦ニ於テ創始ノ事業タルカ故ニ著手ノ始ヨリ直ニ寄託者ノ多キヲ期スヘカラス因テ今價額金二萬圓ニ値ル所ノ公債證書ヲ 官庫ニ委頓シ奉リ又 官庫ニ仰テ同額金圓ノ恩借ヲ辱フシ暫ク社ノ準備ニ供セントス蓋シ此事果シテ 准允ヲ得テ世ニ行ハレ人民爲ニ能ク儲資ヲ有スルニ至レハ國其國トナリ家其家トナリ風俗然ルヲ期セスシテ自ラ開化シ百工然ルヲ期セスシテ自ラ進歩スヘシ仰冀クハ 閣下賢明ノ英資ヲ以テ時勢ヲ洞察シ愚等カ微衷ヲ憐ンテ速ニ會社ノ設立ヲ得セシメ賜ハンコトヲ愚等又切ニ願フ本社創立ノ日ヨリ十年ノ間同業ハ固ヨリ論ナク類似ノ營業ヲモ他ニ設立スルヲ禁シ賜ハランコトヲ是頗ル私利ヲ罔ニスルニ似タリト雖斷シテ然ルニ非ス輕薄ノ徒奸黠ノ輩カ擬似ニ敏ナル他人カ

畢生ノ力ヲ竭シテ案出シタル事業モ忽チ摸シテ其益ヲ奪ハントス故ニ同業類商比屋ニシテ起リ
 駢倒連敗スル者日常有ル所ナリ若シ此輩愚等カ爲ニ倣フテ其本意ノ在ル所ヲ察セス漫ニ激計ヲ
 企テ巧ニ甘言ヲ以テ愚民ヲ哄誘シ陷ハスニ非常ノ利益ヲ與フルヲ以テシテ其蓄財ヲ徒費セシム
 ルコトアラハ縲寡孤獨ノ頼ルナキ者一朝ニシテ忽チ其生ヲ失フコトアルヲ恐ルレハナリ是等ノ
 覆轍ヤ數々歐米諸國ニモ亦見ユル所ニシテ近クハ我 邦頻年銀行ノ陸續トシテ興レル亦是擬似
 ニ敏ナルノ一證ナリ而シテ利子割合ノ頗ル貴キト紙幣發行ノ特許ヲ得クルト其社員タル者多ク
 ハ資力餘リアルノ故トヲ以テ幸ニ未タ倒ル、者ヲ見スト雖其中有識ノ者ハ已ニ同業ノ多キヲ厭
 フト聞ク今愚等カ茲ニ設立セント企ツル會社ノ制ノ如キ寄託者ノ捐金ヲ以テ之ヲ維持シテ猶贏
 アルニ足ルカ故ニ敢テ大利ヲ罔ミスルヲ要セス廉直信實ヲ以テ專ト爲シ廣ク衆庶ト福益ヲ共ニ
 セントスルナリ是ヲ以テ直ニ工業貿易ニ益セスト雖モ四民ニ利惠ヲ與ヘ治化ノ萬一ヲ裨フニ於
 テハ恐クハ他ニ比スヘキモノ多カラサルヘシ然レトモ創立ノ際或ハ其理ヲ解セサル者ノ疑ヲ惹
 カンコトヲ恐ル因テ姑ク 官ノ保護特許ヲ蒙ラハ能ク其惑ヲ解キ用ヲ節シ後ニ備フルノ道ヲ知
 ラシムルノ功愈々速ナルヘシ乃チ今已ニ委頓シ奉ルノ資アツテ猶準備ノ恩借ヲ 官庫ニ仰クモ
 蓋シ此意ナリ因テ會社ノ規則ト寄託人約條ト會社事務ノ大畧諸表竝ニ用紙ノ數式トヲ副ヘ謹テ

之ヲ左右ニ請フ閣下寬仁愚等カ鹵莽ヲ咎メ斯特ニ微衷ノ在ル所ヲ諒セラレ速ニ 准允ヲ賜ラハ
 何ノ幸福カ之ニ若ン膏ニ愚輩ノ幸福ナルノミナラス又惟社會ノ大幸ナラント云尊嚴ヲ冒瀆ス恐
 懼ノ至リニ堪ヘス頓首再拜

東京府下麴町區下六番町四十五番地平民

若 山 儀 一印

明治十二年九月十三日

東京府知事 楠 本 正 隆 殿

(6)

日東保生
社規程
資本金ノ
事

會社資本金ノ事

日東保生社規程

一 當會社ハ米國紐育州ニ行ハル、互相共持社ノ制ニ倣フテ組立タル者ナレハ會社ノ資本金ト
 稱スルモノハ別ニ積立置コトナク寄託人カ各々本社ヘ捐スル所ノ掛金ヲ以テ相互ニ保生ヲ
 託スルモノトス然レトモ當初寄託人ノ數未タ必ス多キヲ期スル能ハサレハ隨ツテ其掛金モ
 亦多キヲ期スヘカラス而シテ掛金ノ總數命數表ノ豫算ニ循ツテ會社ニ蓄フヘキノ準備金額
 ニ充ル能ハサルトキハ共ニ會社ヲ維持スヘカラスト雖モ寄託者ノ漸ク増殖スルニ隨テ準備

第二類 人保險之部

二二

金モ亦自ラ多キヲ加フルヲ以テ前ノ如キ維持スヘカラサルノ危険ニ遭遇スルカ如キハ非常ノ變災アルニ非サルヨリハ萬々ナキヲ保スヘシ然レトモ今會社創立ノ際ナレハ寄託者ノ心ヲ安ンセンカ爲ニ

官庫ニ仰キ金貳萬圓ヲ拜借シ奉リ之ヲ會社ノ豫備金トナシ連年得ル所ノ總益ノ中ヨリ十年ヲ期シテ之ヲ返納セント定ムルナリ

得益金處分ノ事

會社得益金處分ノ事

一 當會社ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ヲ以テ會計年度トナシ其翌年一月ヲ以テ前年ノ出納總額ヲ較算シ殘ル所ノ金高ヲ以テ純益金トシ各寄託者ノ掛金ノ年數及金高ニ隨ヒ之ヲ分配スヘシ因テ今出納ノ要目ヲ條列シ純益金ノ出ル所ヲ明ニス

會社ノ納金ニ屬スル者ハ

一 寄託者ノ掛金

一 違約收入金

一 貸金利子

一 所有物ヨリノ上リ高

其出金ニ屬スル者ハ

一 會社諸入費

一 遺族ニ與フル保生金

營業事務ノ事

一 解約割戻金

一 保生金增高

大略右ノ如シ右ノ中ヨリ各寄託者ノ爲ニセル準備金ヲ引去リ竝ニ會社ノ積金ヲ引去リタル殘額ヲ以テ純益金トス之ヲ各寄託者ニ分配スルナリ

會社營業事務ノ事

一 保生ヲ託スル者アルハ其求ムル所ノ保生金高ニ準シ相當ノ掛金ヲ定メ各寄託者カ望ム所ノ保生證書ヲ發行スルコト

一 諸人ノ需メニヨリ公債證書其他確實ナル抵當物ヲ收メ通常貸付ヲ爲シ又借主ノ都合ニヨリテハ尋常貸付ノ外公債證書等ノ抵當アル貸付證書及ヒ確實ナル銀行ノ爲換手形定期預金證書其他信用スヘキ約束手形等ヲ以テ割引貸ヲナスコト

一 凡ソ當會社ハ役員ノ手引ヲ以テ申出ル者殊ニ所謂ル周旋人ナル者ノ手引ヲ以テスル者ニハ決シテ貸付ヲ爲サズ本人直ニ會社ヘ來リ社長ヘ申談スル者ニノミ貸付タルコト

但社長ト雖モ書記役等ノ協議ヲ經スシテハ一切貸金ノ權利ヲ有セサルコト

一 當會社ノ休業ハ毎月月曜日其他定式ノ祝日國祭日ニ限ルヘシ

一 當會社ノ營業取扱時間ハ定式又ハ臨時ノ休暇ヲ除ク外毎日午前第九時ヨリ午後第三時迄タルヘシ

會社領店處分ノ事

- 一 萬一非常ノ變災アリテ會社領店ノ時ニ至リ其負債ノ義務ヲ負フノ場合ニ於テモ各寄託者ハ既ニ納メタル掛金ハ棄捐スルニ至ラサルハ勿論或ハ其爲ニ生スル相當ノ利子配當金ヲモ得ヘシ之カ爲メニ會社ニ於テハ資產權利ニ屬スル諸物件ヲ抛テ至當ノ處分ヲナスヘシ尤役員身元保償金ハ悉皆之ニ充ツヘシ

會社役員ノ事

會社ノ役員ハ左ノ如シ

- 社長
- 司數課
- 診查課
- 書記課
- 檢算課
- 出納課

以上各課ノ事務ヲ分擔シ苟クモ會社ノ役員ト稱スル者ハ傭斷ノ者ヲ除ク皆會社ヘ保生ノ寄託ヲナシ而シテ本人在職中其保生金ヲ以テ身元保償ニ充ツヘシ然レトモ本人羸弱ナルカ其他ノ事故アリテ會社ニ於テ保生ヲ許ス克ハサル者ハ其給料ノ中ヨリ更ニ積立金ヲ爲サシメ之ヲ保償ニ充ツヘシ但此保償金ト稱スルモノハ本人失措アリテ會社ニ損失ヲ負ハシメ又ハ會社領店ノ時ニ際シ負

債ノ償ニ充ル等ノ爲ニス

會社紹介人ノ事

- 一 會社ト寄託人トノ便利ヲ圖リ各地ニテ身元アルモノト締約シ寄託ノ紹介ヲナサシムヘシ
- 一 凡紹介人ハ必ス自身會社ヘ保生ヲ託スルモノニ限ルヘク又身元金トシテ常ニ五百圓以上ノ金額又ハ其實價アル抵當物ヲ會社ヘ納メ置クモノトス尤モ此身元金ハ寄託金ノ高ニ應シ此額ヨリ増サ、ルヘカラス
- 一 紹介人ハ自身カ紹介セシ寄託人ノ掛金高ニ應シ會社ヨリ相當ノ手数料ヲ與フルモノトス
- 一 紹介人ハ寄託人ヨリ手数料又ハ紹介ノ爲ト號シ或ハ其他ノ事ニ託シ金子贈物等ヲ受ルヲ許サス若シ此ノ如キ所爲アルトキハ直ニ其任ヲ解キ身元金ヲ會社ニ没入スヘシ
- 一 凡紹介人ノ職務トスル所ハ寄託人ヲ會社ヘ紹介スル迄ニ止リ其他會社ノ指示ニ從ヒ寄託人ヨリ保生依頼書ヲ受取り之ヲ會社ヘ遞送シ及ヒ寄託人ノ代理トナリ掛金受取書ヲ齎シ或ハ郵送シ保生證書ヘ記入ヲ求ムル等ノ事ニ限ルヘシ
- 一 紹介人ハ常ニ會社ヨリ附與スル所ノ命令書ヲ攜帶スヘシ此命令書ヲ所持セサル者ハ會社ノ紹介人ト認ムヘカラス

第二類 人保險之部

報告ノ事

保生證書
種類ノ事

終身保生

- 一 紹介人ハ會社ニ代ツテ寄託者ト約束ヲ結フコトヲ許サス又會社ハ紹介人ノ名義ヲ以テ他人ト約束ヲ爲スヲ許サス其他自己專斷ニテ取扱タルコトヲ以テ會社ニ其責ヲ負ハスルヲ得ヘカラス
 - 一 都テ會社ノ則ヲ犯シ其他取扱上ノ不都合ヲ以テ會社ヘ損失ヲ負ハスル事アルカ又ハ寄託者ニ詐僞ノ情アルヲ知テ庇隱シタルコト等アルトキハ其身元金ハ會社ヘ没入スヘシ但償フヘキ損失アリテ身元金ニテ引足ラサルハ猶資力限り取立ツヘシ
 - 一 紹介人ノ使役スル手代等ノナシタルコトハ勿論會社ニ於テ關係ナキモノトス
- 會社報告ノ事
- 一 會社ハ毎年度精算ノ上損益勘定其他寄託増減表ヲ作り竝ニ壹年度内事務ノ顛末ヲ詳記シタル考課狀ヲ添ヘ之ヲ大藏省ヘ申牒スヘシ
 - 一 寄託者等ヘノ報告ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ毎年度之ヲ執行スヘシ

保生證書種類ノ事

會社ヨリ發行スル處ノ保生證書ヲ分ツテ九種トナス其類別ノ目左ノ如シ

第一類 尋常終身保生證書

平均年賦掛金

寄託者死後受取ラント欲スル金額即保生金ナリ以下之ニ依ヘノ多寡ニ從ヒ本人生存中會社ニ捐スル處ノ掛金ヲ平均年賦トナシ保生年度寄託ノ締約ヲナシ最初掛金ヲナシタル日ヨリ滿壹ケ年ヲ以テ其人ノ保生年度トナシ以後掛金ヲナス毎ニ同シク滿一年ヲ以テ保生年度トナス其年度内ヲ保生證書有効期限トシノ始メ毎ニ之ヲ會社ヘ納ムルモノトス其他毎六ケ月或ハ毎三ケ月ニ掛金スルノ約束アリト雖凡同シク年賦ノ掛金ヲ分割セシノミニシテ保生年度ハ同上滿壹年トス

第二類 尋常終身保生證書

限年掛金

年限ヲ定メテ掛金ヲナスノ法ニシテ余ハ第一類ニ同シ然レトモ此限年掛金ノ分ハ最初定メタル約束ノ期限滿ルニ隨ヒ掛金モ亦納メ濟トナル故ニ其後幾數年寄託者生存ストモ會社ヘ掛金ヲ爲スニ及ハス且會社トノ約束ヲ破ルニ非サルヨリハ都テ一生涯保生證書有効期限トナス

第三類 尋常終身保生證書

一次皆濟掛金又拂濟證書云

寄託金ヲ締約ノ始メニ皆濟スル方法ニシテ本人違約ナキニ於テハ都テ一生涯保生證書有効期限トス又第一類第二類ノ寄託者三年度以上掛金ヲ爲シタル後止ヲ得サル事故アリテ掛金ヲナス能ハサルトキハ寄託者ノ請求ニヨリ既ニ納メタル掛金高ヲ合シテ此拂濟證書ニ作り其金高ニ應シタル保生金ヲ遺族ニ渡スヘキ約束ヲナス事ヲ得ヘシ然ルニ於テハ曩ニ渡シタル保生證書ハ無効ニ歸スルヲ以テ之ヲ會社ヘ差戻スモノトス

養老保生

第二類 人保險之部
第四類 養老保生證書

寄託者自己ノ年齢何歳ニ至リシキ保生金ヲ受取ランコトヲ約スル證書ニシテ若シ期スル處ノ年齢ニ至ラサル前本人死去スルキハ保生金ハ遺族へ受取ルヲ得ルモノナリ而シテ其掛金ノ方法ハ第一第二第三類共寄託者ノ望ミニ任スヘシ

婦人保生

第五類 婦人保生證書

寄託者死後自己ノ妻一身上使用ノ爲メニ供スル約束ニシテ其掛金ノ方法ハ第四類同様各好ミニ随フヘシ

幼年豫備

第六類 幼年豫備證書

寄託者子女ノ爲ニ供スル學資或ハ嫁妝等ノ爲ニ費ス所ヲ慮リ其子女幼稚ノ頃ヨリ會社へ寄託シ則子女ノ年齢何年ニ至リシキ幾何圓ヲ受取ランコトヲ約スルモノナリ其掛金ノ方法ハ第一二三類トス尤此類ノ保生證書ハ其幼年者期スル處ノ年庚ニ至ラサル前死スルキハ寄託掛金ヲ差戻ス者トス

幼年豫備保生

第七類 幼年豫備保生證書

前項ノ如クニシテ尋常養老保生證書ト同シク其幼年者期スル處ノ年庚ニ至ラサル前死スルキ

年賦割渡保生

第八類 年賦割渡保生證書

ハ保生金ヲ與フルコトヲ約スルモノナリ然レモ此約束ヲ爲スヲ得ル幼年者ハ滿十年以上ノ者タルヘシ

年金保生

第九類 年金保生證書

尋常保生證書ト同様ニシテ只死後遺族へ渡ス保生金ヲ若干年ノ間年賦又ハ一生涯ノ年金トナシテ受取ランコトヲ約スル者ニシテ其掛金ノ方法ハ第一第二第三類共寄託者ノ望ミニ任スヘシ
寄託者幾何圓ノ金額ヲ最初ニ會社へ納メ其年或ハ何年後ヨリ保生金受取人一生ノ間毎年若干圓ヲ會社ヨリ與フヘキ約束ヲナスモノナリ
以上保生證書ノ類簡便ヲ要スルカ爲ニ九類ニ分ツト雖モ實驗ノ上増減スルコトアルヘシ

寄託人心得並約條 (7)

寄託人心得並約條

第一條 尋常終身保生金高ハ貳百五拾圓ヨリ五千圓マテニ限ルヘシ尤モ養老保生金高ハ此限ニアラス

第二條 寄託人ノ年齢ハ會社ト結約シタル當日ニ最モ近キ誕生日ヲ以テ起算スヘシ

第三條 凡ソ寄託者ハ本人躬ラ會社へ來リ本社醫員ノ診査ヲ受ルニ非レハ約定ヲ爲サルヘシ

且手数料トシテ金五拾錢ヲ會社ヘ申受クヘシ

但本人舊患アルカ又ハ其他ノ事故ニヨリ會社ニ於テ約定ヲ謝絶スル場合ニ於テモ本條ノ手数料ハ會社ヘ申受クヘシ

第四條 會社ヘ寄託セント欲スル者ノ住所本店支店ヨリ遠隔ナルトキハ都合ニヨリ書狀ヲ以テ申入ル、モ妨ケナシ會社ニ於テハ寄託手續書及依頼書用紙ヲ郵送スヘシ然ルニ於テハ其地ニ居住スル西洋醫ニシテ最モ醫術熟達ノ人ニ身體ノ診查ヲ乞ヒ以テ本店ノ診查ニ代ルヲ得ヘシ尤モ診查醫員ノ記入スヘキ緊要ノ稜ハ壹ケ條タリ凡畧記スルヲ許サス

但寄託者ノ申込狀ニハ貫族居所等明瞭ニ記載シ五錢ノ郵便切手ヲ封シ込ミテ送ルヘシ且又本條ノ場合ニ於テ其寄託者ノ最寄ニ會社ノ命スル所ノ紹介人アルキハ之ニ通知シテ本條ノ手續ヲ爲サシムル事アルヘク又手数料ヲ申受クルノ前條ノ如クナルヘシ

第五條 寄託者本府下住居ノ婦人ニシテ會社本店ヘ來リ醫ノ診查ヲ受ルノ煩ハシト思フキハ本人ノ情願ニヨリテハ會社ヨリ醫員ヲ其自宅ヘ差出スコアルヘシ然ルキハ金五拾錢ノ診察料ヲ申受ヘシ

第六條 寄託者自身又ハ紹介人ヲ經由スルトニ拘ラス保生ノ約束ヲ請フキハ會社ヨリ渡ス處ノ

依頼書用紙ニ條列スル事項ヲ詳記シ之ヲ會社ノ本局ヘ差出スヘシ尤モ掛金ヲ會社ヘ拂ヒ社長並書記役ノ調印セル受取證書並保生證書ヲ渡ササル以前ハ會社ニ於テ結約シタルモノト見認サルヘシ

第七條 前條書面ヲ差出ス前及醫員ノ診查前ニ豫メ掛金ヲ預ケ置カント欲スル者ニハ別段ノ受取證書ヲ會社ヨリ渡シ置キ其金額ヲ預ルヘシ尤モ本人檢査ノ後コレヲ相當ナリト見認スシテ約束ヲ斷ルキハ其金額ヲ差戻スヘシ

第八條 寄託金ノ割合ハ別表ノ通りニシテ本人ノ年齢ト皆納期限ノ長短ニヨリ各金高ニ差異アリ

第九條 保生證書ニ定メタル場所ノ外或ハ不健康ノ場所等ヘ旅行又ハ轉居スルキハ豫メ會社ヘ其事ヲ申出スヘシ會社ニ於テハ尋常掛金ノ外別段ニ割増シノ掛金ヲ爲サシムヘシ

第十條 保生證書ニ條列セル如キ危險ノ職業ヲ爲ス者ハ會社ニ於テ其寄託ヲ受ケサル可シ又從來會社ニ寄託ヲ爲ス者危險ノ職業ニ轉シ或ハ之ヲ兼業ニセントスルキハ豫テ會社ヘ申出ツヘシ會社ハ見込ニヨリ寄託ヲ斷ルカ又ハ別段ノ掛金ヲナサシメ之ヲ許スコアルヘシ
但前條本條共其許諾ヲ爲スルハ社長書記役ノ調印セル許諾證書ヲ交付スヘシ且別段ノ掛金

ニハ利益ノ配當ヲナサハルヘシ

第十一條 凡寄託者其親族ノ爲又ハ債主債主ノ爲ニ保生ヲ託スルハ譬ハ寄託者幾何ノ負債アリテ返済スルハ其身ヲ以テ保生ヲ託シ法ノ如ク掛金ヲ爲シ死後保生金ヲ以テ債主ニ償フヲ約ス 或ハ甲乙組合ニテ營業ヲ爲ス者甲乙ノ二人合併シテ各資本ノ半額ヲ出金シテ業ヲ營ム者其中乙ノ中 託シ置キ一方死スルハハ殘ル一方ヘノ爲ニ保生ヲ託スルヲ得ヘシ受取ルヘキ約ヲナシ置クモノヲ云フ

第十二條 子女養育ノ爲メ又ハ學資或ハ嫁妝等ノ爲メ或ハ其子女特ニ一家ヲ立ル爲ニ幼稚ノ頃ヨリ會社ヘ積金ヲナシ其子女ノ年齢若干ニ至リシハ幾何ノ金ヲ受取ラン事ヲ乞フノ約束ヲ爲スヲ得ヘシ

但右期限前ニ其子女死スルハ掛金ハ之ヲ寄託人ヘ返附スヘシ

第十三條 又前條ノ如キ約束ニ兼テ保生ノ約束ヲモ爲スヲ得ヘシ然ルトキハ期限内ニ其子女死スレハ約スル所ノ保生金ヲ渡シ存生ニテ期限ニ至レハ同ク之ヲ渡スヘシ

但保生ノ約束ヲ兼ルモノハ其子女ノ年齢滿十歳以上ニ限ルヘシ

第十四條 凡保生證書ハ負債其他已ムヲ得サル事故ノ爲ニ遺族年金保生證書ヲ除ク外 他人ニ讓渡ス事ヲ得ヘシ尤然ルハ本人自身カ或ハ書狀ヲ以テ其事ヲ會社ヘ申通シ且讓受人ハ自身或ハ代人ニテ會社ヘ右保生證書ヲ持參シ裏書ヲ乞フヘシ

但保生ヲ託セル身體ハ寄託者本人タルヘク掛金モ亦本人ヨリ納ムヘシ若シ本文ノ手續ヲ經スシテ他人ヘ讓渡スル會社ハ悉皆保生證書ニ載ル所ノ義務ヲ負ハサルヘシ

第十五條 凡尋常保生ヲ寄託スル者三年以上掛金ヲナシタル後止ヲ得サル事故アリテ掛金ヲナス能ハサルハ其願ニヨリテハ保生證書ヲ會社ヘ差戻シ解約割戻金ヲ受取ルヲ得ヘシ又從來納メタル掛金高ニ相當セル保生金ヲ死後遺族ヘ渡サンコトヲ望ムハ保生證書ト引換ニ拂濟證書此拂濟證書ヲ受取タル後ハ一次掛金ト同シク以後掛金ヲ爲スニ及ハス ヲ交付スヘシ尤一次掛金及ヒ限年掛金ニテ既ニ掛金ヲ納メ濟タル分ハ解約割戻シヲ求ムルヲ得ヘカラス

但第四回掛金期限ヨリ三十日前ニ其事ヲ會社ヘ申通スヘシ且本條ノ手續ヲ經タル後前ノ約東ニ恢復センヲ求ムルモ新ニ寄託スル者ト同一ナル手續ヲ經ルニ非レハ之ヲ許サス

第十六條 保生證書ハ其保生金ヲ死後一次ニ遺族ヘ渡スト又ハ年々ニ渡ス遺族年金 ト或ハ寄託者何歳ニ至リシハ受取ル等ノ種類ヲ分ツヘシ且其事ハ依頼書中ニ豫メ記載スヘシ

第十七條 凡寄託者其妻及ヒ子女ノ爲ニ保生ヲ託セシモノハ何様ノ事故アリテ解約割戻シヲ求ムルヲ得ス尤掛金高貳百圓ニ滿ルモノハ其事狀ニヨリ拂濟證書ヲ交付スヘシ

第十八條 凡寄託者遺族年金ノ爲ニセル保生證書ハ前條ノ手續ヲ爲スヲ許サス然レハ掛金高三

百圓ニ滿ルキハ其望ニ應シ拂濟證書ヲ交付スヘシ

但本條並ニ十六七條トモ保生證書ハ之ヲ會社ニ差戻スヘシ

第十九條 凡保生證書ニ條列セル約束ハ一ヶ條タリモ社長並書記役ノ調印セル許諾證書ヲ得ルニ非レハ之ヲ變スルヲ得ヘカラス又寄託者保生證書ニ載スル所ノ義務ヲ遂ケスシテ約束ヲ破ルキハ會社ニ於テハ約束ノ義務ヲ負ハサルヘシ

第二十條 凡保生證書ニハ金高ニ應シ相當ノ證券印紙ヲ貼用スヘシ

但印紙代價ハ寄託人ヨリ差出スヘキモノトス

第二十一條 凡掛金ハ會社ト結約シタル當日ニ納ムヘキモノトス又年々納ムヘキ約束ナレハ其

壹ヶ年分 壹年四回ニ納ムヘキ約
東ナレハ其三ヶ月分 會社ヘ入金シ其餘ハ毎年度ノ初メニ入金スルモノトス其期日ヲ

經過スルモ斷リナク入金ヲ怠ルキハ既ニ納メタル掛金ハ會社ヘ沒收シ保生證書ノ約束ハ無効ニ屬スル者トス

但納金期日ヲ超ヘタリモ猶三十日間ニ本人自ラ會社ヘ來リ其事故ヲ陳述シ掛金ヲ納ムルニ於テハ前約定ヲ接續スルヲ得ヘシ尤モ出金ヲ怠リタル日數ニ應シ掛金高ヘ年壹割ノ利子ヲ加ヘ會社ヘ取立ツヘシ然レモ保生金貳千圓以上ノ分ハ初託ノ時ト同一ノ手續ヲ經ルニ非レ

ハ之レヲ許サス

第二十二條 寄託者納金期日ヲ怠リ猶三十日ヲ過クルキハ前約定ノ接續ヲ求ムル共最初約束ヲナシタルキノ手續ヲ經ルニ非レハ之レヲ許サス

第二十三條 婦女ニシテ寄託スル者ハ年齡十四年ヨリ五十年マテハ初託ノ時掛金ノ外保生金額貳百分ノ一ニ當ル金高ヲ別段會社ヘ納ムヘシ五十一年以上ハ通常掛金ト同シ

第二十四條 寄託者掛金ノ少ナキヲ欲スルタメ故サラニ年齡ヲ匿シ或ハ死ニ至ルヘキ病根アルヲ隱シテ約定ヲナシタル後發覺スルニ於テハ會社ハ其寄託ヲ斷ルカ又ハ掛金ノ割合ヲ引直サスヘシ

第二十五條 前條ノ如ク會社ニテ寄託ヲ斷ルカ又ハ寄託者掛金ノ割合引直シテ肯セサルキハ既ニ納メタル掛金ハ會社ヘ沒入スヘシ

第二十六條 前條ノ如キ詐僞ノ爲ヲ以テ受取タル保生證書ハ會社ニ於テ第十五條ノ手續ハナササルヘシ

第二十七條 掛金受取證書ニハ社長書記役ノ調印スルモノトス此受取證書ナキニ於テハ掛金ヲナシタル効ナキモノトス

第二十八條 寄託者曩ニ若干ノ保生金ヲ受取ランコトヲ契約セシ後都合ニヨリ保生金高ヲ減少セシコトヲ欲スルキハ前ノ保生證書ト引換ニ別ニ欲スル處ノ金高ヲ約セル保生證書ヲ受取ルヲ得ヘシ尤其歳ヨリ掛金ノ高ヲ其割合ニ隨テ納ムヘシ

但手數料五拾錢ヲ會社ヘ取立ツヘシ

第二十九條 寄託者ノ望ミニヨリテハ三ヶ年以上納金セシ者ヘハ解約割戻金ノ割合ヲ計算シ會社ニ於テ其金高ヲ記セル融通手形ヲ交付スヘシ

但賣却讓與ヲ許サル保生證書ハ此限ニ非ス

第三十條 寄託者死去スルキハ直チニ之ヲ會社ヘ報知スヘシ會社ニ於テハ死去證書用紙ヲ遺族ヘ渡スニ付其用紙ヲ受取タル日ヨリ遅クモ一ヶ年ノ内ニ用紙ニ條列セル事項ヲ記入シ醫員ノ診斷書及ヒ死去届ノ寫ニ郡區役所ノ檢印ヲ受ケ併セテ會社ヘ差出スヘシ會社ニ於テハ相當ノ檢査ヲナシ其書面ヲ差出セル日ヨリ六十日後ニ保生證書及掛金受取書ト引換ニ約束ノ金高ヲ保生證書名宛人ヘ附與スヘシ

但急病ニシテ醫ノ治療ヲ受ケサル時間本人死去セシキハ死體檢案書ヲ差出スヘシ

第三十一條 寄託者死後一時ニ保生金ヲ受取ルコトヲ欲セスシテ年々ニ遺族ヘ割渡サンコトヲ望ム

片ハ會社ニ於テ其請求ニ應スヘシ且割渡スヘキ金高ハ會社ヨリ毎年相當ノ利子ヲ添ヘテ渡スヘシ

但本條ノ如キ約束ヲ爲サントセハ前ノ保生證書ト引換ニ寄託者ノ望ニヨリ死後ニテモ他人ヘ賣却讓與スルヲ得サル旨ヲ證書面ヘ掲載スヘシ

第三十二條 寄託者ノ死後保生金ヲ受取ルヘキ者其寄託人ヨリ前ニ死失スル等譬ハ寄託人妻ノミ本夫ヨリ前ニ死スルヲ以テ保生金ヲ受取ルヘキ者ナキト云フノ事故アリテ受取ルヘキ者無キハ公ケノ遺物相續法ニ從ヒ所置スヘシ

但此所分ニ付テノ費用ハ其受取人ヨリ辨償スヘシ

第三十三條 保生金ヲ受取ルヘキ親族全クナキニ於テハ該金高ニ應シ其十分ノ一ヨリ少カラス十分ノ二ヨリ多カラサル金高ヲ埋葬及ヒ祭資料トシテ死家ヘ附與シ其殘額ハ之ヲ會社ヘ積立置キ流行病其他ノ事故アルニ際シ適宜ノ救恤ヲ行フヘシ

但埋葬祭資料等ノ取賄ハ都テ死者ノ朋友看護人隣佑人等ノ協議ニ任スヘシ

第三十四條 前條ノ執行ヲナシタル後縁類等ノ故ヲ以テ保生金ヲ受取ランコトヲ申出ルモノアリ共都テ無効ノ者タルヘシ

第三十五條 寄託者自己ノ意ニ出ルト出サルトニ拘ラス又癡狂ニ罹ルト罹ラサルトニ拘ラス自殺スルキハ會社ニ於テハ保生證書ノ約束ハ無効ノモノトナスヘシ然レモ其死去ニ付テノ充分ナル證據ヲ差出スニ於テハ相當ノ手續ヲ經タル後本人ノ爲ニ準備セル金額ニ定限ノ利子ヲ添ヘ之ヲ遺族ヘ渡スヘシ

但此取扱ヲ爲スニ付テノ入費ハ該金額ノ内ヨリ初メニ之レヲ引去ルヘシ

第三十六條 寄託人闘毆殺其他ノ變死及ヒ中毒河豚ノ如キヲ自ラ毒ト知テ喰用シ死ニ致ルモノノ類ニ罹ル者ハ會社ニ於テ悉

皆約束ノ義務ヲ負ハサルヘシ

第三十七條 寄託者刑法ニ觸ル、事アリテ懲役或ハ禁錮等百日以上實斷ノ判決ヲ受ルキハ會社

ニ於テハ保生證書ヲ無効ノモノトナスヘシ

第三十八條 會社豫算ヨリ死者ノ數寡ク且貸付金ノ利子豫算ヨリ多ク入ルキハ寄託者ノ掛金高

ト其年數トニ應シ年々一月十日マテニ相當ノ利益金配當ノ割合ヲ定ムヘシ

第三十九條 利益金ハ初メテ寄託セシ年ヨリ三年目ニ當ル保生年度ノ始ヨリ配當スヘシ

第四十條 年々受取ルヘキ利益金ヲ會社ヘ預ケ置キ後ノ掛金ヲ差引シ或ハ保生金高ヲ増サン

ヲ欲スレハ會社ニ於テ其請ヒニ應スヘシ但兩様共其段書面ヲ以テ保生證書有効期限内ニ申通

スヘシ若シ届出コレナキハ保生金ヲ増加スルト見做スヘシ

但此年ハ掛金ト差引シ彼年ハ保生金高ヲ増ス等ノ請ハ會社ニテ引受ケサルヘシ

第四十一條 若シコレヲ其他非常ノ惡疾流行シ當會社ノ期スル所ヨリ死者ノ數多カルヘシト考

フル時ハ其時之レカ爲ニ死シタル人ノ保生金ヨリ其高ニ應シ百分ノ一ヨリ少カラス百分ノ三

ヨリ多カラサル金高ヲ他生存寄託者ノ爲ニ會社ヘ申受クヘシ尤モ翌年ニ至リ計算ノ上過剩ノ

分ハ之ヲ割戻スヘシ

右ノ外五ヶ年間歴驗ノ上猶寄託者ノ爲ニ便宜トナリ利益トナル方法ヲ立テハ逐一各寄託者ニ其

由ヲ申通スヘシ然ルトキハ寄託者舊法ヨリ新法ニ引直スヲ得ヘシ

保生會社事務大畧

凡ソ保生會社ノ主意ハ數多ノ人各幾何カ掛金ヲシテ之ヲ積置キテ此出金社員ノ中死スル者アレハ其掛金ノ多寡ニ應シ幾何カヲ其遺族ニ與フル仕組ニ爲シタル者ナリ譬ハ同志ノ者一百人歳首ニ集合シ扱浮世ハ定メナキ者ナリ今コソ各斯ク健ニテ居レト此年内ニハ少クモ必ス一人ハ鬼録ニ登ルヘシ孰レカ先立ツトハ知ラレテト互ニ妻子モアル身ナレハ今ヨリ遺族ノ手當トシテ各ニテ金一百圓ヲ積ミ置カハ差當リ遺族カ路頭ニ迷フノ虞モナカランカト談合調ヒ各金一圓ヲ掛ケ

置キテ扱其中一人死シタル者ノ遺族ニ此積金ヲ與フルカ如シ尤モ是ニテハ僅ニ一年限ニテ掛金モ盡ルコトナレハ會社ニテハ之ヲ保續スル仕方ヲ立ルコトナリサレハ掛金モ年賦ニサスル仕方平均年賦掛金 一次ニサスル仕法 一次皆均掛金 幾年間ト年ヲ限リテサスル仕方 均掛金 又養老金トテ壯年職業ヲ營ムヲ得ル間ニ掛金ヲシテ老後ニ用意金ヲ得ル等ノ仕方アリ 是モ亦其掛金ニ前ノ如ク三様ノ仕方アリ 其算方ハ種々ナレモ先之ヲ本トシテ算ヲ立ルナリ扱又此積金ヲスル社員カ一年ノ中死スル所ノ數モ固ヨリ必ス百人ノ中一人ト定マリアルヘキニアラサレハ上ニ陳述スル如キ精當ノ命數表ニ據リ當時存生ノ者幾人ヨリ其年内死者ノ割合幾人トイフコトヲ知り其一人カ掛クヘキ分ヲ算スルコトニテ愚カ輩カ社ニテハ則第一號ニ出セル米國歴驗表ヲ用フルナリ將又會社ニテハ寄託者ヨリ入社ノ始直ニ一年分ノ掛金ヲ受取ル仕法ノ者ナレハ前例ノ如ク歳首ニ出金スル者ト看做スコト故此掛金ニハ一年ノ間幾分ノ利子ヲ産ム者ト定メ預メ之ヲ掛金高ヨリ差引テ算法ヲ立ルナリ斯クテ此利子ヲ差引タル高ト命數表トヲ照シテ得ル所ノ金額ヲ保生實費ト名ケ諸種ノ掛金ヲ算定スル基礎トスルナリ 但是ハ會社ノ費用等ヲ算入セサル積方ナリ故ニ之ヲ保生實費ト云

附言以下載スル所算法皆一圓ヲ以テ卒トス譬へハ一年幾分ノ利子ヲ差引キテ一圓ト成ルノ現價ヲ見ル或ハ一圓ノ保生金ヲ得ンコトヲ寄託ストイフカ如シ皆計算ニ便スルカ爲ナリ殊ニ一

保生實費算法

圓ノ保生金ヲ得ンコトヲ寄託スルイフ如キ實際ニ於テ是等些少ノ金ヲ求ムル者モアルヘカラス會社ニテモ固ヨリ其寄託ヲ引受クヘキニ非スト雖モ唯此數ヲ乘スレハ幾百千萬ニテモ推及ホスヲ得ヘケレハナリ

○保生實費算法

凡ソ保生會社ニテ掛金其他ノ計算ヲ爲スノ骨子タル者ハ利子割引ト命數表トノ二ツナレハ先ツ初メニ之ヲ詳知セサルヘカラス扱此利子割引ハ彼邦ノ語ニテ之ヲヂスカオントトイヒ銀行杯ニテ通例用フル所ニシテ譬ハ年四分ノ利子ヲ一圓ノ中ヨリ最初ニ割引スレハ金九十六錢トナルカ如シサレトモ保生術ニテハ夫ノ利又利ヲ生スル割合ヲ以テ引クコトニテ之ヲ眞ノ利子割引ト名ク斯クテ此引タル後ニ殘ル所ノ數ヲ金一圓ノ現價トイフ譬ハ年四分 百分ノ四以下做之 ノ利子ニテ元利合セテ一年ニ一圓ト成ルノ現價ハ $\frac{1}{1.04} = \frac{100}{104} = 0.961538$ 八以下ノ碎數ハ之ヲ去ル以下做之 即九十六錢一厘五毛三絲八忽又年四分半ノ利子ニテ元利合セテ一圓ト成ルノ現價ハ $\frac{1}{1.045} = \frac{1000}{1045} = 0.956938$ 即九十五錢六釐九毛三絲八忽ナルカ如シ皆一圓ニ利子ヲ加ヘタル數ニテ一圓ヲ除シテ之ヲ得ヘシ又若シ同シ利子ノ割合ニテ貳年ニシテ一圓ト成ルノ現價ヲ知ラント欲セハ宜ク一年ニ一圓ト成ルノ數ヲ自乘スヘシ即利子年四分ノ割合ナレハ $\frac{1}{1.04} \times \frac{1}{1.04} = 0.924556$ ニテ九十二錢四釐五毛五絲六

忽四分半ノ割合ナレハ $\frac{1}{1.045} \times \frac{1}{1.045} = 0.915730$ 九十一錢五釐七毛三絲零ヲ得ルナリ斯クテ三年ニ一圓トナルノ現價ヲ知ラント欲セハ二回一年ノ現價ヲ乘シ四年ハ三回五年ハ四回此ノ如クニシテ幾年ノ現價ヲモ知ルヲ得ルナリ

扱又表第一號ニ出セル者ハ米國歴驗表ト名クル命數表ニテ此表ハ十萬人ヲ率トシテ推測セル者ナリ即其第一行ハ年齡第二行ハ其年ニ生存ノ人員第三行ハ其一年內死者ノ數ニシテ第一行ノ十歳ト同層ナル第二行ニ十歳トアルハ此年ニ生存スル者十萬人アルナリ又第三行ノ同層ニ七百四十九トアルハ是此十歳ノ齡ニシテ十萬ノ數アル人ノ十一歳迄ノ間ニ死スヘキノ數ナリ第二行ノ二層ニ九千二百五十一トアルハ前年ヨリ生殘リタル人ノ數ニシテ第三行ノ同層ニ七百四十六トアルハ此年內ニ死スヘキノ數ナリサレハ十歳ノ十萬人カ一年內ニ死スヘキノ命運ハ十萬ニ七百四十九十一歳ノ九萬九千二百五十人カ命運ハ即チ七百四十六ナリ此ノ如ク毎年庚生者ノ命運ハ互ニ相照シテ知ルヘキナリ

今保生實費ヲ知ラントニハ左法ノ如クスヘシ譬ハ此ニ三十歳ノ人アリ其一年限リ保生ヲ託シ死スル時ハ遺族ニ保生金一圓ヲ渡サンコトヲ乞ハハ其掛金ヲ如何ニシテ算スルトイフニ前ノ命數表ニ照セハ始ニ十萬人生存セル者今ハ漸々ニ死シ去ツテ八萬五千四百四十一人トナレリ而シテ

【米國歴驗表ハ省略ス】

其翌年即三十一歳マテ一年間ニ此等ノ人カ死スヘキノ數ハ七百二十ナリ扱テ保生術ニテハ此年齡ノ人盡ク寄託スト定ムルコト故前ニ出セル一百人協議シテ積金ヲ爲スト同理ナリ參考スヘシ此八萬五千四百四十一人ノ頭ヨリ其死スヘキ者ノ數ニ適セル金額即チ七百二十圓ヲ要スルナリ然ルニ又保生術ニテハ寄託ヲ引受ル日ヨリ一年ノ掛金ヲ入社ノ日ニ受取ルコト、定ムルヲ以テ嚮ニ述ル如ク先一年分ノ利子ヲ割引セサルヘカラス今此利子ヲ年四分半ノ割合トシ年末ニ一圓ト成ルノ現價ヲ求ムレハ九十五錢六厘九毛三絲八忽ヲ得之ヲ七百二十ニテ乘スレハ則チ此三十歳ノ人カ差出スヘキ掛金ヲ得ルナリサレハ此八萬五千四百四十一ノ寄託者カ歳首ニ會社ニ納ムヘキ掛金ハ算術ノ記號ヲ用フレハ $0.956938 \times \frac{720}{85441}$ 此ノ如シト知ルヘシ今一層之ヲ詳ニスレハ此三十ノ人カ三十一歳ニ及フマテ死スヘキ命運ハ $\frac{720}{85441}$ ノ分數ナリ年四分半ノ利子ニシテ一年ノ末ニ一圓トナルヘキ現價ハ 0.954938 ナリ今此現價ヲ $\frac{720}{85441}$ ノ分數ヲ以テ乘スレハ 0.008064 即八釐零六絲四忽ヲ得是三十歳ノ人ノ一歳限リ保生ヲ託シ其年內ニ死スルトキハ遺族ニ金一圓ヲ渡サンコトヲ乞フ時ノ保生實費ノ價ナリ若シ此年齡ノ人百圓ノ保生金ヲ遺族ニ渡サンコトヲ欲スルトキハ則百ヲ以テ此價ヲ乘シ千圓ヲ欲スル時ハ千ヲ以テ之ヲ乘スヘシトス

右年齡ノ外何年庚ノ人ト雖モ命數表ニ照シテ其一年間ニ死スヘキノ命運ヲ得テ之ヲ以テ若干ノ利

子ヲ差引キ一年ノ末ニ一圓トナルヘキ數ヲ乘スレハ則其年庚ノ人ノ保生實費ヲ得表第二號ニ掲タル所ハ第一號命數表ニ據リ利子ハ年四分ノ割合ヲ割引シテ算スル所ニシテ各年庚ノ人ノ千圓ノ保生金ヲ得ントスルトキノ保生實費ヲ示ス者ナリ

附言此保生實費ハ一ニ保險費トイフ是寄託者カ死ノ險ヲ保ストイフニ出ツ譬ハ上ノ例ニ於テ三十歳ノ人八萬五千四百四十一人カ一年內ニ死トイフ劫數ノ險ニ遭遇スヘキ命運ハ七百二十ナリサレトモ誰カ此險ニ罹ルヘキヤ預メ知ル能ハサレハ各其險ニ遭ヒシ時ノ豫防ノ爲ニ若干金ヲ掛ルコト故斯クハ稱スルナリ後ニ會社カ各寄託者ノ掛金ノ中ヨリ預リ置ヘキ準備金ヲ計算スルノ條ニ至リ屢此稱ヲ用フルコトアリ故ニ豫メ此ニ之ヲ解ス扱テ此保生實費ハ初頭ヨリ屢述ル如ク僅ニ一年限リノ受合金ナレハ一年限ニ盡ルコト故是ニテハ終身ノ受合ハ成ラス寄託者ニ於テ益ナケレハ會社モ保續スル能ハサレハ此受合ノミノ仕方ハ實地ニ於テ無キコトナレトモ諸ノ計算之ニ基クモノナレハ先ツ此理ヲ第一ニ知ルコトヲ要スルナリ即チ次ニ載スル一次皆濟掛金モ寄託者カ當年ノ年齢ヨリ始メテ命數表ノ終ニ至ルマテ此保生實費ニ適セル價ヲ年毎ニ算シテ末ニ至リ之ヲ加ヘタル數ナリ又平均年賦掛金ハ是トハ異ニシテ年金算法ノ如ク每年生殘リタル者カ掛クヘキ金高若干ヲ算シ命數表ノ終ニ至リ之ヲ加ヘタル高ヲ右ノ一

次皆濟掛金ニテ除シテ得ル所ノ金高ニ當ルナリ此二法孰レモ終身ノ保生ヲ引受ル爲ノ算法ナリ下ノ每條ニ之ヲ詳ニスヘシ

一次皆濟掛金算法

○一次皆濟掛金算法 是ハ會社ヲ維持スル費用等ヲ算入セサル算法ニテ唯寄託人ノミニテ掛タル金ヲ費シ了ル者ト見ルヘシ

此算法ハ寄託者カ終身ノ保生ヲ託スル時一次限リニ掛切タル掛金ノ高ヲ見出ス法ニテ先ツ寄託者ノ年齢ニ應シ命數表ニ照シテ其存生ノ間毎年保生ヲ爲スニ必用ナル金高ノ現價ヲ算シ次ニ此毎年ノ現價ヲ總計スレハ則其終身保生ヲ託スルニ必用ノ高ヲ得ルナリ譬ヘハ今保生ヲ託スル人年齢方ニ四十體況尋常ニシテ保生ヲ託スルニ適シ利子ハ年四分ノ割合ノ割引トセハ其人初年ノ保生ヲ託スルニ必用ナル金高ハ幾何トイハ、先ツ法ノ如ク割引シテ一年ニ一圓ト成ルノ現價ヲ見ルヘシ是即前ニ載スル如ク一百零四ヲ以テ一百ヲ除スルノ數九十六錢一釐五毛三絲八忽ナリ扱表第一號ノ命數表ヲ照スニ四十歳ノ人ノ現存ノ數ハ七萬八千百零六ニシテ翌年マテニ死スヘキ命數ハ七百六十五ナリサレハ 961538 ノ現價ヲ以テ $\frac{765}{78106}$ ノ分數ヲ乘スレハ第二表ノ如ク 但此表ハ千圓ノ保生金ノ積ナリ 0.009418 即九釐四毛一絲八忽ヲ得是其一年ノ保生實價ナリ扱前ニ述ル如ク此人僅ニ一年限ノ保生ヲ託スルノミナレハ是ニテ足ルコトナレトモ終身ノ保生ヲ託スルナレハ又次年ノ價ヲ見出サ、ルヘカラス之ヲ見出スニハ先ツ利子ノ割合ハ前ノ如クナレハ其二年ニシテ一圓ト成

ルノ現價ヲ知ルヘシ此現價ハ一年ノ現價ヲ自乗スルノ數ニテ九十二錢四釐五毛五絲六忽ナリ將
 又命數表ニ照シ見ルニ此四十歳ノ寄託者カ現在ノ數ハ七萬八千一百零六ニシテ其第二年四十一
 ニ死スヘキノ數ハ七百七十四ナリ 0.924556 ニテ 78106 ヲ乘スレハ之ヲ得ルナリ即九厘一毛六忽ヲ得
 附言保生實費ハ僅ニ一年限保生ヲ託スル時ノ掛金ナレハ其算法モ亦一年限ノ積リ方ナリ一次
 皆濟掛金ハ終身ノ保生ヲ託スル掛金ヲ一回ニ掛切ル算法ヨリ出タリ故ニ毎年ノ保生實費ノ積
 リテ之ヲ總合セルノ高ナリ然レトモ寄託ヲ始メタル年齡ヨリ算ヲ起シテ命數表ニ載スル最高
 年齡マテ毎年算シ至ルコト故生存者ノ數ハ毎ニ其寄託ヲ始メタル年齡ヲ以テ率トシ毎年易リ
 行ク死者ノ數ヲ除スルナリサレハ初年ノミ保生實費ヲ見出スノ算法ト同シト雖モ餘ハ死者ノ
 數差アルニ應シテ異ナリ又保生實費ノ算法ニテハ利子割引モ一年ノミナレトモ此算法ニテハ
 命數表ノ終マテ毎年割引スルコト故是亦大ナル差アリ今此理ヲ容易ニ解セシメンカ爲ニ第三
 號ノ表ヲ附セリ即チ其第一行ハ寄託者ノ年齡ナリ第二行ハ五十歳ノ時ヨリ算シ毎年四分半ノ
 利子ヲ割引セル一圓ノ現價ナリ第三行ハ死者ノ數ナリ第四行ハ五十歳ノ生者ノ數ナリ第五行
 ハ此寄託者死スルトキ保生金一圓ヲ得ルニ適セル掛金ノ各年ノ割合ナリ扱此表モ第一號命數
 表ニ據リテ算測セル者ニテ第二行ハ四分半ノ利子ヲ一年分割引セル一圓ノ現價ナリ之ヲ第三

行同層ノ死者ノ數是五十歳ノ者ノ其一年ニテ乘シ其得タル數ヲ第四行同層ノ生者ノ數ニテ除スレ
 ハ其一年ノ保生實費即第五行同層ノ高ヲ得第二層ヨリ以下皆同法ニテ乘除シ表ノ終ニ至リ第
 五行ノ得數ヲ加フレハ則五十歳ノ人カ終生ノ保生ヲ託シ死スレハ一圓ヲ得ルノ約束ニテ取結
 ヘル一次皆濟掛金ヲ知ルヲ得ルナリ掛金ハ則四十三錢零々三絲七忽ナリ凡ソ此如クニシテ各寄託者ノ年齡ニ應シ
 其年ヨリ始メテ算スルトキハ皆之ヲ知ルヲ得ヘシ尤モ此ニ五十歳ノ一例ヲ舉クル者ハ其煩ヲ
 省クカ爲ノミ
 又云第四表ハ保生金一千圓ヲ渡スコトヲ約スル時ノ一次皆濟掛金ノ割合ニテ差引ヘキ利子ハ
 年四分ノ割合ヲ以テ算セル者ナリ尤モ是ハ皆實費ノミヲ示ス者ニテ會社ノ入費ハ未タ之ニ割
 掛サル積リ方ナリ
 扱又何年ト年ヲ限リ其期限中ノミ保生ヲ引受コトアリ其掛金ノ算法ハ此限内毎年ノ保生實費是
算法ハ前ニ同シテ寄託者カ當年存生ノ數ヲ率トスルナリ亦ヲ追算スルナリ譬ハ年齡五十歳ノ人十年限保生ヲ託セントスレハ其一次
 皆濟掛金ハ第三表ノ五十歳ヨリ始メ十年間ノ實費ヲ算シ之ヲ總合スルノ高ナルカ如シ
 若又五十歳ノ時掛金ヲ爲シ十年ノ後ヨリ終身ノ保生ヲ託セントスル者アリテ其掛金ヲ知ラント
 ニハ先ツ五十歳ノ一次皆濟掛金ヲ算シ此金額ヨリ前ノ如ク五十歳ヨリ五十九歳マテ十年限保生

ヲ託スルノ一時皆濟掛金ヲ減ケハ則其金額ヲ得ルナリ
 若又五十歳ノ時ニ掛金ヲ爲シ六十歳ノ時ヨリ十年間寄託セント欲スル者アリテ其掛金ヲ知ラン
 トニハ先ツ五十歳ノ時掛金ヲ託シ六十歳ヨリ始メ終身ノ保生ヲ託スル一次皆濟掛金即前法ニテ得タルモノヲ
 算シ其金額ヨリ五十歳ノ時掛金ヲシ七十歳ノ時ヨリ終身ノ保生ヲ託スル一時皆濟掛金ヲ減ケハ
 則之ヲ得ルナリ

平均年賦掛金算法

○平均年賦掛金算法
 是マテ記セル掛金ノ算法ハ寄託者始メニ掛金ヲ爲シテ死スレハ最早掛金ヲ爲スニ及ハス約束通
 リノ保生金ヲ會社ヨリ受取ル積リ方ナリサレハ年々ノ死者ヲ以テ一圓ノ高ヲ乘シ利子割引ハ勿論ナ
レハ今更言ハス
 生者ノ數ニテ除リタル者ナリ然ルニ平均年賦ノ掛金ハ寄託者存命ナラサレハ之ヲ爲サス故ニ寄
 託者ヨリ會社ヘ年金ヲ與フルカ如キ者ナリ尤モ年金ハ豫メ之ヲ受クル者ノ命數ノ長短ヲ推測シ
 是亦命數ニ據ル之ニ應シテ其現價ヲ定メ寄託者ニ毎年若干ノ金ヲ與ヘ其死ニ至ツテ止ミ平均年賦掛金ハ
 命數表ニ據リテ毎年生存ノ者ノ數ヲ以テ一圓ヲ乘シ寄託者カ寄託ヲ始ムル時ノ年庚ノ生存者ノ
 數ヲ以テ之ヲ除シ得ル所ノ數ヲ以テ其現價トシ而ル後之ヲ以テ同年庚ノ人ノ一次皆濟掛金ヲ除
 シテ之ヲ得ルナレハ其算法ハ固ヨリ同シカラス扱此算法ハ前ニ述ル如ク寄託者存命ナレハ掛金

ヲスル積リ方ナレハ先ツ命數表ニ據テ寄託者ノ年庚ニ應シ其生運ヲ知ルヘキナリ又其掛金ハ初
 年ハ直ニ一圓ヲ掛ケ次年ヨリハ幾可ノ割合ノ利子ヲ差引クコトナリ其法譬ハ三十歳ノ人保生ヲ
 託センニ生存ノ間ハ年々金一圓ヲ掛タヘキ約束ヲ取結ヒタルト見テ之ヲ算スヘキナリ今命數表
 ヲ照スル此年庚ノ人カ初年ノ始ニ生存スルノ數ハ八萬五千四百四十一ナリ故ニ此年ニ掛タヘキ
 所ノ金高ハ合セテ八萬五千四百四十一圓ナリ之ヲ同數ニテ除レハ一圓ニ當ルナリ次ニ三十一歳
 ニ至レハ生存スル者ノ數八萬四千七百二十一人ナリ又昨年初ヨリ掛ケテ今年ノ初ニ一圓ト成ル
 ノ現價ハ年四分半ノ割合ノ利子ナレハ 0.956938 即九十五錢六厘九毛三絲八忽ナリサレハ之ヲ八
 萬四千七百二十一ニテ乘ン 0.956938×84721 此數ヲ昨年ノ生存者ノ數ニテ除スレハ $0.956938 \times$
 84721 ヲ得是三十歳ノ寄託者カ三十一歳迄生存スルトキハ會社ニ納ムヘキノ價ナリ此如ク毎年
 ニ追算シテ命數表ノ終ニ至ルナリ今此算法ヲ明ニセンカ爲ニ第五表ヲ附セリ即其第一行ハ寄託
 者ノ年齢第二行ハ毎年歳首ニ納ムヘキ金一圓ノ現價第三行ハ毎年生存者ノ數ニシテ分子ナリ第
 四行ハ初年生存者ノ數ニシテ分母ナリ第三四行共ニ第
二號表ニ據ル 且此數ハ常ニ之ヲ率トシ表末マテ變スルコ
 トナシ第五行ハ右ヲ乘除シテ得ル所ノ數ニシテ即五十歳ノ寄託者カ生存スレハ必ス毎年首ニ納
 ムヘキ一圓ノ價ナリ此表ノ用法ハ第三表ニ同シ但彼ハ毎年死者ノ數ヲ以テ一圓ノ現價ヲ乘シ是

ハ生存者ノ數ヲ以テ乘スルノ異アルノミナレハ別ニ贅セス別ニ附スル第六表ハ右ノ算法ヲ以テ各年庚ノ人ノ終身一圓金ヲ納ムヘキ價ヲ見出シタル者ナリ尤モ利子割合ハ四分ノ割合ヲ用フ
 擬右ニ記スル所ノ如クニシテ終身ノ間毎年一圓ヲ納ムルノ價ヲ見出サハ此數ヲ以テ一次皆濟掛金ヲ除スレハ則求ムル所ノ平均年賦掛金ヲ得ルナリ然レトモ今此ニ猶少ク其理ヲ辨明スヘシサ
 レハ此算法ハ寄託者存命ナレハ終身ノ間毎年納ムヘキ一圓ノ價ヲ見之ヲ總合シテ終身ノ價ヲ見ル法ナレトモ元來保生術ハ死者ノ數ヲ測リ其遺族ニ與フヘキ金高ヲ見出スヘキナレハ前ニ載スル一次皆濟掛金ヲ年數ヲ以テ除シタル者則毎年年賦掛金トナルヘキ様ナレトモ其死者ノ數ニ異同アレハ未タ平均ヲ得ヘカラス因テ此年々一圓ヲ掛クヘキ終身ノ價ヲ以テ之ヲ除スレハ則平均年賦掛金ヲ得ルナリ故ニ此算法ハ一圓ヲ率トシテ一次皆濟掛金ト終身年金總額トノ比例ヲ見ル者ナリ譬ハ五十歳ノ寄託者カ一次皆濟掛金ハ第三表ニ載ス如ク四十三錢零三七ニシテ其終身年金總額ハ第五表ニ載スル如ク十三圓二十三錢五釐八毛零二忽ナレハ其比例 $13.235802 : 0.43037$
 $∴ 1 ニシテ則 = \frac{0.43037}{13.235802} = 0.032490$ ニ齊シキカ如シ
 附言第七表ハ右ノ算法ニ隨ヒ毎年庚ノ寄託者保生金一千圓ヲ得ンコトヲ託セル時ノ平均年賦掛金ヲ見出シタル者ナリ尤モ利子割引ノ割合ハ四分ヲ用フ且是モ亦會社ノ費用ニ給スヘキノ

料ハ未タ算入セサルモノナリ

又若シ一次皆濟掛金ヲ何年ト期限ヲ定メ期限中平均ニ納ムル年賦掛金ニ引直サント欲スルトキハ上ニ述ル所ノ如ク先ツ寄託者ノ年齢ヨリ起算シ期限中年々一圓ヲ納ムルノ價ヲ見出シ之ヲ以テ寄託者カ年齢ニ適セル一次皆濟掛金ヲ除レハ則之ヲ得ヘシ
 又一次皆濟掛金ノ末ニ載スルカ如ク某年ニ掛金ヲシ某年ヨリ保生ヲ託スル時ノ期限中年賦金ヲ算スルノ方法モ亦宜ク上ノ數理ヲ應用スヘシ今逐一述ヘス

○養老保生掛金算法

養老金トハ少壯ノ間掛金ヲシテ老後ノ安養ニ備フルノ金ヲイフ故ニ尋常保生モ米國歴驗法ニ據レハ寄託者九十五年ノ後マテ存命ナレハ則是養老保生ナリ其故ハ此表ニ於テハ九十五歳ニ至レハ寄託者盡ク死スト做スヲ以テ是ヨリ後ニ生キ殘ル者ハ保生金ヲ得ルコト勿論ナレハナリサレトモ此ノ如ク高齢ニ至ルヲ待タズ大抵七十ヲ過クレハ業ヲ操ル能ハサル者多キカ故ニ或ハ五六七十ノ齡ヲ期シテ一養老ノ備ヲ爲スコトナリ此法老後手當ノ見込ナキ者ニハ殊ニ良ナリ否ルモ人事ハ常ナキ者ナレハ世人皆此覺悟ヲ爲シ置キ度コトニコソサレハ米國ニテハ此法最モ行ハルトイフ擬此法モ偏ニ後年ヲ期シテ寄託スルノミナレハ利子割引ノ算法ノミニテモ隨分可ナレト

モ通例保生ヲ兼ネ其人期限前ニ死ストモ遺族ハ矢張約束ノ金高ヲ受得ル様ニ仕組タル者其世人ニ益多キモ亦此故ナレハ其算法モ亦随ツテ入組タリ譬ハ三十歳ノ寄託者アリ六十歳ニ至リ養老金一千圓ヲ得ンコトヲ欲シ尤モ此期限中ニ死スルトキハ同額ノ金ヲ遺族ニ渡サンコトヲ欲センニ其掛金ノ算法ハ先ツ養老金ノ掛金ヲ初ニ知ルヲ要ス之ヲ知ルハ則法ノ如ク幾何ノ利子ヲ割引シテ三十年間ニ一圓トナルノ現價ヲ見出し命數表ヲ照シテ六十歳ノ時ノ生存者ノ數ヲ以テ之ヲ乘シ三十歳ノ時ノ生存者ノ數ヲ以テ之ヲ除シテ得ル所ノ數ハ是養老金ノ掛金ナリ斯クテ又一次皆濟掛金算法ノ末條ニ載スル所ト同法ヲ以テ此三十歳ノ人ノ三十年間保生ヲ託スル掛金ヲ見出しテ之ヲ前ノ掛金ニ加フレハ則此年庚ノ人ノ養老保生ヲ託スル掛金ヲ得ルナリ之ニ由ツテ幼年子女ノ預備金ノ掛金算法等推シテ知ルヘシ此他尙各社種々保生金掛金等ノ算法アレトモ自ラ此業ヲ營ムノ人ニ非サレハ要ナキヲ以テ今逐一贅セス

準備金算法

○準備金算法
已ニ保生實費算法ノ附言ニ辨セル如ク會社ハ僅ニ一年間ノミノ受合ヲ爲ス者非レハ掛金モ亦毎年幾何カ殘ル様ニ積リ置クヲ以テ漸々年毎ニ之ヲ積ミテ終ニ保生金ノ高ニ滿ル様ニ仕組タル者ナリ扱スク年毎ニ積立ル金之ヲ名ケテ準備金トイフ是決シテ會社ノ使用スヘキ者ニ非ス之ヲ運轉スルハ勿

甲一次皆濟掛金準備法

論當然ノ寄託者ノ爲ニ大切ニ貯置クヘキ者ナリサレハ毎年此金ヲ積立ル高モ掛金ニ一次ト年賦ト事ナリノ別アルヲ以テ自ラ差異アリ下ニ其概略ヲ述フヘシ

(甲)一次皆濟掛金ヲ準備スル算法
第四號表ニ載スル如ク米國歴驗表ニ據リ四分ノ利子割引ヲ以テ算スレハ二十歳ノ人カ一千圓ノ保生金ヲ遺族ニ渡サンコトヲ託スル時ノ一次皆濟掛金ノ高ハ金二百四十七圓七十九錢八釐ニシテ二十一歳ノ寄託者ナレハ其高二百五十一圓八十四錢六釐ナリ右孰レモ會社カ一千圓ノ受合ヲ爲ストキハ是非寄託人ヨリ受取ヘキ掛金ナリ故ニ二十歳ノ寄託者ヨリ二百四十七圓七十九錢八釐ヲ受取ルトキハ其年末即翌歳首ニ會社ハ必ス其人ノ爲ニ二百五十一圓八十四錢六釐ヲ準備トシテ貯置カサルヘカラス之ヲ如何ニシテ貯フルトイフニ右ノ二百四十七圓七十九錢八釐ニ一年四分ノ利子ヲ生スレハ此中ヨリ其人ノ其年一年分拂フヘキ頭割ノ保險費是ハ一千圓ニ付何程ト定マリ七十九錢八釐ヲ減キタル殘高七百五十五圓二十錢零二釐ニテ幾何ニ當ルト比例ヲ立テテ定ムルナリ後ノ保險費ノ條ニ詳ニスヲ減キ殘高即二百五十一圓八十四錢六釐ヲ餘スナリ又同表ヲ見ルニ第四號二十二歳ノ寄託者カ一千圓ノ保生金ヲ約スル時ノ一次皆濟掛金ハ二百五十六圓零七錢六釐ナリサレハ二十歳ノ時會社カ引受タル所ノ寄託者ノ爲ニ會社ハ二年目ノ末即三年目ノ初ニ至リ此高ノ準備金ヲ有セサルヘカラス是亦二年目ノ初ニ有スル準備金ニ四分

ノ利子ヲ産マシメ保險費ヲ減キタル後ニ必ス之ヲ余スモノナリ此ノ如ク會社ハ年々積立行クコトニテ何レノ年庚ノ寄託者ノ爲ニストモ理ハ皆一ナリ

(乙) 平均年賦掛金ヲ準備スル算法

今第七號ノ表ヲ見ルニ寄託者ノ年齢三十歳ニシテ一千圓ノ保生金ヲ得ンコトヲ約スル時ノ平均年賦掛金ハ十六圓二十一錢一釐ナリ此金高ハ此人カ存命ノ間ハ毎年平等ニ會社納ムヘキ者ナリサレハ此人二年ノ後即三十二歳ノ初ニ至リテモ固ヨリ同額ノ金ヲ納ムヘキコトトス然ルニ三十二歳ノ人カ始メテ寄託スル時ハ必ス十七圓十七錢六厘ヲ是ヨリ毎年平等ニ納ムヘキ者トシ五十歳ノ時寄託ヲ始ムル人ナレハ金三十三圓六十九錢八厘ヲ毎年納ムヘキ者トシ三十歳ノ時始メタル人ナレハ三十二歳五十歳ハ勿論終身ノ間ニテモ矢張前ノ如ク毎年僅ニ金十六圓二十一錢一厘ヲ納ムレハ足ルトイフハ如何ニトイフニ抑此平均年賦掛金ナル者ハ始ヨリ寄託者カ孰レノ年ニカ死スレハ其爲ニ保生金ヲ遺族ニ渡スノ準備トシ並ニ其存生ノ間ハ毎年掛金ヲ爲サシムル様ニ見込ミテ積リ出セル者ナレハナリサレハ毎年末ニ至リ會社ハ其各寄託者ノ年賦掛金ノ中ヨリ其年内死者ノ遺族ニ與フヘキ頭割ノ保險費ヲ減キ去リテ猶後若干ノ準備金ヲ遺シ貯ヘサルヘカラス此準備金ハ寄託カ一年ニテモ若年ノ時ノ年賦掛金ト一年ニテモ齡ヲ重ネ始メテ寄託スル時ノ

乙平均年賦掛金ヲ準備スル算法

年賦掛金トノ差額ヲ終身ノ間年々納ムルノ現價前ノ平均年賦掛金ノ條ニ第五表ヲ添ヘテ說明セル所ト同理ヲ以テ算スルナリニ當ル者ナリ譬ハ五十歳ノ寄託者カ一千圓ノ保生金ヲ得ンコトヲ託スル時ノ平均年賦掛金ハ右表ヲ用フレハ三十三圓六十九錢八厘ニシテ五十一歳ニ寄託ヲ始ムル者ナレハ三十五圓二十八錢八厘ナリサレハ此掛金ノ差ハ一圓五十九錢トス扱第六號表ヲ見レハ五十一歳ノ人カ終身ノ間毎年一圓ヲ納ムルノ現價ハ十三圓五十五錢九厘五毛ナルヲ以テ今此掛金ノ差一圓五十九錢ヲ毎年納ムヘキ現價ハ1:1.59::13.5595 比例ニテ即二十一圓五十六錢ナリ是五十歳ノ寄託者ノ年賦掛金ト年々齡重ナルニ隨ツテ納ムヘキ掛金トノ差ニ當ル者トス故ニ五十歳ノ掛金ニ年四分ノ利子ヲ加ヘタル高ヨリ其年ノ保險費第二表ニ出ツヲ減キタル殘額ト此金額トヲ合スレハ恰モ五十一歳ノ時新ニ寄託スル者ノ納ムヘキ掛金ト同額トナル而シテ會社ハ五十歳ノ寄託者ノ爲ニ其年末ニハ必ス此金額ヲ準備セサルヘカラス論詳ナルコトハ下ノ保險算法ノ條ヲ參看スヘシ斯クテ又五十二歳ノ寄託者カ始メテ納ムヘキ年賦掛金ヲ見ルニ三十六圓九十八錢四厘ナルト之ニ五十歳ノ掛金三十三圓六十九錢八厘ヲ比スレハ其差ハ三圓二十八錢六厘ナリ扱五十二歳ノ人カ終身ノ間毎年一圓ヲ納ムルノ現價ハ第六號表ニ出ツ十三圓二十五錢四厘六毛ナレハ之ニ准シテ前ノ差額三圓二十八錢ヲ終身ノ間毎年納ムルノ現價ハ1:1.32546::13.2546 比例ニテ即四十三圓五十五錢ナリサレハ會社ハ五十歳ノ寄託者カ第二年ノ末即五十

二年ノ初ニ於テハ此四十三圓五十五錢ノ金額ヲ其人ノ爲ニ準備トシテ貯置カサルヘカラス尤モ是ハ五十一歳ノ保險費ヲ減去リタル高ナルコト勿論ナリ此如ク毎年其準備金ヲ貯ヘ之ニ相當ノ利子ヲ加ヘ利又利ヲ生スレハ則若年ノ寄託者カ年賦掛金ハ老年ノ寄託者ヨリ少シト雖モ恰モ同一ノ割合ニ當ルナリ今一目シテ各年庚寄託者ノ爲ニ會社カ貯フヘキ準備金額ヲ知ラシメンカ爲ニ第八號表ヲ附セリ尤モ此表ハ勞ヲ省クカ爲ニ四十五歳ヲ以テ始トス各行ノ上ニ記スハ利子ノ割合ニテ之ニ隨ツテ差異アルモ亦併セテ知ルヘキナリ

保險費算
法

○保險費算法

保險費トハ各寄託者互ニ掛金ノ中ヨリ幾何カ死者ニ償フノ費ヲイフ先ツ年末ニ至リ必ス準備金ト爲スヘキ金額ヲ算シ得テ之ヲ其年ノ掛金ヨリ減去ルトキハ後ニ殘ル所ノ金額ハ則其年ノ保險費ニ充ツヘキ者ナリ故ニ準備金ハ年々ニ増加シ保險費ハ減少スルナリ若シ僅ニ一歳限ノ受合ナレハ會社ハ固ヨリ掛金ノ中ヨリ年末ニ至ツテ準備ヲ爲スニ及ハス保險費額ハ保生證書ノ金高ニ照シテ直ニ之ヲ知ルヘキノミ 是其一年ノ保生費ナレハナリ 凡ソ若年ノ人ノ其一年限ノ保生ヲ託スルカ爲ニ納ムヘキ實費掛ハ保生金額ニ較フレハ甚タ些少ナリ譬ハ二十歳ノ人歳末マテニ死セハ一圓ノ保生金ヲ得ンコトヲ約センニ第一號表ニ由リ利子

割引ヲ四分半トスレハ $\frac{1}{1045} \times 723$ ニテ即七釐四毛六絲八忽ナリ故ニ保生金一千圓ナレハ七圓四十六錢八釐六毛ナリ若シ寄託者九十五歳ニテ保生金ハ一圓利子割引モ前ノ如クナレハ $\frac{1}{1045} \times \frac{3}{3} = \frac{1}{1045}$ ニシテ即九十五錢六厘九毛三八保生金一千圓ナレハ九百五十六圓九十四錢

ナリサレハ寄託者歳首ニ於テ其年内ノ保生ヲ託スルニ足ルヨリ尙多キ掛金ヲ納ムルトキハ會社ハ其人ノ爲ニ歳末ニ至リ幾分ノ餘金ヲ有ス而シテ其年内ノ保險費ハ則其保生ノ爲ニ要スル金額ヨリ之ヲ減キテ未タ之ニ充タサルヘシ譬ハ寄託者二十歳ニシテ保生金一千圓ナレハ其終身保生ヲ託スルカ爲ニ會社ニ納ムヘキ一次皆濟掛金ハ 米國歴驗表ヲ用ヒ 二百四十七圓七十九錢八釐ナリ 第四號表ヲ 此額ハ是初年ノ間保生ヲ託スルニ足リテ其人存生ナレハ歳末ニ至リ尙會社ノ手ニ再ヒ 看ルヘシ 翌年 二十一年ノ保生ヲ引受クルニ足ルノ金額ヲ餘スナリ然ルニ廿一年ノ寄託者ニシテ保生金一千圓ナレハ 同表ヲ見 其一次皆濟掛金ハ二百五十一圓八十四錢六釐ナリサレハ寄託者二十歳ノ時二百四十七圓七十九錢八厘ノ掛金ヲ納ムレハ ルヘシ 當ニ其年ノ保生ヲ託スルニ足ルノ資ヲ給セルノミナラス其年末ニ至リ二百五十一圓八十四錢六釐ト成ルノ資ヲ給セルナリ之ヲ如何トイフニ此寄託者カ一千圓ノ保生金ヲ得ンカ爲ニ會社ニ納ムル所ハ二百四十七圓七十九錢八釐ナレハ此人若シ年内ニ死シテ一千圓ヲ遺族ニ渡セハ會社カ損失ハ七百五十二圓二十錢零二釐ナリ又此二十歳ノ人

カ僅ニ一年限一千圓ノ保生ヲ託スルノ實費即保險費 七圓五十錢零四釐ナリ 第二號表ヲ見ルヘシ 故ニ同年ノ時一年間七百五十二圓二十錢零二釐ノ保生ヲ託スルノ實費割合ハ 1,000 : 752.202 : 75.04ノ比例ニテ五圓六十四錢四釐五毛ナリ此五圓六十四錢四釐五毛ハ之ヲ年首ニ納ムレハ寄託者若シ年内ニ死スルトキハ會社カ損失ヲ被フルヘキ七百五十二圓二十錢零二厘ノ金額ノ引受ヲ爲スニ適セルノ高トナル猶之ヲ詳ニセンニハ先ツ此二十歳ノ掛金即二百四十七圓七十九錢八厘ニ其年内四分ノ利ヲ生スル者ト見レハ二百五十七圓七十一錢一釐トナルヘシ然レトモ五圓六十四錢四釐五毛ハ其年内會社カ損失ヲ償フカ爲ニセル者ナレハ先ツ之ヲ掛金ヨリ減カサルヘカラス即之ニ四分ノ利子ヲ加フレハ五圓八十七錢零三釐ヲ得由テ之ヲ二百五十七圓七十一錢一釐ヨリ減キ去レハ則二十一歳ノ時ノ一次皆濟掛金ヲ餘スヘシ又第二年ノ末即廿二歳ノ初ニ至レハ此時寄託ヲ新ニ始ムル者ノ掛金ハ二百五十六圓零七錢六厘ニシテ此ハ是前ノ寄託者此時マテ存命ナレハ會社カ其爲ニ二十一歳第二年末ノ末マテニ準備トシテ貯ヘサルヘカラサルノ金額ナリ現此時ニ至レハ會社カ損失ヲ受クヘキノ高ハ七百四十八圓十五錢六厘ナリ又二十一歳ノ人カ一年限一千圓ノ保生ヲ託スル實費ハ七圓五十五錢三厘ナリサレハ此年會社カ七百四十八圓十五錢六厘ヲ引受ルノ保險費ハ 1,000 : 748.156 : 7.553ノ比例ナレハ五圓六十六錢一厘五毛ナリ此高ヲ歳首ニ納ムレハ其

年内能ク七百四十八圓十五錢六厘ノ損失ヲ引受クルニ足ルナリ今之ニ年四分ノ利子ヲ加フレハ五圓八十八錢七厘九毛トナル又廿一歳ノ掛金二百五十一圓八十四錢四厘ニ年四分ノ利子ヲ加フレハ二百六十一圓九十二錢一釐トナル是ヨリ右ノ五圓八十八錢七釐九毛ヲ減ケハ則殘餘ハ二十二歳ノ時新ニ保生ヲ託スル者ノ掛金ト同額トナルナリ此ノ如クニシテ毎年追算シ終ニ表ノ末ニ至ルトキハ毎年會社カ損失ヲ被フルヘキ金高ヲ引受クルノ實費保險費ヲ見出シ之ヲ差引タル後終ニ九十六歳ニ至レハ寄託者ノ爲ニ貯フヘキ準備金一年四分ノ利子ヲ加ヘテ一千圓ニ滿ルニ至ルヘキナリ

右ハ一次皆濟掛金ノ毎年ノ保險費ヲ知ルノ法ナリ又平均年賦金掛金ノ毎年ノ保險費ヲ見出ス算法ハ左ノ如シ

譬ハ今五十歳ノ寄託者アリ終身一千圓ノ保生ヲ託セントスルニ米國經驗表ニ據リ四分ノ利子割引ナレハ其平均年賦掛金ハ三十三圓六十九錢八厘ナリ已ニ此掛金ヲ納ムルトキハ其一年ノ間ハ此寄託者カ保生ヲ託スルノ費ヲ償フニ足ルノミナラス其年末ニ至リ準備金ヲ設クルニ足ルナリ之ヲ如何トイフニ此年齡ノ人ノ爲ニ其年末ニ至リ設ケ置クヘキノ準備金ハ二十一圓五十六錢ナリ 上ノ平均年賦掛金準備金ノ條ヲ見ルヘシ サレハ會社カ此年内此人ノ爲ニ一千圓ノ損失ヲ引受クヘキノ高ハ 1,000 -

21.56 || 978.44 九百七十八圓四十四錢ナリ今直算ニ由ツテ五十歳ノ人ノ僅ニ一年限一千圓ノ保生ヲ託スルノ實費ヲ見レハ十三圓二十五錢一厘ナリ 第二表ヲ見ルヘシ 故ニ此年ニ九百七十八圓四十四錢ノ保生ヲ引受クルノ實費ハ 1,000 : 978.44 :: 13.251 : 12.945 ノ比例ニテ十二圓九十六錢五厘ナリ此十二圓九十六錢五厘ニ年四分ノ利子ヲ加フレハ十三圓四十八錢三厘六毛ヲ得是會社カ其年内九百七十八圓四十四錢ノ損失ヲ償フカ爲メノ保險費ナリ扱又其歳首ニ納ムル所ノ掛金三十三圓六十九錢八厘ニ年四分ノ利子ヲ加フレハ年末ニハ三十五圓零四錢六厘トナル是ヨリ上ニ出ス所ノ保險費十三圓四十八錢三厘六毛ヲ減ケハ其殘額ハ恰是二十圓五十六錢トナル是即此人ノ爲ニ一年ノ終ニ至リ準備スヘキノ金高ナリ是ヨリ年々ノ算法ハ類推シテ知ルヘシ今重複ヲ厭フカ爲ニ之ヲ略ス猶此理ヲ一目瞭然タラシムルカ爲ニ第九表ヲ附セリ但此表ハ米國經驗表ニ據リ四分ノ利子割引ヲ爲シ且二十歳ノ人カ一千圓ノ保生ヲ託シ毎年十一圓九十六錢六厘ノ平均年賦掛金ヲ納ムル者ノ例ナリ

社費割掛之事

○社費割掛之事
以上述フル所ノ算法ハ僅ニ保生ヲ引受クルニ足ル丈ノ金高ヲ示ス者ナレハ寄託者ノ金ヲ預リテ之ヲ割戻スニハ十分ナレトモ會社ヲ存續スルニハ足ラス故ニ彼邦ノ會社ニテハ必ス掛金ニ幾何

寄託者ヘ分配スル利益金ノ事

カ割掛ヲ爲スナリ之ヲ英語ニローディングトイフ荷ヲ負ハシムルトイフ義ナリ其割合ハ通例掛金ノ二割ヨリ四割乃至五割ニ及フ者アリ凡ソ此割掛ハ會社ノ諸費ヲ賄フカ爲ニ受クルコトナレトモ寄託者多數トナル時ハ社費ヲ賄フテ猶贏アルヲ以テ之ヲ積金トシテ流行病其他非常ノ預備ニ給シ猶餘アル見込ナレハ之ヲ寄託者ニ割戻スナリ尤モ是ハ會社ノ組立方ニヨリテ株主ノ利益トスルモアリ下ニ猶其出處ヲ詳ニス

○寄託者ヘ分配スル利益金ノ事

凡會社カ寄託者ニ分配スル所ノ金ハ通例之ヲ利益金ト稱スレトモ銀行或ハ他商會ノ商業ノ贏利ヲ謂フニ非ス會社ニテ保擔セル義務ヲ盡シタル後ニ餘リタル殘金ヲ割戻スナリ故ニ之ヲ割戻金ト名クルヲ義ニ當レリトス扱此割戻金ノ出ル所ハ三路アリ

(一)死者ノ數命數表ニ推測スル所ヨリ少キ時

(二)始メ掛金ヲ算スル時割引スル所ノ利子ヨリ會社カ之ヲ運轉シテ得ル所ノ利子ノ割合多キ時

(三)割掛金會社ノ費用及ヒ豫備ニ給シテ猶餘アル時

右米國諸會社ノ經驗ニ由ルニ死者ノ數ハ毎年命數表ニ載スル所ヨリ少キコト幾分又利子割引モ通例四分利ヲ用フレトモ之ヲ運轉スレハ大抵一割ニ當ルコトトイフサレハ此差ノミニテモ寄託

者ニ割戻スニハ十分トイフヘシ何トナレハ寄託者ハ素老後或ハ遺族ノ手當ニ掛金ヲスルコトニテ他商社ノ株主トナリ或ハ相場等ニテ賭博ニ類セル大利ヲ得ルヲ主トセサレハナリ尤モ此割合ニテモ米國諸社ヨリ寄託者ニ與フル所ノ利益ハ甚タ大ナル者ナリ扱此利子ヲ分配スルニ二法アリ一ハ會社ノ純益ヲ總計シテ掛金ノ高ニ應シ寄託ノ新舊ヲ問ハス之ヲ分配スルナリ之ヲベルセシテ二ハ會社ノ純益ヲ總計シテ掛金ノ高ニ應シ寄託ノ新舊ニ應シ其掛金ノ高ヲモ計リ掛金ヨリ得ル所ノ利子ヲ相當ニ配分スルナリ之ヲコントリビエーション、プラントイフ掛金ノ會社ニ助ヲ爲シタル高ニ應シテ配分ストイフ義ナリ此法ハ手數ハ掛レトモ正理ニ叶フヲ以テ愚輩ノ社ニテハ之ヲ用フ

以上保生會社ノ事務大略ハ愚儀一カ臆乘ニ留ムルカ爲ニ諸書ヲ折衷參配シテ記スル所ニテ誠ニ蛇足ニ似タリト雖モ萬一御參考ニ裨スル所アラハ大幸ニ奉存候

(9)

會社用語

會社用語解

利益金

此利益金ト稱スルモノハ他ノ營業者ノ取引上ヨリ生スル得益金トハ全ク異ナルモノニシテ即寄託者カ各捐スル所ノ掛金ノ中ヨリ他ノ死者ニ與フヘキ保生金ノ割合ヲ豫算シ置クモノナレ

ハ死者ノ數豫算ヨリ少ナキハ隨テ剩餘ナキヲ得ス其剩餘ノ金高及貸付金ノ利子等ノ中ヨリ積立金ヲ引去リタル殘高ヲ寄託人ニ割戻スモノヲイフ

保生金並保生證書

保生金ト稱スルモノハ寄託者カ死後遺族ノ手當トシテ受取ラント欲スル所ノ者或ハ自身カ老後ノ手當ニ供センカ爲メ壯年ノ頃ヨリ之ヲ約シ若干年ニ至リシトキ受取ラント欲スル者等ナリ又此約束ノ事項ヲ記載セシ證券之ヲ保生證書ト云フ

保生年度

保生年度トハ都テ尋常寄託人一次皆濟ノ分ヲ除ク會社ト締約シ最初掛金ヲ爲シタルトキヨリ滿壹年則翌年ノ當日迄ヲ其人ノ保生年度ト云フ

保生證書有效期限

此有效期限ト稱スルハ年賦掛金或ハ限年掛金等ノ寄託者各掛金ヲ爲シタル當日ヨリ滿一年間即次回掛金期限ノ日マテヲ云フ又一次皆濟掛金及限年掛金ニテ既ニ滿期拂濟トナリタル分ハ其掛金ヲナシタルキヨリ一生涯保生證書有效期限トス

解約割戻直段

第二編 會社資料

寄託者滿三年以上掛金ヲナシタル後止ヲ得サル事故アリテ掛金ヲ爲ス能ハサルキ保生證書ヲ
會社へ戻シテ前ノ掛金ヲ受戻サンコトヲ請フキハ其掛金ヨリ他ノ死者ニ與フヘキ償損金高ヲ引
去タ 高ニ相當ノ利子ヲ加ヘタル金高ヲ云フ

拂濟證書

拂濟證書トハ一次皆濟掛金又ハ會社ニ於テ定メタル掛金割合ニ隨テ三年以上掛金ヲナシタル
後止ヲ得サル事故アリテ掛金ヲナス克ハサルキ是迄掛タル金高ニ相當スル保生金ヲ死後遺族
へ受取ランコトヲ乞フキ前ノ保生證書ト引換ニ一次皆濟掛金ト同様ノ保生證書ヲ渡スモノ之ヲ
拂濟證書ト云フ

東京府ヨリ内務省へ伺

明治十二年十月六日

府下麴町區下六番町四十五番地若山儀一ヨリ日東保生社ト稱シ人命請負ノ業ヲ營ミ度旨別紙之
通願出候處右會社之義ハ民間多少ノ辨益ヲ來シ殊ニ望ミヲ後來ニ屬スヘキ事業ニ付民設成立之
義ハ差支有之間敷候得共夫カ爲メ準備金拜借ヲ官庫ニ仰カントノ義ニ至リテハ凡百ノ事項順序
緩急モ有之即今右等ノ事業ニ對シ資金貸與ノ保護ヲ與ヘ候場合ニハ有之間敷存候右者普通ノ會
社ト異リ候間爲念一應進達候條何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

設立ノ義
ニ付伺 (10)

明治十三年

創立再願

昨明治十二年九月十三日附ヲ以テ出願致置候日東保生會社之儀今般別冊願書ニ連名ノ者加入致
シ且定款議定候間更ニ願ノ通御許可被下候様奉願候也

神田區駿河臺南甲賀町八番地平民

明治十三年一月廿八日

若山儀 一印

東京府知事 松田道之殿

追テ先般差上置候願書會社規程寄託人心得等ハ御下附奉願候也

日東保生會社創立願

愚等竊ニ惟ルニ凡ソ世ノ最モ憂フヘキ者後ノ備ナキヨリ大ナルハアラス王制ニ曰ク國ニ三年ノ
蓄ナキハ國其國ニ非スト儲蓄ノ要亦急ナルカナ是ヲ以テ 皇邦支那ノ古先哲王荒政ニ備フルヲ
以テ最モ重シト爲ス泰西諸國當初亦其備アリ輒近其制漸ク衰替ニ屬シ復之ヲ講スル者稀ナリ蓋
シ聞ク渾與人民其數無慮一十億ニシテ誠ニ能ク其地力ヲ盡セリト爲スヘキ者ハ猶僅ニ其面積十
分ノ一ニ過キス而シテ凶荒頻ニ臻ル者ハ唯其上暴虐ニシテ政治宜ヲ得ス下亦卑陋無智ニシテ苟

創立願書
【第二回
提出】 (12)

創立再願 (11)

モ安ヲ食リ田野闢ケス耕耘務メサルノ國ニ限ルノミ其政文明ニ其俗開化シ野ニ曠土ナク民ニ冗食ナキ國ニ在テハ歎歲飢僅其來ル極メテ稀ナリト然則チ政治愈々寬明ニ人智益々通暢スルニ隨テ農耕ノ術亦其精妙ヲ究メ昔日ニ在テ特リ元行ノ威ニ任シテ其勢ヲ擅ニセシメタル者今日ニ在テハ乃チ能ク人カヲ用ヒ之ヲ克制スルヲ得ルヲ以テ生人既ニ庶シト雖穀米常ニ足ルニ由ルナリ宜ナリ歐米諸國ノ荒政ニ備フルヲ怠ルヤ而シテ是唯食ニ就テ言フノミ若夫レ有年穀多クシテ餘アリ衣賤フシテ棄ルカ如シト雖モ民猶身ニ檻樓ヲ纏ヒ面ニ菜色アル者寡カラス故ニ泰西官ニ濟貧法アリ以テ窮乏ヲ賑恤シ野ニ仁者アリ結社釀金シテ之ヲ給養ス蓋シ所謂濟貧法ノ制タル官ノ府庫ヲ發イテ之カ賑乏ニ給スルカ如シト雖其實ハ富者ニ課スル所ニシテ即此民ヲ損シテ彼民ヲ益スルナリ仁者ノ義捐モ亦然リ止其上ノ令スル所ヲ待ツト自ラ出テ施ストノ異アルノミ而シテ動モスレハ狡背黠吏カ利ヲ營ムノ資トナルノミナラズ且懶民カ惠ニ馴レ施ヲ貪ルノ媒トナルノ弊アルヲ免レス安ソ之ヲ窮民ヲ救フノ長策ト謂フヘケンヤ然リト雖モ愚等此美舉ヲ以テ敢テ益ナシト爲スニ非ス苟モ人ニシテ豈同類ノ慘狀ヲ路視スルニ忍ンヤ但一旦良心ニ感觸スル所酷々切ナルヨリ之ヲ恤ムニ急ニシテ熟ク之ヲ圖ラサルトキハ却テ冗食懶民ノ爲ニ地ヲ作ス而已ニシテ其爲ヲ空徒ニ屬センコトヲ恐ル、ノミ然ハ則チ之ヲ爲ス何如曰ク民ヲシテ自ラ其用ヲ節スルヲ知ラシメ併テ之ヲ勵マスニ在ルナリ蓋シ日ニ一錢二錢ヲ節省スルハ其事頗ル迂濶ナルカ如シ

ト雖之ヲ積ムノ久キ漸ク其驗ヲ見ルトキハ則チ之カ爲ニ勵マサレテ望ヲ將來ニ懷クコト益々盛ナルニ至ルヘシ何トナレハ其用ヲ節シ費ヲ省スル者ハ素ト其目下艱辛ノ陋狀ヲ脱シ逸樂自由ノ域ニ入ランコトヲ欲スルカ然ラサレハ老境ノ安息ヲ期シ兼テ子孫ノ計ヲ爲スニ在ルカ故ニ進一進步一步倍々其鴻的ニ近クヲ以テナリ是故ニ此ノ如キノ徒ハ操ル所ノ業賤シト雖服スル所ノ役煩ハシト雖其地位日ニ進テ躬ノ前日ト異ナルヲ覺フルヲ以テ賤業卑役モ之ヲ操ルヲ厭ハス之ヲ爲スヲ憚ラサルナリ而モ且是等ノ良民ノミ相集テ社會ヲ成ストキハ其國富強ナラサラント欲スルモ得ヘカラス之ニ反シテ人ニ素蓄ナク家ニ豫備ナク朝ニ獲テ夕ニ費シ今日ノ形狀ハ昨日ト同ク將來ノ生計ハ今日ト異ナルナキ是之ヲ口手相接スルノ俗トイフ其生ヤ實ニ望ム所ナキナリ何ヲ樂テ其心思ヲ煩ハシ何ヲ願テ其肢體ヲ勞セン故ニ勞作ヲ厭ヒ辛艱ヲ避ケ唯纒ニ其得ル所ヲ費シテ以テ足レリトシ偶々少シク贏餘アルモ徒ニ淫酒ニ靡シテ復後ヲ顧ミス此等ノ徒其窮極マルニ至ルトキハ或ハ人ヲ殺シ財ヲ盜ミ或ハ妻ヲ賣リ女ヲ鬻キ或ハ嬰兒ヲ掩殺シ孕兒ヲ墮胎シ其策終ニ盡ルトキハ自ラ溝壑ニ轉シテ死スルニ至ル此如キハ特リ風俗ヲ頹壞セシムルノミナラス實ニ是禍亂ノ階ナリ凡ソ此等ノ徒ハ文明開化百業大ニ進ムノ國ト雖大約其三分ノ二ニ居ル故ニ此等ノ民ヲシテ人生適應ノ營生ヲ得セシメントスルハ經濟學上最モ難解ノ疑團トナレリ而シテ此

貧民ノ俗習ヲ改良スルハ實際ニ於テ甚タ難シト雖然トモ此等ノ民皆怠惰ニシテ勞作ヲ厭フト謂フニ非ス又用ヲ節スルヲ欲セスト謂フニ非ス唯之ヲ節スルモ之ヲ蓄フル能ハサルノミ抑々商貨ヲ流通シ算籌ヲ把テ生ヲ爲ス者ハ能ク子母ヲ權ルノ道ヲ知ルト雖夫ノ手工ヲ以テ業ト爲シ賃雇ヲ以テ生ヲ營ム者ノ如キハ多クハ産息ノ事ヲ知ラス偶々之ヲ知ルモノアルモ朝暮ニ節省スル所ノ餘錢ハ稱貸シテ之ヲ増殖スルノ道ナキカ故ニ亦惟徒ニ費靡スルニ至ルナリ是ヲ以テ歐米諸國節用銀行ノ設アリテ幾許ノ程限ヲ定メ貧民ヲシテ瑣碎ノ餘錢ヲ寄託スルヲ得セシム而シテ託ヲ受ル者ハ之ヲ利用シ子母倍息シテ之ヲ本人ニ還ス是ニ於テ乎細民ノ利惠ヲ享クルコト疆リナク終ニ能ク之ヲシテ競フテ其用ヲ節スルノ志ヲ起サシムルニ至ル豈亦無上ノ良策ナラスヤ然トモ人ノ命ヤ限アリ財ノ積ムヤ量アリ榮辱盛衰窮達貧富ハ人世ノ常ナリ若夫レ權門貴豪威ハ赫々トシテ旭日ノ如ク財ハ疊々トシテ積山ノ如シト雖一朝蹉躓アルニ方テハ焉ソ其妻子親屬ノ路傍ニ行吟シ花子ノ群ニ入ルナキヲ保センヤ然ハ則チ之ヲ濟フノ術何如獨リ保生會社ノ設アリテ然後之ヲ能クスヘシ是歐米諸國ニ於テ保生會社ノ日月ニ多キヲ加ヘ節用銀行ト並行ハレテ能ク社會ノ福祉安寧ヲ補ケ政教風化ノ布行ヲ裨タル所以ナリ或人曰ク人民ヲシテ用ヲ節スルノ重キヲ知ラシメント欲セハ學校ヲ設ケテ以テ知識ヲ進メ理財ノ道ヲ知ラシムルニ若クナシト此言ヤ實ニ

然リ然トモ人民皆白手赤貧學ニ就クノ資ナク業ヲ肄フノ違ナキトキハ教導至ラサルナク學校備ハラサルナシト雖何ヲ以テカ教ヲ受ケ業ヲ修ムルヲ得ン夫レ歐米諸國ノ如キ公學ノ制アリテ貧民ノ學費ヲ給スル能ハサル者ニハ地方ノ財産ヲ有スル者ニ分課シテ其費ヲ助ケシムト雖其教化猶普ク及フ能ハサルハ何ソヤ此等ノ細民ノ其子女ヲシテ學ニ就カシムル能ハサルハ營ニ學費ニ乏キノミニ由ルニ非ス皆之ヲシテ幼ヨリ其家業ヲ助ケシムルカ然ラサレハ他其微力ニ堪フルノ勞ヲ操リ家計ニ資セシムルヲ以テ終ニ學ニ從事スルノ違ナキニ由ルナリ故ニ學校ノ教ヲシテ周カラシメント欲セハ獨リ學費ヲ給スルノミニシテ足レリト爲ヘカラス宜ク彼レヲシテ學ニ就クノ餘暇アラシメスンハアルヘカラス學ニ就クノ餘暇アラント欲セハ先ツ其父母ヲシテ子女ノ助ヲ仰カスシテ學費ノ備ヘアラシメスンハアルヘカラス凡ソ此等ノ備給悉ク之ヲ官ニ仰カンカ租稅ノ課收ヲ重クセサルヲ得ス其課收ヲ重クセンカ民ノ囂々ヲ如何セン富者ノ自ラ出テ助クルニ任センカ其費費ラレサルヲ以テ亦其能クスル所ニ非ス且理固ヨリ之ヲ強ユルヲ得ス然則チ公學ノ設アリテ細民ヲ化育スルハ十全ノ良策ナリト雖特リ其效ヲ最モ永遠ニ期センノミ其間先ツ細民ヲシテ自ラ節省シテ子女ノ學ニ就クノ備アラシメスンハアルヘカラス而シテ其備アラシメント欲スレハ其節省スル所ヲシテ能ク殖息ノ驗アラシメ益々之ヲ獎勵セスンハアルヘカラス卽是

節用銀行ノ無ンハアルヘカラサル所以ナリ然リ而シテ疾病死亡ハ命ノ定マル所頭沛流離ハ數ノ免ルヘカラサル者ナレハ亦以テ之カ備ナクンハアルヘカラス夫レ齷齪汝々トシテ營生ニ奔走スルモ其蓄フル所未タ子孫ノ計ヲ爲スニ足ラサルニ一旦溘焉トシテ世ヲ逝ラハ其寡婦孤子何ニ藉テカ世ニ立タン食ニハ九鼎ヲ陳子身ニハ錦綉ヲ纏フモ榮枯其勢ヲ異ニスルトキハ故ニ其力猶務ニ當ルニ足り其財尙餘リアルニ及ンテ夙ニ能ク自ラ節省シテ衰老ノ備ニ充テ子孫ノ計ヲナサハ死スル者ハ安ク存スル者ハ虞ナク而シテ失敗スル者モ亦活理ヲ得ルノ道アリ卽是節用銀行アリト雖モ保生會社無ンハアルヘカラサル所以ナリ夫レ醫ノ劑ヲ下スヤ必ス先ツ其病根ヲ穿ツテ之ヲ除カンコトヲ務ム之ヲ根治ノ療法ト謂フ而シテ病ヲ致スノ源已ニ多シ故ニ治法モ亦百方ナラサルヲ得ス蓋シ衰弱痿憊スル者ハ衝動保固ノ藥ヲ投シテ之ヲ補養シ傍症劇烈ナル者ハ制痛鎮痙ノ方ヲ處シテ先ツ之ヲ治メ君臣佐使調和宜ヲ得テ藥始メテ効アルナリ然トモ人身素ト自ラ良能ノ妙機アリテ病毒ヲ排逐スルニ非レハ神方仙藥モ施スニ處ナキノミ是ヲ以テ醫ノ病ヲ治ムル者ハ其實ハ唯此良能ヲ翼クルノ術ヲ行フノミ病ヲ治スルニ非サルナリ夫レ人ニシテ親ヲ懷ヒ後ヲ慮ラサル者ハ未タ嘗テ之レアラス故ニ其用ヲ節シテ之カ備ヲ致スヲ欲スルハ即人ノ良能全ク然ラシムルナリ夫ノ徒費濫靡今日アリテ明日アルヲ知ラサルカ如キハ是其病ニ罹レルナリ而シテ

其病根ヤ習慣ニ因ル者アリ已ムヲ得サルニ因ル者アリ習慣ニ因ル者ヲ治スルハ漸ク其知識ヲ開進シ徐ニ其本善ヲ化セシムルヲ要ス已ムヲ得サルニ因ル者ヲ治スルハ或ハ之ヲ勵マシテ其因ヲ除キ或ハ其因ヲ除キ兼テ之ヲ保固慰安シ施治果シテ効アルトキハ能ク其精神軀幹ヲシテ強壯ナラシムヘク寧ロ効ナキモ亦後顧ノ慮ナカラシム可シ夫レ初メ因ヲ除ク者ハ病ヲシテ再發ノ患ナカラシメ且其毒ヲシテ子孫ニ遺傳セシメサルノ根治法ニシテ則チ教育ニ非レハ之ヲ能スルヲ得ス後ノ因ヲ除ク者ハ病毒ヲシテ必ス子孫ニ遺傳セシメサルヲ保スル能ハスト雖モ能ク志ヲ勵マシ望ヲ將來ニ懷カシムルヲ以テ其効却テ速ニシテ且子孫ノ爲ニ此病毒ヲ除クノ備ヲ爲サシムルカ故ニ兼テ初ノ因ヲ除クノ補翼トナルナリ而シテ此治法ヲ主ル者ハ則チ節用銀行ト保生會社トナリ殊ニ保生會社ノ如キハ其用ヲ節スルヲ勵マスノカアルコト恰モ節用銀行ノ如クニシテ猶其後顧ノ慮ナカラシムルヲ以テ託者ノ心身ヲ強固スルノ功アリテ其利タル萬全ナリ但夫ノ已ニ貧困ノ極症ニ陥リテ復救フヘカラサル者ノ如キハ濟貧法ノ一劑ヲ用テ其痛ヲ癒シ其悶ヲ鎮メ其生ヲ終ラシムヘキノミ抑々愚等熟々我邦現今ノ景況ヲ視ルニ賤工細商ノ如キハ其用ヲ節スルニ意ヲ用ヒサルコト歐米ノ賤民ニ比スルニ尙甚シキモノアリ加フルニ懶行性ヲ爲シ淫邪俗ヲ爲シ十日ニ獲ル所ヲ一日ニ費スモ願ミルコトヲ知ラス風雨霜雪ニ方ツテハ全ク其業ヲ輟メ淫酒賭博ヲ

以テ日ヲ消ス是ヲ以テ益々其資ヲ失フ故ニ此等ノ民ヲシテ能ク後圖ヲナス者ハ實ニ寥寥タリ是ニ於テヤ嚮ニ所謂人ヲ殺ス者出テ財ヲ盜ム者出テ妻女ヲ鬻ク者嬰孩ヲ掩殺スル者孕兒ヲ墮胎スル者出ツ警視ノ逐捕嚴ナラサルニハアラサレトモ私窠鼠盜ノ屬續々トシテ出ツ是法ノ以テ禁スルヲ得ヘカラサル所ニシテ而シテ教ノ未タ化スルヲ得サル所ナリ蓋シ此等ノ徒ト雖當初亦其用ヲ節センコトヲ思フナキニアラスト雖竹筒錢函ニ貯フルヨリ他策ナキヲ以テ已ムヲ得スシテ無用ニ費了スルカ故ニ終ニ亦怠惰ノ徒ト群ヲ同フスルニ至ルナリ

官此ニ見ルアリテ貯金預所ヲ設ケ以テ細民ノ私蓄ヲ寄託セシメ倍息シテ之ヲ還ス即之歐米節用銀行ノ制ニシテ實ニ我社會ノ爲ニ一大利惠ナリ然リ而シテ節用銀行ハ特リ細民ニ利アルノミ而モ其急需アルニ當テヤ之ヲ引用シテ數年蓄積ノ勞ヲ一朝ニ空ウスル者ナキニ非ス且子母殖息ノ法ナリト雖其生涯ニシテ積ム所ノ額ハ僅々知ルヘキノミ故ニ未タ以テ之ヲ無上ノ放債ト爲スヘカラス又子孫ノ生計ヲ改良スルニ足レリト爲スヘカラス況ヤ其積ムヲ始ムルヨリ僅ニ三兩年ニシテ死スル者ニ於テヲヤ夫ノ保生會社ノ如キハ其用ヲ節シテ後計ニ備ヘシムルノ志ヲ勵マスコト猶節用銀行ノ如クニシテ其利益ハ却テ大ナル者アリ今其一二ヲ擧テ之ヲ言ハンニ尋常ノ保生ヲ寄託スル者ハ其死スルニ非レハ約スル所ノ金ヲ還付セサルヲ通則トスルカ故ニ半途ニシテ之

ヲ費シテ妻子カ給養ノ資ヲ失スルノ患ナキ一ナリ一旦會社ニ寄託スル者ハ數日ニシテ死スト雖其寡婦孤子ハ約スル所ノ金額ヲ得ルヲ以テ後顧ノ患ナキ二ナリ寄託者生存ノ間ハ毎年若干ノ金ヲ納ムヘキヲ以テ少ク平日ノ嗜好娛樂ヲ省カサルヲ得スト雖寄託者愈々多キヲ加フルトキハ每歲得益ノ配與ヲ受クルコト自ラ少カラサルヲ以テ自家節省ノ額漸ク些少ニシテ足ル可ク且其死スルニ當テハ是ニ至ル迄テ捐セル所ヨリ適ニ多クノ額ヲ得ルヲ以テ其益タル量ナキ三ナリ又老後ノ安息ヲ計ルカ爲ニ壯時ニ於テ每歲平均幾何ノ捐金ヲナシ或ハ一次ニ若干ノ金ヲ委頓スル者ハ期滿ルノ年ヨリ其約セル所ノ金額ヲ一回或ハ每歲ニ本人ニ賠還スルノ法アリ之ヲ養老金トイフ是亦此會社ニテ其託ヲ受クルナリ是等ハ節用銀行ノ無キ所ニシテ而シテ保生會社ニ於テハ日常ノ事業トナス愚等按スルニ保生術ノ彼邦ニ行ハルヤ久シ而シテ其盛大ヲ致シタルハ纔ニ茲ニ六七十年ナリ其間社會ニ大益アリシハ人皆之ヲ知レトモ夫ノ寄託者ニシテ其死ニ至ルマテ續々捐金ヲ爲ス能ハサル者ハ設令捐スルノ年已ニ久シト雖其金ヲ會社ニ沒入シテ復ヒ償ハサルト長生スル者ハ天死スル者ノ爲ニ徒ニ捐金ヲ爲ササルヲ得サリシトヲ以テ其弊ナキヲ免レス且人亦信任スル者少カリシカ多年ノ經驗ニ因テ人命ノ中數ヲ計ルコト愈確切ニ子母倍息ノ理益々明瞭トナリシカ故ニ嚮ノ會社ニ沒入スル者ハ或ハ寄託者捐金ノ年ヲ計ツテ其子母共ニ之ヲ還シ或

ハ最初ニ豫メ寄託金ヲ捐シ了ルノ年數ヲ定メ已ニ捐シテ幾年以上ニ及フ者ハ其保生金ノ幾分ヲ死スル時ニ方テ後嗣ニ與フヘキヲ約シ將タ會社カ豫算スル所ヨリ尙長生スル者ニハ從來積ム所ノ利子ヲ還シ而シテ死スル時ニ方テハ尙其初ニ約スル所ノ金ヲ與フヘキヲ再約シ或ハ之ヲ以テ保生金ノ額ヲ増ス等百般社會ニ便スルノ方法ヲ發明シタルヨリ昔時論者ノ攻撃ヲ受ケシ所ノ弊害今ハ則チ盡ク革リ其法益々行ハルナリ米國ノ此新法ヲ初メテ用ヒタル某ノ會社ノ如キハ其寄託ヲ受クルノ數ト其富トハ世界第一ト稱ス夫レ此新法ノ如クニシテ始メテ貧富上下ノ別ナク齊ク其利惠ヲ蒙ルヘキナリ抑々我邦細民ノ情態ハ已ニ上ニ述フルカ如ク所謂中等以上ノ商賈ト雖其衰頹セサルヲ保スル能ハス加フルニ近年人情頗ル輕薄ニ陥リ忍耐勞力久ヲ待ツテ財ヲ積ムヲ務メス一朝ノ機慧ヲ以テ陶朱倚頓ノ富ヲ致サント欲スル者往々是ナリ其激計一タヒ失スルニ方テヤ負債山ノ如ク身代限トナル者項背相望ミ陸續踵テ來ル愚等又竊ニ按スルニ内國貨財ノ融通閉塞スル所以ノモノハ多クハ此等ノ徒カ商業ニ於テ缺クヘカラサルノ信任ヲ失ハシメタルニ出ルナリ豈歎セサルヘケンヤ又顧ミテ士族ノ景狀ヲ觀ルニ世祿ノ制廢セラレテヨリ官之ニ惠ムニ奉還金ヲ以テシ或ハ金祿券ヲ以テス其恩已ニ厚カラストセス然レトモ彼レ皆徒食ニ慣レテ手工算籌ヲ以テ生ヲ活スルヲ知ラサルカ故ニ或ハ細利ニ餌セラレテ習ハサルノ商業ヲ營ミ爲ニ錢

幣ヲ耗スルモノアリ或ハ奸獮ニ騙セラレテ碯碯用フヘカラサルノ地ヲ購ヒ爲ニ錢幣ヲ損スルモノアリ或ハ舊染ヲ脱スル能ハス依然坐食シテ自滅スルモノアリ其最モ拙キハ之花柳ノ一夢ニ徒費シテ明日ノ糊口ニ困スルノ輩アリ街頭叫商輓夫等多クハ此輩ヨリ出ルナリ而シテ其窮ノ極ルニ及フヤ廉耻ヲ破リ刑典ヲ犯スコト他ノ賤民ト異ナルコトナシ是レ固ヨリ其心術ノ拙劣ナルニ出ルト雖亦憐ムヘキナリ又仰テ官ニ在ルノ人ヲ觀ルニ給俸多カラサルニ非サルニ尙滿年賜金ノ制アレハ恩亦至レリト謂フ可シ然レトモ仕ハ未タ以テ終生ノ業ト爲スヘカラス賜金已ニ薄カラスト雖モ奉仕久シカラサル者ハ此賜ヲ以テ子孫ニ遺スニ足ラス蓋シ官ノ世祿ヲ廢シ官吏ノ賜與ヲ大ニセサルハ國用ヲ節シ民勞ヲ省クノ仁政ニシテ愚等カ常ニ感戴スル所ナリ夫ノ官人士族ト雖亦遺憾ナカルヘシ愚等以爲ラク此昭代ニ生レ此恩澤ニ浴スルノ人ハ宜ク自ラ奮テ後ニ備フルノ計ヲ爲シ以テ淳然タル獨立國ノ人民タランコトヲ期セスンハアルヘカラス大商富農ト雖モ輓軻ノ厄ナキヲ保タサレハ是亦後圖ヲ經營セスンハアルヘカラス思フニ人皆慮ヲ此ニ注カサルニアラスト雖唯其節省スル所ヲ増殖保全シ且不時ノ需ニ充ルヲ難ンスルノミ愚等之ヲ憂フル者茲ニ年アリ近日私ニ相謀リ米國紉育府共持保生會社ノ制ニ倣ヒ新ニ保生會社ヲ立テ以テ貴賤貧富ノ別ナク老後ノ安養ニ備ヘ妻子ノ保有ニ給セント欲スル者ヨリ初約ノ類ニ隨ヒ

尋常保生金ハ二百五十圓ヨリ五千圓迄養老保生金ハ五百圓ヨリ二萬圓迄ノ寄託ヲ受ケ是カ保擔
 タラントス蓋シ社ノ制タル素財主ヲ募リ資本ヲ積ミ以テ保生金ノ抵當ト爲スニ非ス寄託者共ニ
 其捐金ヲ以テ相維持シ相救助スルナリ故ニ會社ノ經費ニ給シ非常ノ準備ニ資スルノ外社益ハ盡
 ク之ヲ寄託者ニ分配スルヲ以テ復株主等ニ利ヲ頒ツノ冗費ヲ要セス最モ保生會社ノ本旨ニ合フ
 者ト爲ス因テ今會社ノ定款ト會社事務大畧諸表竝ニ用紙ノ數式トヲ副ヘ謹テ之ヲ左右ニ請フ
 閣下寛仁愚等カ鹵莽ヲ咎メ斯特ニ微衷ノ在ル所ヲ諒セラレ速ニ設立ノ 准允ヲ賜ラハ何ノ幸福
 カ之ニ若ン膏ニ愚等カ幸福ナルノミナラス又惟社會ノ大幸ナラント云尊嚴ヲ冒瀆ス恐懼ノ至リ
 ニ堪ヘス頓首再拜

日東保生會社發起人

- 神田區駿河臺南甲賀町八番地平民
- 若 山 儀 一
- 神田區小川町壹番地靜岡縣士族
- 朝 比 奈 閑 水
- 日本橋區濱町三丁目壹番地和歌山縣平民

明治十三年一月廿八日

東京府知事 松 田 道 之 殿

日東保生社定款

當會社設立ノ趣旨ハ各人節省ノ餘ヲ以テ老後ノ安養後裔ノ保續ニ備ヘ以テ互ニ其康福ヲ補翼ス
 ルニ在リ今此ニ發起人同盟シテ米國紐育州ニ行ハル、^{ミューニョーク}互 相 共 持 保 生 會 社^{ニシテ}ノ制ニ倣ヒ都
 テ當會社ヲ目的トシテ寄託スル者ヲ以テ一般ノ社員トナシ保生寄託ノ權理及ヒ受託ノ義務ヲ相
 互ニ保擔スルヲ本務トシ發起人ノ協議ヲ以テ會社定款ヲ決定スルコト左ノ如シ
 但該定款ハ本支店ニ備ヘ置キ新入各員ニ之ヲ示シ別ニ紹介人心得書中ニ掲載シ紹介人ニ由リ

楠 見 信 貴

本郷區弓町壹丁目廿六番地東京府士族

永 井 直 毅

日本橋區村松町四十四番地平民

行 岡 庄 兵 衛

横濱辨天通三丁目四十九番地平民

原 善 三 郎

テ入社スル者ニハ之ヲ示サシムヘシ

會社名號ノ事

第一條 當會社ノ名號ハ日東保生會社ト稱スヘシ

本支店設置ノ事

第二條 當會社ノ本店ハ東京府下日本橋區濱町二丁目拾壹番地ニ於テ設置スヘシ

第三條 凡ソ當會社ハ一般社會ノ康福ヲ補翼センカ爲ニ設立スルモノナレハ追テ事務ノ擴張スルニ隨ヒ各府縣下便宜ノ地ヘ支店ヲ配置スヘシ

但シ支店設置ノトキハ其度毎ニ管轄廳ヘ申牒スヘシ

資本金ノ事

第四條 當會社ハ相互ニ保生ヲ爲スヲ約束シタル各人ヨリ成立ツ者ニシテ當會社ニ保生ヲ寄託スル者ハ皆當會社員トス故ニ別ニ會社ニ資本ヲ積ムヲナク寄託者即チ社員ノ掛金ヲ以テ保生術ノ算法ニヨリ相互ノ保生金ニ供スルモノトス

會社開業ノ事

第五條 當會社開業ノ准允ヲ得ルトキハ直ニ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ廣告シ寄託申

込人即チ社員ノ數一百名ニ滿ルノ後營業ヲナスモノトス

但寄託社員一百名ニ滿ル迄ハ勿論其後ト雖モ保生算法ヲ以テ各社員掛金總高ノ中ヨリ準備金ヲ減キ去リ殘餘ヲ以テ保生ヲ引受ケラルヘキヨリ多數ノ保生金ヲ要スル寄託者アリトモ之ヲ引受クヘカラス

社員ノ事竝違約人ノ事

第六條 當會社ノ定款ヲ確認シ倚賴書及ヒ保生證書ノ約束ヲ守リ會社ニ於テ定ムル所ノ掛金ヲナシタル者ハ都テ當會社ノ社員トナス故ニ此定款ニ於テ與フル所ノ分限ハ悉ク之ヲ有スルモノトス然レトモ爾後此定款ニ載スル所ノ倚賴書及ヒ保生證書ノ約ニ爽ヒ或ハ自殺シ又ハ國法ヲ犯シ處刑ノ宣告ヲ受クル等ニヨリ會社ノ約束ニ於テ保生證書ノ無効ニ屬スルノ場合ニ於テハ之ヲ違約人ト認做シ社員タルノ分限ヲ失フモノトス

社員互相約束ノ事

第七條 凡ソ當會社ノ社員タランコトヲ欲スル者ハ自身ニ申入ル、ト紹介人ヲ經由スルトニ拘ラヌ此定款ヲ確認シ本社ニ備フル所ノ倚賴書用紙ニ條列セル事項ヲ詳記シ本社醫員又ハ各地ニ居住スル西洋醫ニシテ最モ醫術熟達ノ人ニ體格ノ診査ヲ乞ヒ倚賴書中ニ其保證ヲ受ケ本店ノ

承認ヲ得タル後至當ノ掛金ヲ爲シ保生證書ヲ受クヘシトス

第八條 右依頼書保生證書トハ合セテ會社ト社員トノ約束ヲ保證スル者トス故ニ凡ソ保生證書ニ掲載セル約束ハ一項タリトモ社長竝ニ書記役ノ連署調印セル許諾證書ヲ得ルニ非レハ之ヲ變更スルヲ得ヘカラス

第九條 凡ソ社員タランコトヲ欲シテ自身ニ當會社本店ニ申込ムト紹介人ヲ經由スルトニ拘ラス已ニ依頼書用紙ヲ以テ依頼ニ及フ者ハ其後本店ノ見込ヲ以テ入社ヲ承諾スルト否ルトヲ問ハス金五拾錢ノ手数料ヲ會社ヘ納ムヘク且保生證書ニ貼用スヘキ印紙税金ハ寄託社員ヨリ之ヲ拂フヘシ

第十條 凡ソ保生證書ハ會社ト寄託社員トノ約束ヲ證スル者ト雖其掲載ニ漏ル、所ノ條款ハ寄託社員ニ於テ此定款ニ載スル所ヲ踐ムヘシトス

第十一條 凡ソ當會社ニ保生ヲ託スル社員カ質トスヘキハ其社員自己ノ身體トス故ニ掛金モ亦自身ヨリ之ヲ納ルヲ通則トスレトモ若シ親夫或ハ後見人等其妻子幼年者ノ保生ヲ託スルトキハ其保生金ヲ受取ルヘキ者ノ何人タルニ拘ラス掛金ノ義務ハ其親夫或ハ後見人等ノ負フ所トス

但二人ノ身體ヲ以テ合併保生ヲ託スル者ノ如キハ二人共ニ社員タルヲ以テ掛金モ亦合算シテ課スルカ故ニ保生證書中ニ之ヲ約スル所ノ者ヨリ納ムヘシトス

第十二條 凡ソ寄託社員ノ年齢ハ曆年ニ拘ラス初生ノ日ヨリ三百六十五日ヲ以テ一年トシ會社ト結約スル當日ニ最モ近キ誕辰ヲ以テ幾何年ト定メ剩餘ノ月日ハ之ヲ算入セサルヘシ

第十三條 凡ソ社員タラント欲スル者ハ保生ヲ託スルト年金ノ支給ヲ乞フトニ拘ラス男女共滿十年以上ノ者ニ限ルヘシ

但下第十四條ノ如キ約束ヲ結フ者ハ此例ニアラス

第十四條 凡ソ人ノ父母後見人タルモノ其子女及幼年者養育ノ爲メ又ハ學資嫁妝等ノ爲メ或ハ其子女幼年者ニシテ特ニ一家ヲ立テシムル資本ノ爲ニ其子女年齢幾何ニ及フヲ期シ幾何ノ金額ヲ受取ランコトヲ欲シテ掛金ヲ爲ス者モ亦當社ノ社員タルヲ得ヘシ

但此約束ヲ結フニ於テハ其子女幼年者期限前ニ死スルトキハ唯從來ノ掛金ノミヲ受戻スヲ得ヘキモノトス若シ兼テ其子女幼年者ノ保生ヲ託セントスルキハ其子女滿十年以上ノ者ニ限ルヘシ

第十五條 凡ソ當會社ニ於テハ寄託社員ノ終身保生ト限年保生トヲ託スルニ拘ラス又曆年度ト

會社ノ會計年度トフ問ハス各社員ト會社ト約束ヲ締フノ日ヨリ三百六十五日ヲ以テ一紀トシ之ヲ保生年度ト稱シ各社員ト會社トノ貸借ヲ還清シ義務ヲ保擔釋了スルノ期ト爲スヘシ

第十六條 凡ソ社員ノ掛金ハ會社ト結約ノ當日直ニ東京ノ本店ヘ納ムヘシトス故ニ東京府市内ハ勿論支店或ハ紹介人ヲ經由シテ入社スル者ト雖モ本店ニ於テ掛金ヲ領收スルノ時ヲ以テ結約ヲ創ムルノ日ト爲スヘシ

但上第七條ノ如ク保生證書ヲ受ル前豫メ掛金ヲ預ケ置カント欲スルモノニハ會社ノ本支店ニ於テノミ之ヲ預リ假受取書ヲ渡シ置キ後ニ之ト引替ニ保生證書ヲ授クヘシ

第十七條 已ニ掛金ヲ本店ニ領收スト雖モ社長及書記役ノ連署調印セル保生證書ヲ授ケサル前ハ會社ニ於テ未タ約束ノ義務ヲ負ハサルモノトス

但東京市外ノ社員ナルトキハ其保生證書ヲ郵便ニ附スルノ時ヨリ會社ハ結約ノ責ニ任スヘシトス

第十八條 凡ソ會社ヨリ差出ス所ノ掛金受取證書ニハ必ス社長書記役ノ連署調印スル者トス若シ此證書ヲ有セサル者ハ掛金ヲ爲ストモ其効ナシトス故ニ會社ノ命スル所ノ紹介人ト雖モ右ニ役署印ノ受取證書ト引換サル者ニ掛金ヲ渡ストキハ會社ニ於テ其責ニ任セサルヘシ尤紹介

人ヲ經由シテ掛金ヲ受取ルトキハ其紹介人モ亦受取證書ニ調印スヘシトス

但結約當日ノ掛金ハ保生證書ヲ以テ其領收ヲ證スルカ故ニ第二回保生年度ノ始ヨリ皆受取證書ヲ以テ確收ノ證トス

第十九條 凡ソ終身限年保生トモ掛金ハ結約ノ日先一年分ヲ納メ其後ハ保生證書ニ約スル如ク每保生年度ノ初ニ必ス東京本店ヘ納ムヘシトス尤モ一次皆済ノ分ハ此例ニ非ス

但毎六ヶ月一回毎三ヶ月一回納ムヘキ約束ナレハ結約ノ日先一年分ヲ納メ次回保生年度ノ初ヨリ其約ノ如ク六ヶ月三ヶ月ノ初毎ニ納ムヘシ

第二十條 凡ソ入社ノ新舊フ問ハス保生年度内ニ納ムヘキ掛金ヲ全ク納メ了ラスシテ死去スル者ハ其年度内納メ殘リノ分ハ之ヲ保生金ヨリ差減クヘシ

第二十一條 凡ソ掛金ノ期至ルモ前以テ一應ノ報知ナク掛金ヲ爲サル社員ハ之ヲ約束ニ爽フ者トシ其已ニ納メタル掛金ハ會社ニ沒收シ保生證書ノ約束ハ無効ニ屬スルヲ通則トス尤モ右ノ如キ社員ニシテ住處番號ノ知レタル向ヘハ期限ノ翌日會社ヨリ催促狀ヲ差出スヘシト雖モ其狀ヲ受取ラサル故ヲ以テ後日ニ異議ヲ生スルトモ會社ハ其責ニ任セサルヘシ

但納金期日ヲ愆ツト雖モ猶三十日以内ニ本人又ハ代人本店或ハ支店ニ來リ其事故ヲ陳述ス

ルカ又ハ其事故ヲ記セル書狀ヲ作り紹介人ヲ經テ之ヲ本店ニ致シ掛金ヲ納ムルニ於テハ從前ノ約束ヲ繼續スルヲ得ヘシ尤然ルトキハ愆期ノ日數ニ隨ヒ其掛金高ニ應シ年一割二分迄ノ利子ヲ加ヘテ納メシムヘシ

第二十二條 凡ソ前以テ會社ヘ報知スルト否ルトニ拘ラス納金期日ヨリ已ニ三十日ヲ經テ猶掛金ヲ納メサル者ハ從前ノ約束ヲ繼續スルヲ求ムルトモ更ニ醫員ノ診査ヲ受ケ其體況初約ノ時ト同一ナルニ非レハ其繼續ヲ許ササルヘシ

但繼續ヲ許スニ於テハ從來忘期ノ日數ニ隨ヒ其掛金高ニ應シ會社所定ノ利子ヲ加ヘテ納メシムヘク且診察料トシテ金一圓ヲ拂ハシムヘシ尤遠隔ノ地ニ居ル社員ナルトキハ其診案書ニ醫師ト紹介人トノ連署調印ヲ要スヘシ

第二十三條 納金期限ヲ過ル已ニ一年ニ及フ者ハ決シテ前約ヲ繼續スルヲ得ヘカラス若猶當會社ニ寄託セント欲セハ須ク一切更ニ初約ノ手續ヲ經ヘシトス

第二十四條 凡ソ三年以上掛金ヲ爲シタル社員ニシテ世路ノ艱險ニ遭ヒ已ヲ得ス掛金ヲ爲シ續ク能ハサル者ハ次回保生年度^{即掛金期限}ヨリ三十日前ニ本店ヘ書狀ヲ以テ其由ヲ申通スヘシ然ルトキハ左ノ準則ニ從ヒ解約割戻金ヲ與フヘシ

(一)掛金ノ中ヨリ其社員ノ爲ニ貯ヘ置キタル準備金ト竝ニ是ヨリ生シタル利子トヲ合セタル高ヨリ會社ヘ償フヘキ諸入費負債^{若シ之アラハ}ヲ減去リタルモノヲ以テ割戻金トスヘシ

(二)前ニ締約シタル雙方ノ義務此時ヨリ釋了スルヲ以テ渡シ置タル保生證書ハ直ニ本店ヘ還スヘシ

第二十五條 若シ掛金ヲ爲シ續ク能ハストモ直ニ現金ヲ要セサル者ハ前條一ノ準則ニ隨ヒ從來ノ準備金ト利益金トニテ購ヒ得ル程ノ保生金高ヲ記セル拂濟證書ヲ交付スヘシ

第二十六條 凡ソ社員其妻子及保管幼年者ノ爲ニ自己ノ身體ヲ以テ保生ヲ託セシ者ハ三年以上掛金ヲ爲ストモ上第二十四條ノ如ク解約割戻金ヲ求ムルヲ得ヘカラス尤モ其事狀ヲ前以テ通知スル^フ第二十四條ノ如クスレハ其掛金ノ中ヨリ貯ヘ置キタル準備金ト其利金トヲ合セタル金高ヲ以テ當時購ハル、程ノ保生金額ヲ記セル拂濟證書ヲ交付スヘシ尤前ノ保生證書ハ會社ヘ還納スヘシ

但上第二十四條及本條ノ手續ヲ經タル後ハ再ヒ從前ノ約束通りニ回復セン^{コト}ヲ求ムルトモ之ヲ許サス尤モ更ニ新入ノ約束ヲ爲サン^{コト}ヲ欲スル者ハ之ヲ許スヘシ

第二十七條 曩ニ若干ノ保生金ヲ受取ラン^{コト}ヲ契約シテ入社セル社員ニシテ後其便宜ニ由リ保

生金高ヲ増減セント欲セハ其由ヲ納金期限ヨリ三十日以前ニ本社ヘ申通スヘシ然ルトキハ左ノ準則ニ從ヒ前ノ保生證書ト引換ニ更ニ欲スル所ノ保生金高ヲ記セル保生證書ヲ交付スヘシ

(一)二千圓以上ノ保生金高ニ至レハ殊ニ寄託社員カ體質ニ注意セサルヘカラサルヲ以テ保生金ヲ増加シテ此高ニ及ハント欲スル者ハ更ニ醫員ノ診査ヲ受ケサルヘカラス

(二)増減ヲ乞フ年度ヨリ會社ニテ定ムル所ノ割合ニ從ヒ掛金ヲ爲サ、ルヘカラス

但上第二五六條竝ニ本條トモ相當ノ印紙稅及五十錢ノ手數料ヲ會社ニ納メサルヘカラス

第二十八條 凡ソ一次ニ掛金ヲ皆濟セル者及限年保生ニシテ已ニ掛金ヲ納メ了リタル者等ハ解約割戻金ヲ求ムルヲ得ヘカラス尤負債償還ノ爲等已ムヲ得サル事情アルニ於テハ左ノ準則ニ從ヒ他人ニ讓渡スヲ得ヘシ

(一)讓渡人ト讓受人ト雙方連署ニテ讓渡證書二通ヲ認メ前以テ本社ヘ差出スヘシ其一通ハ本社ニ藏シ一通ハ本社ヨリ之ニ與書シテ讓受人ニ渡スヘシ

(二)右讓渡證書ニハ讓渡人ハ掛金ノ外保生證書ニ載スル所ノ約束ハ盡ク之ヲ守ルヘキヲ保シ讓受人ハ右約束ノ條々逐一承認ノ上讓受タル趣ヲ證スヘシ

第二十九條 凡ソ社員ノ死後保生金ヲ受取ルヘキ者ハ其社員ノ親疎ヲ問ハス其幾人タルニ拘ラ

ス入社ノ時依頼書ニ其姓名住處等ヲ記入シ且己レト共ニ連署調印セシメテ豫メ之ヲ定メ置クヘシ又其社員死後之ヲ貧民救助教育等ノ爲或ハ寺院等ヘ寄進ノ爲ニ用ヒント欲スル者ハ依頼書ニ其由ヲ記シ死後保生金管理者ヲ定メ置キ之ニ連署調印セシムヘシ

第三十條 保生金受取人ハ社員ノ望ニ由リテハ之ヲ易フルヲ得ヘシト雖モ其妻子或ハ保管スル所ノ幼年者ニ係ルトキハ之ヲ易フルヲ得ヘカラス尤其妻ヲ子ニ易ヘ兄弟姉妹相易フル如キハ雙方承認ノ上ハ之ヲ許スヘシ

但保生證書ニハ新ニ定ムル所ノ受取人ノ住所姓名等ヲ書加ヘ前者ノ名ヲ消抹スヘキニ由リ其社員ハ必ス其事由ヲ記セル證書ヲ認メ署名調印シテ保生證書ト共ニ之ヲ本店ニ差出スヘシ此手續ヲ經スシテ叻ニ易フルヲ得ヘカラス

第三十一條 若シ社員一時ノ事故ニ由リ保生證書ヲ抵當ニ差出シ融通ヲ乞フトキハ四年以上掛金ヲ爲シタル者ニハ會社ニ於テ相當ノ金高ヲ貸スヘシ

第三十二條 前條ノ例ニ於テ會社ヨリ借ル所ノ金額竝ニ利子ヲ還清スル能ハサル者ハ從前掛金ノ中ヨリ本人ノ爲メ貯ヘ置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償ハシメ且其年ヨリ保生金高ヲ減シテ保生ヲ託スルヲ許スヘシ

但本條ノ例ニ於テハ其掛金ハ更ニ其年本人ノ年齢ニ引合シテ之ヲ納メシムヘク且右準備金猶餘リアラハ之ヲ以テ其年ノ掛金ニ加ルヲ許スヘシ尤本條前條トモ掛金期限ヨリ三十日以前ニ其由ヲ會社ヘ申通スヘク又前ニ渡シ置ケル保生證書ハ上第二十七條ノ如ク引換ヘキニ付右通知狀ト共ニ之ヲ會社本店ニ差出スヘシ

第三十三條 凡ソ社員其死後保生金ヲ年々遺族ヘ割渡サンコトヲ望ム者ハ初約ノ時或ハ其後ニ至リ豫メ其事ヲ會社ヘ申通スヘシ會社ニ於テハ其死後保生金ト若シ増加金額アルトキハ之ヲモ合計シ保生算法ヲ以テ之ヲ幾年間ノ年金トシテ遺族ヘ渡スヘシ

但本條ノ如キ約束ヲ爲サントセハ保生證書中ニ豫メ之ヲ記スヘク且其社員ノ望ニヨリ死後ニテモ他人ヘ賣却讓與スルヲ得ヘカラサル旨ヲ證書面ニ記シ置キ死後ハ之ト引替ニ年金證書ヲ渡スヘシ

第三十四條 凡ソ社員死去スルトキハ直ニ之ヲ會社ニ報知スヘシ會社ニ於テハ死去證書用紙ヲ遺族ヘ渡スニ付其用紙ヲ受取タル日ヨリ遅クモ一月以内ニ用紙ニ條列セル事項ヲ記入シ醫員ノ診斷書ヲ添ヘ之ヲ會社ヘ差出スヘシ會社ニ於テハ相當ノ検査ヲナシ其書ヲ差出セル日ヨリ六十日間ニ保生證書及掛金受取證書ト引換ニ約束ノ金高ヲ保生金受取人ヘ附與スヘシ

但急病ニシテ醫者ノ治療ヲ受ケサル時間ニ本人死去セシトキハ死去證書用紙ニ死體檢案書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第三十五條 若シ社員ノ死後保生證書面ニ從ヒ保生金ヲ渡スヘキ親族該社員ヨリ前ニ死失スル等(譬ヘハ其社員妻ノミニシテ子女ナク其妻本夫ヨリ前ニ死スルヲ以テ保生金ヲ受取ルヘキ者ナキ如キヲイフ)ノ事故アリテ會社ノ之ヲ處シ難キ場合ニ於テハ公ケノ遺物相續法ニ從ヒ所置スヘシ

第三十六條 若又保生金ヲ受取ルヘキ近親差當リ見出シ難キトキハ該金高ニ應ジ其十分ノ一ヨリ少カラス十分ノ五ヨリ多カラサル金高ヲ埋葬及ヒ祭資料トシテ死家ヘ附與シ東京府下及其社員ノ住地ニ在ル新聞紙上ヲ以テ三週間廣告シテ其殘額受取人ヲ索メ一年ヲ經テ猶申出ル者ナキトキハ之ヲ會社ヘ積立置キ流行病其他ノ事故アルトキ損失ヲ補フノ料トスヘシ

但埋葬祭資料等ノ取賄ハ都テ死者ノ朋友看護人隣佑人等ノ協議ニ任スヘク且此等ノ費用及新聞廣告料ハ殘額ヲ以テ之ヲ給スヘシ

第三十七條 會社ノ豫算ヨリ死者ノ數寡ク貸附金ノ利子豫算ヨリ多ク納マリ社費少キ年ハ幾分ノ總益金ヲ得ヘシ此中ヨリ下利益金分配ノ條下ニ載スル割合ノ如ク毎年一月十五日迄ニ豫メ

利益ノ割合ヲ定メ各寄託社員カ保生年度ノ初毎ニ之ヲ分配スヘシ

但新入社員ニハ第四回保生年度ノ初ヨリ之ヲ分配スヘシ

第三十八條 右ノ利益金ハ各社員左ノ三則ニ循テ之ヲ用フルヲ得ヘシ

(一)入社ヨリ滿三年ノ後ハ毎年之ヲ受取ルヲ得ヘシ

(二)五年以上之ヲ會社ニ預ケ置キ再ヒ是ヨリ生スル利子ト共ニ掛金ト差減クヲ得ヘシ

(三)常ニ會社ニ預ケ置キ其積ム所ヲ以テ更ニ其年ノ年齢ニ相當セル一次皆濟掛金ト爲シ増加保生金ヲ購フカ爲ニ用フルヲ得ヘシ

但第一第二則ノ爲ニ用ヒント欲セハ新入社員ハ滿二年ノ後ヨリ毎年一月一日マテニ其由ヲ本店ヘ書狀ヲ以テ申通スヘシ若シ申通シ之ナキニ於テハ第三則ノ爲ニ用フルト見做シテ處置スヘク且已ニ此處置ヲ爲シタル後ハ復第一二則ニ復スルヲ得ヘカラス又第一二則モ互ニ交換シテ用フルヲ得ヘカラス

第三十九條 凡ソ會社カ憑用スル所ノ命數表ハ健全無病ニシテ危險ニ接セス衛生ニ注意セル者ノミヲ擇ミテ作ル所ナルヲ以テ社員モ亦強壯ニシテ其攝生ヲ忽ニセサル人ヲ擇ムニ非レハ通常掛金ノ割合ヲ以テ其寄託ヲ保擔スル能ハサルニ付左ノ規則ヲ設ケ凡ソ之ヲ守ル能ハス其格

ニ入ル能ハサル者ハ割増ノ掛金ヲ爲サシムヘシトス

〔第一住處旅行ノ限界〕 大日本全國諸島ノ中沖繩縣薩海ノ大嶋等ヲ除キ其他又北海道ハ四十二度ヲ限トシ夫ヨリ以北ハ五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間ヲ限トシ皆住居旅行スルヲ得ヘシ又凡ソ水路旅行ハ必ス西洋形蒸氣船ニ乘リ航スヘシトス

〔第二營業定限〕 火藥爆發藥等ヲ製造搬運シ及ヒ之ヲ取扱ヒ金石礦竈内及ヒ水底ニ在リテ營業操作シ風船ニ乘リ火輪車及ヒ蒸氣船等ノ機關手トナリ海船ノ水火夫船長トナリ及ヒ其乘組人トナリ防火夫トナリ警察官及ヒ海陸軍人トナル等ノ者ハ皆之ヲ定限外ト爲ス

〔第三賦稟體質〕 其祖父母父母伯叔父母兄弟姉妹ニ至ルマテ生時健全ニシテ通例ノ齡ヲ保チ或ハ平康ニシテ生存シ本人體格強壯ニシテ先天後天ノ病素ナキ者トス

第四十條 右住處旅行ノ限界外竝ニ惡疾流行ノ地方等ニ住居スル社員ハ會社ニ於テ相當ト考フル所ノ割増掛金ヲ課スヘシ若シ其地方ニ移住旅行セントスル者ハ豫メ會社ノ許諾證書ヲ受クヘシ

但一時ノ旅行ニ係ル者ハ會社ニ於テ許諾證書ヲ與ヘ掛金ヲ増スト増サ、ルトハ臨時ノ處置ヲ爲スヘシ

第四十一條 又右定限外ノ營業ヲ爲ス者及ヒ體質第三則ニ合ハサル者其他婦女ノ年齢滿十三年ヨリ五十年マテノ者等入社センコトヲ欲スルトキハ別ニ掛金割合ヲ定メテ之ヲ納メシムヘシ
但右危険ニ接スル職業ニ一時轉スル者及ヒ兼業スル者ト雖モ會社ニ於テハ至當ノ割増金ヲ課スルヲ以テ豫メ其由ヲ申通スヘシ又現在危険ノ疾ニ罹ル者ノ如キハ入社ヲ許サ、ルヘシ
第四十二條 凡ソ右二條ノ規則ヲ踐マス又掛金ノ少キヲ欲シテ故ラニ年齢ヲ詐リ或ハ自ラ險疾ノ素因アルヲ知ルモ之ヲ匿シテ醫員ニ告ケス入社ノ後發覺スルニ於テハ會社ハ其社員カ從來ノ掛金ヲ沒收シ之ヲ除名スヘシ

但右事情死後ニ發覺スルトキハ會社ニ於テハ保生證書ニ約スル所ノ義務ヲ負ハサルヘシ

第四十三條 凡ソ毆鬪酒發狂觸刑等ノ爲ニ死ヲ致シ或ハ保生金ニ關係アル者ノ故殺ニ罹リ或ハ毒物タルヲ知り之ヲ飲食シテ死ニ致ル等皆會社ノ豫期セサル所ノ死數ニ係ルヲ以テ會社ニ於テハ此ノ如キ死ヲ致ス者ニ對シテ保生證書ニ約スル所ノ義務ヲ負ハサルヘシ

但平生酒及麻醉物ヲ甚ク嗜ムカ爲ニ漸ク死ヲ致シ又懲役或ハ禁錮百日以上實斷ノ判決ヲ受ルトキハ同ク保生證書ハ無効ノ者トスヘシ

第四十四條 凡ソ地震大洪水等ノ爲一時ニ多數ノ社員死亡スルトキハ會社ニ於テハ暫ク保生證

書ノ約束ヲ中止シ臨時總會ヲ開キ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第四十五條 若シコレヲ其他非常ノ惡疾流行シ當會社ノ期スル所ヨリ死者ノ數多カルヘシト考フル時ハ其時之レカ爲ニ死シタル人ノ保生金ヨリ其高ニ應シ百分ノ一ヨリ少カラス百分ノ三ヨリ多カラサル金高ヲ他生存社員ノ爲ニ會社ヘ申受クヘシ尤翌年ニ至リ計算ノ上過剩ノ分ハ之ヲ割戻スヘシ

但死亡者夥多ニシテ翌年ヨリ掛金割合ヲ増加セサルヘカラサルトキハ臨時總會ヲ開イテ之ヲ議定スヘシ

保生證書種類ノ事

第四十六條 當會社ヨリ發行スル所ノ保生證書ハ之ヲ分ツテ九種トナス其類別ノ目左ノ如シ

第一類 尋常終身保生證書(平均年賦掛金)

寄託社員死後受取ラント欲スル金額(即保生金ナリ以下之ニ倣ヘ)ノ多寡ニ從ヒ本人生存中會社ヘ指スル所ノ掛金ヲ平均年賦トナシ保生年度ノ始メ毎ニ之ヲ會社ヘ納ムルモノトス
其他每六ヶ月或ハ每三ヶ月ニ掛金スルノ約束アリト雖モ同シク年賦ノ掛金ヲ分割セシノミ
ニシテ保生年度ハ同上滿一年トス故ニ保生證書有効期限モ亦此年度内ニ盡ルモノトス

第二類 尋常終身保生證書(限年掛金)

年限ヲ定メテ掛金ヲ爲スノ法ニシテ餘ハ第一類ニ同シ然レモ此限年掛金ノ分ハ最初定タル約東ノ期限滿ル時ハ掛金モ亦納メ濟トナル故ニ其後幾數年寄託社員生存ストモ會社へ掛金ヲ爲スニ及ハス且會社トノ約束ヲ破ルニ非サルヨリハ都テ一生涯保生證書有效期限トナス

第三類 尋常終身保生證書(一次皆濟掛金文)

(拂濟證書云々)

寄託金ヲ締約ノ始メニ皆濟スル方法ニシテ本人ノ約束ヲ守ル間ハ一生涯保生證書有效期限トス

右三類孰レモ本人死去ノ時ヲ以テ約束ノ滿期トス

第四類 養老保生證書

寄託社員ノ年齢幾何ニ至リシキ保生金ヲ渡サンコトヲ約スル證書ニシテ兼テ又期スル所ノ年齢ニ至ラサル前本人死去スルトキハ其保生金ハ遺族へ渡スコトヲ約スル者ナリ
但此類ノ證書ハ期スル所ノ年齢ニ至ルト死去トヲ以テ約束ノ滿期トス又其掛金ノ法ハ右三類ニ同シ

第五類 婦人保生證書

寄託社員死後自己ノ妻一身上使用ノ爲メニ供スル約束ニシテ其掛金ノ方法ハ第四類ト同ク各其好ミニ隨フヘシ

第六類 幼年豫備證書

寄託社員豫メ其子女及保管幼年者ノ爲ニ學資或ハ嫁妝料等ヲ備ヘンカ爲ニ其子女幼稚ノ頃ヨリ會社へ寄託シ則其子女ノ年齢幾何年ニ至リシキ幾何圓ヲ渡サンコトヲ約スルモノナリ其掛金ノ法ハ第一二三類ニ同シ尤此類ノ請合證書ハ其幼年者期スル所ノ年庚ニ至ラサル前死スルトキハ掛金ヲ差戻ス者トス

第七類 幼年豫備保生證書

此證書モ其趣意ハ前項ノ如クニシテ養老保生證書ト同シク其幼年者期スル所ノ年庚ニ至ラスシテ死ストモ保生金ヲ與フルコトヲ約スルモノナリ然レモ此約束ヲ爲スヲ得ル幼年者ハ滿十年以上ノ者タルヘシ

第八類 年賦割渡保生證書

尋常養老二類ノ保生證書ト同様ニシテ唯其證書ニ死後遺族ニ渡ス保生金ヲ若干年ノ間年賦又ハ一生涯ノ年金トナシテ給センコトヲ約スル者ナリ其掛金ノ法ハ第一第二第三類共寄託社

員ノ望ニ任スヘシ

第九類 年金證書

寄託社員幾何圓ノ金額ヲ最初ニ會社ヘ納メ其年或ハ何年後ヨリ年金受取人一生ノ間毎年若干圓ヲ會社ヨリ與フヘキ約束ヲナスモノナリ

以上保生證書ノ類簡便ヲ要スルカ爲ニ九類ニ分ツト雖モ其中猶各種アリ今逐一載セス

保生證書受授ノ事

第四十七條 當會社ヨリ發行スル所ノ保生證書ヲ所持スルノ權利アルモノハ當會社ノ社員タルヘシ

第四十八條 當會社ヘ保生ノ依頼書ヲ差出シ會社ノ醫員ニ診査ヲ受ケ會社ノ承認ヲ得タル後保生證書ノ約束ニヨリ一年分掛金又ハ一生涯ノ掛金ヲ爲セシ者ハ則チ當會社ノ社員ニシテ其時ヨリ保生證書ヲ所持スルノ權利ヲ有スルモノトス

第四十九條 凡ソ終身ト限年トニ拘ラス掛金拂濟保生證書ハ負債其他已ムヲ得サル事故ノ爲ニハ(妻子ノ爲ニセル保生證書ヲ除ク外)他人ニ讓渡ス事ヲ得ヘシ尤然ルトキハ第二十八條ノ準則ニ從フヘシトス

保生證書書改ノ事

第五十條 保生證書ヲ毀損スルトキハ該證書ノ全部又ハ存在セル一部分ヲ會社ヘ持參シ本人ノ署名調印シタル理由書ヲ添ヘ其書替ヲ乞フニ於テハ會社ハ至當ノ檢査ヲ遂ケ別ニ同様ノ保生證書ヲ作りテ之ト引換ニ授與スヘシ

但書替手數料トシテ金五拾錢ヲ保生證書所持主ヨリ會社ヘ納ムヘク且該證書ヘ貼用スヘキ證券印紙代價モ所持主ヨリ出金スヘシ

第五十一條 當會社ヨリ發行シタル保生證書ヲ水火震災等ノ爲ニ流失燒毀埋沒セシト認ルカ或ハ盜難ニ罹リ又ハ遺失セシ等ノ事アルトキハ本人ノ署名調印シタル理由書ヲ會社ヘ差出スヘシ會社ニ於テハ新聞紙ヲ以テ普ク世上ニ廣告シタル後三ヶ月ヲ經テ猶ホ發見セサルトキハ別ニ保生證書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ若シ新聞廣告ヲ爲シタル時ヨリ三ヶ月間ニ本人死亡シ或ハ養老保生ノ滿期ニ至ルトキハ更ニ其由ヲ廣告シ保生金渡シ方ノ手續ヲナスヘシ但證書書替手數料證券印紙代價新聞廣告料等ハ都テ保生證書所持主ヨリ辨償スヘシ

總會ノ事

第五十二條 當會社ノ社員ニシテ保生金一千圓以上要スル約束アル者ノミ總會ニ參シ發言投票

ノ權及ヒ選被選ノ權理ヲ有スルモノトス

但總會當日ノ前新聞紙ヲ以テ之ヲ報告スヘシ

第五十三條 第一次ノ總會ハ開業免許ヲ受ケ入社申込人一百名ニ滿ルノ日ヨリ一ヶ月以内ニ發起人等ノ定ムル所ノ時日場處ニ於テ之ヲ執行スヘシ

但此總會ハ會社ノ取締役ヲ選舉スルカ爲ニ執行スル者トス且此會ニ限り保生金一千圓以上ヲ要スル約束アル社員ノミ十分ノ六出席スルトキハ選舉ノ事ヲ執行スルヲ得ヘシトス

第五十四條 第二次以後ノ總會ハ第一次總會ノ日ヨリ毎五年ノ末ニ社長取締役等ノ定ムル所ノ時日場處ニ於テ之ヲ執行スヘシ

但此會モ亦取締役更選ノ爲ニ執行スル者ニシテ之ヲ定式總會ト稱シ其他ハ總テ臨時總會ト稱スヘシ

第五十五條 第一次總會ノ後ハ監督取締役ヲ以テ總代定議員ト爲シ凡ソ定款ノ更正會社ノ存亡維持ニ關スルノ事ヲ議定處置セシムルヲ得ヘシ且此會ヲ臨時總會ト稱シ社長及當務取締役ノ協議ヲ以テ之ヲ開クヲ得ヘシ

第五十六條 第二次定式總會ヨリハ當日發言投票ノ權理アル社員(本人又ハ代人)合セテ五十名

以上出席スルニ非レハ著手スヘカラス

第五十七條 若シ總會ノ日期刻ヨリ一時間ヲ過キテ定式ノ人員十分ノ六臨席セサリシトキハ更ニ七日ヲ期シ同一ノ場處刻限ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第五十八條 定式臨時ノ別ナク總會ノ議長ハ社長之ニ任シ執筆ハ書記役之ニ任スヘシ但シ社長或ハ書記役時刻ヲ過ル十五分時ニシテ出席セサリシトキハ出席ノ取締役員中ヨリ各一名ヲ選ンテ之ニ代ラシムヘシ

第五十九條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ決定スルハ可否又ハ同意不同意ナル發言投票ノ數多キモノヲ以テスヘシ而シテ決議濟ノ次第ハ之ヲ會社ノ簿冊ニ登錄シ議長執筆之ニ記名調印シ以テ後日ノ參照證據ニ備ヘ置ヘシ

第六十條 凡ソ總會ニ當リ發言投票ノ數相半スルトキハ議長ノ助說決票ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ第六十一條 若シ議定ノ事定款ノ更正役員ノ更選掛金割増等ニ係ルトキハ右確定ノ日ヨリ日數三十日以内ニ其趣旨顛末ヲ謄寫シテ之ヲ管轄廳ヘ届出ツヘシ

但役員更選掛金割増等ノ事ハ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

發言投票ノ事

第六十二條 發言投票ノ權理アル社員ハ其ノ保生金ノ高一萬圓迄ハ千圓毎ニ壹個宛ノ發言投票ヲ爲スヲ得ヘク一萬圓以上ハ五千圓毎ニ壹個宛ヲ増加スヘシ

第六十三條 發言投票ハ本人又ハ代人ニテモ苦シカラス尤モ代人ハ左ノ委任狀ヲ携帯セル一千圓以上ノ保生金ヲ要スル約束アル社員ニ限ルヘシ
用紙證券界紙

委任狀ノ事

拙者(疾病事故)ニ付何ノ誰ヲ以テ部理代人ト定メ拙者ノ名義ニテ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

一、日東保生會社第何回社員總會(或ハ臨時總會)ニ於テ發言投票ノ事
右代理ノ委任狀依テ如件

年號 月 日

住所 身分

姓

名 印

第六十四條 當會社ノ役員タル者ハ他社員ノ代人トナリテ發言投票スルノ權利ヲ有スル事ヲ得ス又保生證書ヲ當會社ヘ借財ノ爲メ質入シタル寄託社員ハ自身又ハ他社員ノ代人ニテモ一切

發言投票ノ權利勿ルヘシ

諸役員ノ事

第六十五條 當會社ノ役員左ノ如シ

取締役 二十人

中分ツテ常務監督ノ二類ト爲シ監督取締役ハ會社ノ一般事務ノ景況ニ注視スルヲ任トシ
常務取締役ハ日常社務ヲ司ル即其職掌ハ左ノ如シ

社長 一人

副社長

二人 當分

司數者 一人

同 副

二人 當分

診查醫 二人 當分

書記役

一人

出納掛 二人 當分

但當會社創立ノ際取締役ノ選任アル迄ハ姑ク發起人ヲ以テ之ニ充ツヘシ
又別ニ

檢算掛 二人 當分

主 簿

五人 當分

右ハ一千圓以下ノ保生金ヲ要スル約束アル社員ヨリ社長取締役ノ協議同選ヲ以テ之ヲ命ス

ヘシ

第六十六條 社長ハ當會社營業ノ全體ニ注意シ一切ノ事務ヲ總理シ總テ其責ニ任スヘシ

第六十七條 副社長ハ社長ヲ輔ケテ一切ノ事務ニ注視シ社長欠席スルトキハ姑ク代ツテ文書ニ

署名調印シ或ハ支店ニ在ツテ代理ノ任ニ當ルヘシ

第六十八條 司數者ハ保生ニ就キテノ一般ノ計算ヲ掌リ新ニ命數表ヲ製スル等ノ責ニ任スヘシ

第六十九條 診查醫ハ寄託社員ノ體格ヲ診查シ其他流行病豫防等ノ事ニ注意シ且病患統計表ヲ

製スルノ責ニ任スヘシ

第七十條 書記役ハ社中一切ノ文書帳簿ヲ管守シ又ハ社長ノ相談役トナリ及ヒ保生證書ニ連署

シテ其責ヲ補擔スヘシ

第七十一條 出納掛ハ一切金錢出納ノ事務ヲ掌ル

第七十二條 檢算掛ハ社長及ヒ取締役ヲ佐ケテ社中一般ノ計算ヲ檢査スヘシ

第七十三條 主簿ハ各課ニ隸シ社長及ヒ各課擔任者ノ指揮ニ從ヒ帳簿ヲ整理スヘシ

役員選舉ノ事

第七十四條 當會社ノ社員保生金一千圓以上ヲ要スル約束アル者ノ中ヨリ二十人ヲ選ンテ取締

役トシ之ヲ社員ノ總代トス

第七十五條 取締役ノ衆議ヲ以テ其中ヨリ當務ノ者ヲ選ミ餘ハ監督ノ事ヲ任ス共ニ在職五年ヲ以テ更選ノ期ト爲ス

但社長ハ取締役中ヨリ先ツ最モ保生術ヲ通知セル者ヲ選ムヘク又司數者診查醫ハ姑ク本條ノ例ニ據ラサルコアルヘシ

第七十六條 若シ定式總會ノ期至ラサル間當務監督取締ノ員缺クルニ逢フカ或ハ之ヲ増置カントスルトキハ社長監督取締役ノ協議ヲ以テ姑ク之ヲ補充選任スルヲ得ヘシ
但社長缺クルトキハ臨時總會ヲ開イテ更ニ之ヲ選舉スヘシ

役員ノ權理及義務ノ事

第七十七條 社長取締役ハ寄託社員ノ選舉スル所ナレハ則其代理人ト見做スヘシ故ニ監督取締役ノ外ハ當務社員ノ權限内ニ於テ取扱フ所ノ事ニ干預スルヲ得ヘカラス

第七十八條 社長ハ會社ノ權利ヲ伸張シ損失ヲ償フカ爲ニ社名ヲ以テ訟庭ニ訴フルヲ得ヘク又保生證書ニ關スル事ノ外當務ハ社名ヲ以テ執行スルヲ得ヘシ

第七十九條 社長ハ監督取締役ト協議ノ上當務社員ノ褒貶黜陟ヲ行フヲ得ヘク若シ急ニ臨ンテ

ハ獨斷ヲ以テ之ヲ行ヒ後ニ監督取締役ニ事由ヲ報スルヲ得ヘク又檢算掛以下ノ黜陟ハ之ヲ專行スルヲ得ヘシ

第八十條 社長ハ取締役等ト協議ノ上地方ニ支店ヲ開キ副社長中ヨリ選ミ本社ノ事務ヲ代理セシムヲ得ヘシ

第八十一條 支店代理ノ副社長ハ社長ヨリ特ニ委託スルニ非レハ紹介人ノ權限ヲ踰ルヲ得ヘカラス

第八十二條 社長ハ各地ニ於テ身分相當ノ者ヲ選ミ會社ノ名ヲ以テ紹介人ヲ命スルヲ得ヘシ

第八十三條 監督取締役ハ當務取締役ト參坐シ社長ノ過失ヲ彈劾シ事ニ應シテハ之ヲ黜ケ臨時總會ヲ開イテ更ニ其人ヲ選舉スルヲ得ヘシ

第八十四條 凡ソ當務社員ハ相當ノ給料ト之ニ應セル報勞金ヲ年毎ニ受ルヲ得ヘク又殊ニ會社ノ創立ニ功アル者ハ年金等ヲ受ルヲ得ヘシ

但給料報勞金等ハ事務ノ繁簡責任ノ輕重ニ應シ時ニ社長監督取締役協議ノ上之ヲ定ムヘク創立有功者ノ年金等ハ創立ノ時發言投票ノ權アル者協議シテ之ヲ定ムヘシ

第八十五條 凡ソ當務社員ハ會社ノ定ムル所ノ掛金ヲ爲シ保生ヲ託スルノミナラス其責任ノ輕

重ニ應シ二百五十圓ヨリ一千圓マテノ身元金或ハ之ニ適セル抵當物ヲ差入置クヘシ

第八十六條 若シ當務社員故造失誤ニ拘ラス會社ニ損失ヲ負ハシムルカ或ハ定款及ヒ申合規則

ニ違背スルトキハ其輕重ニ應シ或ハ給俸報勞金ヲ以テ償ハシメ或ハ保生證書身元金等ヲ會社ヘ沒收シ以テ寄託社員ニ對スル義務ヲ盡サシムヘシ

但發起ノ際盡力セシ者ニ限り身元金ハ給料ノ中ヨリ割引シテ差出スノ自由ヲ與フヘシ

第八十七條 凡ソ監督取締役ハ平常事ニ當ラス總代ノ義務トシテ當務役員ノ監查ヲ爲ス者ナレハ固ヨリ給料ヲ受ヘカラス唯社長及當務取締役等ノ協議ヲ以テ至當ノ報酬ヲ致スヘシトス故ニ亦身元金ヲ會社ヘ差出スノ義務ナシ

但第一百條ノ如ク監督取締役カ會社ノ會計ヲ檢査スル時ノ費用等ハ會社ニ於テ之ヲ償フヘシトス

會社紹介人ノ事

第八十八條 凡ソ一千圓以上ノ保生金ヲ要スル約束アル社員百人以上アル地方ニ於テハ社長ノ見込ヲ以テ其中ヨリ一人ヲ選ンテ紹介人ヲ置クヘシ

但局地紹介人ハ保生金五百圓以上要スル約束アル者ヲ選任スルコトアルヘシ

第八十九條 凡ソ紹介人ハ總管局地ノ二種ニ分チ總管紹介人ハ三府及ヒ都會ノ地ニ在リ一府及ヒ數縣内ノ入社員ヲ紹介スルヲ得局地紹介人ハ唯一局地ノ入社員ヲ紹介スルヲ得ヘシ

第九十條 總管紹介人ハ雙方熟談ノ上局地紹介人ヲ用フルヲ得ヘシト雖モ皆社長ヨリ直ニ命スル所ノ者ニ非レハ之ヲ用フルヲ得ス

第九十一條 凡ソ紹介人ハ各其紹介セシ寄託社員ノ掛金高百分ノ五ヲ會社ノ會計年度ノ終毎ニ手數料トシテ給與スル者トス

但一時皆濟掛金ノ分ハ其社員ノ掛金一割年金掛金ノ分ハ其百分ノ一ヲ給スヘク已ニ解約割戻ヲ爲ス者及ヒ保生ノ約束滿期ニ至レル者其他違約ノ者ノ分ハ其年ヨリ手數料ヲ給スヘカラス

第九十二條 凡ソ總管紹介人ハ身元金トシテ五百圓以上ノ金額又ハ其實價アル抵當物ヲ常ニ會社ヘ納メ置クヘク且此身元金高及抵當物實價額ハ寄託社員ノ數加ハリ掛金ノ高増スニ應シテ之ヲ増シ納ムヘシトス

第九十三條 凡ソ局地紹介人ハ身元引受トシテ其他ノ財産アル者三名以上ノ連署保擔ヲ要スヘシ

第九十四條 凡ソ紹介人ハ會社ト寄託社員トノ間ニ立テテ互ニ其信ヲ通スルノ機關タルノミ故ニ會社ノ役員ニ代ツテ掛金ノ割合會社ノ定款ヲ人ニ説明シ寄託セントスル者アレハ依頼書用紙ノ趣旨ヲ示シ自ラ立會フテ其人ヲシテ式ノ如ク之ニ書載調印セシメ且醫者ト立會フテ其人ノ體質ヲ診査セシメ助ケテ依頼書ヲ作り以テ之ヲ會社本店ニ郵致シ掛金ヲ受取り會社ノ出ス所ノ保生證書ヲ社員ニ交付スル等ノ事ヲ以テ其職務トス

第九十五條 又其紹介セル寄託社員ヨリ年々掛金ヲ受取り之ヲ會社ヘ郵送シ或ハ爲替ヲ組ミテ之ヲ送り或ハ傍近ニ在ル會社支店ニ之ヲ納メ其他社員互相約束ノ諸條ニ載スル所ノ事ニシテ寄託社員ノ請ニ由ルカ會社ノ申付ニ從フテ之ヲ辦理スル等ノ事ニ限ルヘシ尤時々會社ノ指令スル所ニ從ヒ行フ所ノ事ハ此限ニアラス

但寄託社員ヨリ會社ヘ納ムヘキ印紙稅料手數料等ニ掛金ト共ニ紹介人之ヲ本支店ニ輸スヘク此等ノ爲ニ費ス所ノ郵便稅爲替打歩其他保生證書掛金受取證書等ノ郵送料等ハ皆紹介人之ヲ償フヘシトス

第九十六條 凡ソ總管紹介人ニ屬スル局地紹介人ハ掛金其他會社ヘ納ムヘキモノ郵送スヘキモノ等盡ク總管紹介人ヲ經由シテ之ヲ致スヘク其手數料等モ亦總管紹介人ヲ經テ之ヲ受取ルヲ

得ヘシ

但總管局地紹介人トモ掛金ヲ受取ルトキハ會社ノ受取證書ノ裏面ニ署名調印スヘシ

第九十七條 凡ソ紹介人タル者ハ皆常ニ當會社ヨリ與フル所ノ委任狀竝ニ指令書ヲ携帶スヘシ之ヲ携帶セサル者ハ當會社ノ紹介人ト認ムヘカラス

第九十八條 紹介人ハ會社ニ代テ寄託社員ト約束ヲ結フ事ヲ許サス又紹介人ノ名義ヲ以テ他人ト約束ヲ爲スヲ許サス其他自己專斷ニテ取扱タルコトヲ以テ會社ニ其責ヲ負ハスルヲ得ヘカラス

第九十九條 紹介人ハ寄託社員ヨリ手数料又ハ紹介ノ爲メト号シ或ハ其他ノ事ニ託シ金子贈物等ヲ受ルヲ許サス

條百條 都テ會社ノ則ヲ犯シ指令ニ背キ其他取扱上ノ不都合ヲ以テ會社ヘ損失ヲ負ハスル事アルカ又ハ寄託入社人ニ詐僞ノ情アルヲ知テ庇隱シタル事等アルカ或ハ上第九十八九條ニ載スル如キ所爲アルトキハ其身元金竝ニ寄託掛金ハ會社ニ没入スヘシ

但償フヘキ損失アリテ身元金ニテ引足ラサルトキハ猶資力限り取立ツヘク又保擔人アル者ハ本人ト共ニ其償ヲ納メシムヘシ

第一百一條 凡ソ總管紹介人ニ屬スル局地紹介人及ヒ其使役スル手代等ノ爲シタルコトハ勿論會社ニ於テ其責ヲ負ハサルヘシ

營業ノ事

第一百二條 入社人アルトキハ其求ムル所ノ保生金高ニ應シ相當ノ掛金ヲ定メ各入社人カ望ム所ノ保生證書又ハ年金證書ヲ發行スヘシ

但追テ實驗ノ上命數表ヲ制定スヘシト雖モ當分米國歴驗表ヲ應用シ寄託社員ノ掛金割合ヲ定ムヘシ

第一百三條 當會社ノ休業ハ每月金曜日其他定式ノ祝日國祭日ニ限ルヘシ

第一百四條 當會社ノ營業時間ハ定式(又ハ臨時)休暇ヲ除ク外毎日午前第九時ヨリ午後第三時迄タルヘシ

社印ノ事

第一百五條 當會社ニ於テ用フル所ノ本店ノ印章ハ左ノ如シ

分四寸一
東京
日生
社印

分六
東京日東保生社

分五
東京日東
保生社
分八

計算ノ事

第六百六條 當會社諸計算ノ爲メ本店ニ備フル所ノ帳簿ハ複式記簿法ヲ用ヒ銀行簿記法ヲ折衷シ明瞭ニ登記スヘシ且此帳簿ハ書記役ノ管理スル所ニシテ社長及司數者出納掛各之ニ檢印スルモノトス

第六百七條 當會社ヲ管轄スル所ノ衙門ヨリ官吏ヲ派遣セラレ帳簿ノ檢査ヲ要セラルハトキハ營業時間何時ニテモ其閱覽ニ供スヘシ

第六百八條 當會社ノ諸帳簿ハ裁判上ノ證據ト爲スヲ得ヘシ

第六百九條 監督取締役ハ毎年一月七月ノ兩度其中ヨリ少クモ三八以上ヲ選ミ檢算委員ト爲シ會社ノ帳簿ヲ閱シ其計算ヲ檢査シ連署調印シテ其誤ナキヲ證スヘシトス

利益金分配ノ事

第一百十條 當會社ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ヲ會計年度トナシ其翌年一月ヲ以テ前年ノ出納總額ヲ較算シ左ノ方法ニ從ヒ豫メ利益金ノ分配ヲ定ムヘシ

總益金ノ中ヨリ社費○損失補償○準備金(各寄託社員掛金ノ中ヨリ保生算法ヲ以テ毎年貯置ク者)等ヲ減去リ餘ヲ純益金ト稱シ又其中ヨリ左ノ割合ヲ以テ之ヲ分ツ

十分ノ二 拜借金返納積金

十分ノ三 非常豫備積立金

十分ノ五 利益金

右利益金ハ各社員ノ掛金高ト入社ノ年數トニ應シ公平ニ分配スヘシ

第六百十一條 右利益金ハ會社ノ會計年度毎ニ豫メ之ヲ定ムト雖モ各社員入社ノ月日殊異ナルヲ以テ其初メテ入社セシ年ヨリ第四年ノ保生年度ノ初ヨリ三年分ヲ合セ且是ヨリ生スル利子トモ一時ニ分配シ其後ヨリハ毎保生年度ノ初ニ之ヲ分ツヘシ

但其分配ノ報告ハ各社員ノ掛金期限ヨリ二ヶ月前各名ニ宛テ之ヲ郵送スルニ付其使用セントスル方法ヲ第三十八條ノ如ク會社ヘ申入ルヘシ尤此報告ヲ受取ラサル等ノ故ヲ以テ後日ニ異議ヲ生スルトモ會社ニ於テハ其責ニ任セサルヘク且第一回分配ノ後ヨリハ會社ニ於テ

此報告ヲ爲スヘカラス

第一百十二條 若シ社費損失補償等多ク且貸附金ノ利子豫算ヨリ少ク入ルトキハ全ク利子ノ分配ヲ爲サ、ル年モアルヘシ

金錢出納ノ事

第一百十三條 當會社ヘ收納スル所ノ現金ハ(雜費小買物等ニ供スルタメ會社ヘ備ヘ置ク金額ヲ除ク外)掛金準備金及ヒ積立金トモ東京ニ本店設置アル國立銀行等ト利付當座預金ノ約束ヲ結ヒ其銀行ヘ預ケ置其支拂フヘキ金額ハ當坐預金小切手ヲ以テ銀行ヨリ引出スヘシ

第一百十四條 當會社ノ見込ニヨリテハ公債證書ヲ買收シテ之ヲ貯蓄シ又ハ公債證書地金銀地券保生證書等ヲ抵當トナシ貸付金ヲ爲スヘシ

第一百十五條 當會社ノ金錢出納時間ハ毎日午前第九時ヨリ午後第二時マテタルヘシ

記録縦覽ノ事

第一百十六條 會社ノ社員人名簿年報等ハ各社員ノ望ミニヨリ營業時間ハ之ヲ展覽スルヲ得ヘシ然レトモ毎年六月十六日ヨリ七月十五日迄ト十二月十六日ヨリ翌一月十五日迄ハ縦覽ヲ許サス

報告ノ事

第一百七條 每會計年度會計ノ末監督取締役ノ檢算委員ハ實際出納年報ヲ作り當務取締役ハ實際考課狀ヲ作り併セテ之ヲ管轄衙門ニ申牒スヘシ

第一百十八條 右兩年報ノ中ヨリ取締役ハ寄託總社員ヘ宛ツル年報并掛金表取締役及ヒ社員姓名表ヲ作り之ヲ出版シ支店并ニ紹介人ニ分配シ尙望出ル社員ニハ之ヲ贈ルヘシ

第一百十九條 社長ハ右年報ノ中ヨリ出納ノ要領ヲ抄記シ二週間新聞紙ヲ以テ之ヲ報告スヘシ

第一百二十條 社長監督取締役其他司數者診查醫書記役等擔當役員ノ姓名ハ新聞紙ヲ以テ報告スヘシ

會社定款更正ノ事

第二百一十一條 此定款ノ箇條ハ當會社社員總會ノ決議ノ上政府ノ承認ヲ得ルニ於テハ何時ニテモ之ヲ更正加除スルヲ得ヘシ

右日東保生會社定款ハ之ヲ三通ニ認メ本紙一通正寫一通ヲ上呈シ他ノ一通ハ同文言ニテ慥ニ之ヲ會社ニ藏メ置候仍テ其證據トシテ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候也

日東保生會社發起人

神田區駿河臺南甲賀町八番地平民

若山儀 一印

明治十三年一月廿八日

神田區小川町壹番地靜岡縣士族

朝比奈閑 水印

日本橋區濱町三丁目壹番地和歌山縣平民

楠見信 貴印

本郷區弓町壹丁目廿六番地東京府士族

永井直 穀印

日本橋區村松町四十四番地平民

行岡庄兵衛

(不在ニ付欠印)

横濱弁天通三丁目四十九番地

原善三郎印

設立再願
ニ付照會 (14)

東京府ヨリ内務省へ照會案

明治十三年二月三日

府下神田區駿河臺南甲賀町八番地若山儀一ヨリ日東保生會社ト稱シ性命請負會社設立之義願出
昨年十月七日附ヲ以御省へ相伺置候處尙又願人加名之者有之且尙定款議定候趣ニ而更ニ願書并
ニ定款差出シ曩ニ及進達置候書類ハ返付相成度旨別紙之通願出候間書面引換相成度此段及御照
會候也

日東保生會社拜借金願

拜借金願 (15)

別冊會社設立願文中ニ上陳スル如ク本社ハ米國ノ共持會社ニ倣ヒ資本ヲ募收セス寄託者ノ中ヨ
リ擔任社員ヲ選舉シ各其捐金ヲ以テ互ニ保擔維持スルノ制則ナルカ故ニ會社ノ經費ニ給シ非常
ノ準備ニ供スルノ外盡ク寄託者ニ分配スルヲ以テ復株主等ニ利ヲ頒ツノ冗費ヲ要セス最モ保生
會社ノ本旨ニ合フ者ニシテ寄託者ニ利惠ヲ與フルモ亦此制則ニ若ク者ナシ然ルニ我 邦從來苟
モ會社ト稱スレハ皆資本ヲ積ミ業ヲ營ム者ヲ示スニ慣ル、ト且本社ノ事業タル亦創始ニ係ルヲ
以テ其理ヲ解セサル者或ハ疑ヲ懷カンコトヲ恐ル因テ今價額金ニ萬圓ニ値ル所ノ公債證書ヲ

壽 常 保 生

壽 常 保 生		壽 常 保 生		壽 常 保 生	
年	掛金	年	掛金	年	掛金
60	59.7	50	49.7	40	39.7
59	58.7	49	48.7	39	38.7
58	57.7	48	47.7	38	37.7
57	56.7	47	46.7	37	36.7
56	55.7	46	45.7	36	35.7
55	54.7	45	44.7	35	34.7
54	53.7	44	43.7	34	33.7
53	52.7	43	42.7	33	32.7
52	51.7	42	41.7	32	31.7
51	50.7	41	40.7	31	30.7
50	49.7	40	39.7	30	29.7
49	48.7	39	38.7	29	28.7
48	47.7	38	37.7	28	27.7
47	46.7	37	36.7	27	26.7
46	45.7	36	35.7	26	25.7
45	44.7	35	34.7	25	24.7
44	43.7	34	33.7	24	23.7
43	42.7	33	32.7	23	22.7
42	41.7	32	31.7	22	21.7
41	40.7	31	30.7	21	20.7
40	39.7	30	29.7	20	19.7
39	38.7	29	28.7	19	18.7
38	37.7	28	27.7	18	17.7
37	36.7	27	26.7	17	16.7
36	35.7	26	25.7	16	15.7
35	34.7	25	24.7	15	14.7
34	33.7	24	23.7	14	13.7
33	32.7	23	22.7	13	12.7
32	31.7	22	21.7	12	11.7
31	30.7	21	20.7	11	10.7
30	29.7	20	19.7	10	9.7
29	28.7	19	18.7	9	8.7
28	27.7	18	17.7	8	7.7
27	26.7	17	16.7	7	6.7
26	25.7	16	15.7	6	5.7
25	24.7	15	14.7	5	4.7
24	23.7	14	13.7	4	3.7
23	22.7	13	12.7	3	2.7
22	21.7	12	11.7	2	1.7
21	20.7	11	10.7	1	0.7
20	19.7	10	9.7	0	0.0

養 老 保 生

養 老 保 生		養 老 保 生		養 老 保 生	
年	掛金	年	掛金	年	掛金
60	59.7	50	49.7	40	39.7
59	58.7	49	48.7	39	38.7
58	57.7	48	47.7	38	37.7
57	56.7	47	46.7	37	36.7
56	55.7	46	45.7	36	35.7
55	54.7	45	44.7	35	34.7
54	53.7	44	43.7	34	33.7
53	52.7	43	42.7	33	32.7
52	51.7	42	41.7	32	31.7
51	50.7	41	40.7	31	30.7
50	49.7	40	39.7	30	29.7
49	48.7	39	38.7	29	28.7
48	47.7	38	37.7	28	27.7
47	46.7	37	36.7	27	26.7
46	45.7	36	35.7	26	25.7
45	44.7	35	34.7	25	24.7
44	43.7	34	33.7	24	23.7
43	42.7	33	32.7	23	22.7
42	41.7	32	31.7	22	21.7
41	40.7	31	30.7	21	20.7
40	39.7	30	29.7	20	19.7
39	38.7	29	28.7	19	18.7
38	37.7	28	27.7	18	17.7
37	36.7	27	26.7	17	16.7
36	35.7	26	25.7	16	15.7
35	34.7	25	24.7	15	14.7
34	33.7	24	23.7	14	13.7
33	32.7	23	22.7	13	12.7
32	31.7	22	21.7	12	11.7
31	30.7	21	20.7	11	10.7
30	29.7	20	19.7	10	9.7
29	28.7	19	18.7	9	8.7
28	27.7	18	17.7	8	7.7
27	26.7	17	16.7	7	6.7
26	25.7	16	15.7	6	5.7
25	24.7	15	14.7	5	4.7
24	23.7	14	13.7	4	3.7
23	22.7	13	12.7	3	2.7
22	21.7	12	11.7	2	1.7
21	20.7	11	10.7	1	0.7
20	19.7	10	9.7	0	0.0

(面裏ノ告廣社會生保東日)表金掛

横濱辨天通三丁目四十九番地

原 善三郎

東京府知事 松田道之殿

拜借金願書交換願

豫テ出願致候日東保生會社創立願ニ添へ差出候拜借金願書之儀別冊之通修正仕候間曩ニ上呈候
拜借金願書ト御引換被成下度此段以書面奉願候也

明治十三年四月七日

日本橋區濱町貳丁目十一番地

日東保生會社發起人總代

若山儀 一

東京府知事 松田道之殿

別冊會社設立願文中ニ上陳スル如ク本社ハ米國ノ共持會社ニ倣ヒ資本ヲ募收セス寄託者ノ中ヨ

リ擔任社員ヲ選舉シ各其捐金ヲ以テ互ニ保擔維持スルノ制則ナルカ故ニ會社ノ經費ニ給シ非常ノ準備ニ供スルノ外社益ハ盡ク寄託者ニ分配スルヲ以テ復株主等ニ利ヲ頒ツノ冗費ヲ要セス最モ保生會社ノ本旨ニ合フ者ニシテ寄託者ニ利惠ヲ與フルモ亦此制則ニ若ク者ナシ然ルニ我邦從來苟モ會社ト稱スレハ皆資本ヲ積ミ業ヲ營ム者ヲ指スニ慣ル、ト且本社ノ事業タル亦創始ニ係ルヲ以テ其理ヲ解セサルモノ或ハ疑ヲ懷カンコトヲ恐ル因テ會社ニ準備スル所ノ價格金貳萬圓ニ值ルノ公債證書ヲ 官庫ニ委頓シ奉リ同額金員ノ恩借ヲ辱フシ暫ク創立ノ費用ニ給シ兼テ準備ニ供シ而シテ開業後十年間ハ毎年百分ノ五ノ利子ノミヲ獻リ其後更ニ十年ヲ期シ子母共ニ各年ニ均分シ奉還センコトヲ請フ伏テ冀フ 閣下時勢ヲ洞察シ又愚等カ鄙願ヲ聽シ賜ハラントコトヲ恐懼再拜

日東保生會社發起人總代

若 山 儀 一

明治十三年四月

東京府知事 松 田 道 之 殿

(17)

定款追加願
ル金願定
規ニ積
定關立
スス加

定款追加願

豫テ上申仕候日東保生會社定款ノ中左ノ一條ヲ追加仕度此段奉願候也

追 加

當會社ハ互相共持社ノ制則ニ倣フト雖モ其業創始ニ係ルヲ以テ發起人ヨリ金貳萬圓ニ值ル公債證書ヲ豫備トシテ積立置キ更ニ之ヲ抵當トシテ 官庫ニ委頓シ奉リ同額金員ノ恩貸ヲ乞ヒ之ヲ會社ニ備フルモノトス

但創業入費等ハ毎年度純益金ヲ以テ漸次ニ償却スヘシト雖モ創業ノ際ハ此金額ノ中ヨリ繰替へ置ク者トス

日東保生會社發起人總代

若 山 儀 一

明治十三年四月

東京府知事 松 田 道 之 殿

東京府ヨリ内務省へ照會 明治十三年四月七日

本年二月七日付ヲ以テ若山儀一日東保生會社設立願書引換之義及御照會置候處尙又右ニ附屬セ

第二編 會社資料

定書拜
付款引借
照追換金
會加并願(18)

ル拜借金願書引換并定款追加等ノ義別紙之通願出候間書面御廻シ申上候條可然御取計相成度此段及御照會候也

(19)

設立願、
拜借金ノ
件ニ付東
内務省ヘ
伺

日東保生會社設立願之義ニ付伺

府下麴町區下六番町四十五番地若山儀一義日東保生社ト稱シ人命保險營業相開度旨別紙之通規則方法等ヲ具シ願出右ハ當今ノ時勢民情ニ適應シ公衆ノ便益トナルヘキ事業ニ付成ルヘク保護ヲ加エ速ニ起立致度依テハ別冊規程中會社資本金拜借之義モ事情無余儀相聞エ候間此義更ニ御詮議相成候様仕度右ハ普通ノ商業會社トモ異リ且拜借金ノ義モ有之候ニ付一應仰御指揮度此段相伺候也

明治十三年四月廿一日

東京府知事 松田道之印

内務卿松方正義殿代理

品川彌二郎殿

(20)

設立許可
東京府
若山氏
ヘ若
ヨリ更
請願

日東保生會社設立願ノ儀ニ付上申

當會社設立ノ儀最初出願者ヨリ追々時日經過候處世上該會社創立ノ舉アルヲ聞知シ創業ノ上加盟センコトヲ渴望スル者往々有之私共於テハ他ノ事業ヲ捐テ熱心該社創立ノ事ニ從ヒ居偏ニ御裁可ヲ待ツノ外他念無之因テハ至急御評議ノ上御許可相成候様致度此段以書面請願仕候也

日本橋區濱町二丁目十一番地

日東保生會社發起人總代

明治十三年五月廿二日

若山儀一

東京府知事 松田道之殿

(21)

右請願ニ
付上申

東京府ヨリ内務省へ上申 明治十三年五月二十五日

府下麴町區下六番町四十五番地若山儀一日東保生會社設立願之義本年四月廿一日付ヲ以相伺置候處發起人等事業ノ都合有之至急許可ヲ得度旨別紙之通申出候間右伺急速御指令相成候様仕度此段及上申候也

設立ニ關スル雜報 (22)

東京經濟雜誌 第二九號 明治十三年六月十五日

○此度若山儀一君原善三郎君其他數名ノ協議ニテ日東生命會社ト云ヘル一社ヲ創立シ生命保險ノ事業ヲ營ミ度キ旨ヲ其筋ヘ願ヒ出デラレタルヨシ其營業ノ仕組ヲ聞クニ彼ノ米國ナドニテ「ミユチュアル、ライフ、インシュランス、コムパニー」トカ申ス仕組ニ倣ヒ初メヨリ資本ヲ募ラズシテ唯ダ得意先ヨリ得タル手數料ヲ以テ保險ノ業ヲ營ムノ趣向ナルヨシ

發起人増員御届

發起人二名増員届 (23)

茂木 惣兵衛
三野村 利助

右兩人先般日東保生會社設立ニ付出願仕候發起人中へ更ニ加入仕候間此段御届仕候也

明治十三年九月十四日

發起人總代

若山 儀一

神田區小川町壹番地士族

同

朝比奈 閑水

神奈川縣下横濱區弁天通三丁目平民

同

原 善三郎

神奈川縣下横濱區弁天通二丁目

茂木 惣兵衛

深川區西大工町十番地

三野村 利助

東京府知事 松田道之殿

東京府ヨリ内務省へ照會案 明治十三年九月十五日

本年四月廿一日付ヲ以相伺置候日東保生會社設立願發起人増加之旨別紙之通届出候間則及御廻送候可然御取計有之度候也

右届ニ關シ照會 (24)

設立願、
拜借金額、
指令スル
(25)

内務省ヨリ東京府へ指令

明治十三年九月廿五日

書面保生會社設立之儀聞届候尤モ準備金トシテ實價貳万圓ノ公債證書ヲ會社ニ備置カシメ營業筋ハ於其府督監シ不取締無之様注意可致事
但準備金拜借願ノ義ハ難聞届候事

會社創立願書へ御指令

明治十三年九月二十八日

會社ニ對
スル東京
府ノ指令
十月九日
決濟(八日
視ハ營業
ヲ參照スル
(26)

書面保生會社設立之義聞届候尤準備金トシテ實價貳万圓ノ公債證書ヲ會社ニ備置可申事
但營業上監視トシテ時々主任官吏ヲ派遣候條此旨豫テ相心得開業時日前以可届出事
拜借金願書へ御指令
書面願之趣認許難相成事

御 受 書

- 一 日東保生會社創立願
- 一 日東保生會社拜借金願

右指令ノ
御受書
(27)

右御指令濟ニ相成出願書貳通正ニ拜受仕候也

日東保生會社創立發起人總代

若山儀一代理

明治十三年九月廿九日

淺野朝益

東京府知事 松田道之郎

發起人除名御届

楠見信貴

永井直毅

行岡庄兵衛

右三名都合有之熟議之上今般日東保生會社發起人除名仕候間此段御届申上候也

日東保生會社

發起人總代

若山儀一

發起人除
名御届
(28)

明治十三年十月二十日

第二編 會社資料

第二類 人保險之部

東京府知事 松田道之殿

御指令案 明治十三年十月二十四日

書面之趣ハ除名本人連署ヲ以可届出義ト可相心得事

【除名本人ノ連署ナキハ後日ノ證トナラズ】

日東保生會社發起人退社御届

私共儀是迄日東保生會社發起人ニ加名罷在候處今般都合有之退社候間此段御届申候也

日本橋區蠣殼町二丁目

不在ニ付代印 楠見 川 咲 貴 昨印

本郷區弓町壹丁目廿六番地

永井 直 穀印

日本橋區村松町四十四番地

行岡 庄兵衛

明治十三年十一月四日

淺草區北三筋町六十三番地

不在ニ付代印 小川 咲 昨印

前書之通相違無御座候也

日本橋區濱町二丁目十一番地

日東保生會社發起人物代

若山 儀 一印

東京府知事 松田道之殿

朝野新聞 第二二四一號 明治十三年十一月四日

▲若山儀一、朝比奈閑水、原善三郎、茂木總兵衛、三野村利助の五氏の發起となりて日本保生會社を設立する事は豫て噂もありし此程いよ／＼其筋の許可を得たれば近日の内濱町二丁目にて開業になると申す事

(32)

設立廣告

東京日々新聞 第二六七三號 明治十三年十一月五日
東京横濱毎日新聞 第二九六九號 明治十三年十一月五日

○今般官の准允を得日東保生會社（人命保險）を東京日本橋區濱町貳丁目十一番地に設立す此段廣告候也

但開業は追て更に廣告候也

發起人 若山儀一

朝比奈閑水

原善三郎

茂木惣兵衛

三野村利助

發起人の中左の三名は都合に依り退社す

楠見信貴、永井直毅、行岡庄兵衛

【備考】郵便報知新聞第二三三二號（明治十三年十一月二十九日）ニ同様ノ廣告アリ

「但本社ハ金曜日休業ノ事」ノ一行多シ

(33)

開業前ノ
景況ニ關
スル廣告

東京横濱毎日新聞 第二九七一號 明治十三年十一月七日
郵便報知新聞 第二三三二號 明治十三年十一月九日

▲本社設立以來規則書御望の諸彦郵便にて御申越の分一日に百を以て數ふ敝社も創始の事業にして殊に開業前なれば何分奔命に堪へず依て御望の諸彦は御來車を煩はさん右廣告候也

但本社は金曜日休業の事

東京濱町二丁目十一番地

日東保生會社

明治十三年十一月六日

(34)

設立ニ際
シ非難防
害アリ

東京日々新聞 第二六七八號 明治十三年十一月十一日

日東保生會社設立に際し非難妨害あり

若山、朝比奈、原、茂木、三野村の人々か近日濱町二丁目に取立つる日東保生社（社員の積金を預りて隠居料また死後の手當を請合ふ會社）は規則方法とも至極整ひて近頃流行する閉店を見据て開くなどの會社の比にあらず殊に第一の預金も堅固なる銀行に預け置て何時にても拂ひ

第二編 會社資料

方に差支への趣向なれば老後の安樂を心掛け子孫の行末を思ふ人は加入ありて然るべきか然るに近來新設せし或社にては此保生社の組立を種々に非難して開業前より世の信用を失はせんと謀るよし是は其ある社と云ふが傍ら人命請合の業を爲さんとするに此社に開業を先んぜられては我方の頼人の少なくなるを恐るゝと云ふ卑劣心より出てし所爲なりなど聞きしが若し然らば益其心の狭く爲の拙なきを現はすものなり知らずや我國の人口は三千三百余万の多きあり斯る會社の二十や三十出來たりとも規則の嚴に方法の正しく不當の手数料さへ貪らざれば依頼人は如何程にても有るならん誠に笑止千萬なる或社員の舉動かな

(35)

東京府勸業課ヨリ知事へ伺

明治十三年十一月二十二日

會社營業
監視ノ件

過日御許可相成候日東保生會社營業上監視トシテ時々主任官ヲ被派遣候旨御指令相成居不日開業可致趣ニ付而ハ派出員心得方別紙之通ニ而可然哉且右ハ時期ヲ不定毎月一回突然ニ派出致シ可然哉此段相伺候也

但派出官吏檢査之義ニ付而ハ會社定款第七條之趣モ有之候ニ付其手續等ハ別段御達ニ不及ト存候也

保生會社
監視派出
員心得

日東保生會社監視派出員心得

- 一 左ニ掲ル九項ハ各其帳簿証書現金等相照シテ之ヲ點檢スヘキ事
 - 壹 保生依託ノ人員
 - 貳 掛金收入高
 - 三 銀行預ケ金并貸付金ノ利子收入高
 - 四 會社諸費支出高
 - 五 積立金高
 - 六 保生金渡高
 - 七 銀行預ケ金高
 - 八 貸付金高
 - 九 準備公債証書金高
- 一 右點檢ノ廉々ハ其要旨ヲ摘記シ表ヲ製シ上局ノ一覽ニ呈シ他日實際考課狀照査ノ用ニ供スヘシ

- 一 點檢ノ際會社諸規則ニ反スルカ又ハ疑キ事發見スルキハ一應其狀情ヲ推問シテ答弁書ヲ取

リ之ニ其意見ヲ付シテ上局ノ詮議ヲ仰クヘキ事

明治十四年

日東保生會社移轉御届

今般當社都合ニ寄リ京橋區新肴町九番地へ轉居仕候間此段御届申上候也

日東保生會社發起人總代

深川區安宅町四番地

若山儀 一〇

明治十四年四月廿二日

東京府知事 松田道之殿

移轉届 (36)

移轉ニ關スル照會 (37)

深川區長ヨリ東京府勸業課へ照會

明治十四年六月九日

昨明治十三年九月二十九日御廳之許可ヲ經テ日東保生會社ヲ日本橋區濱町貳丁目拾壹番地ニ設立シ其後本年四月十八日京橋區新肴町九番地江轉社シ尙本年五月四日當區深川安宅町四番地江引移其際當區役所ヲ不經直チニ發起人ヨリ移轉之義御廳江及御届候趣本日ニ至届出候ニ付テハ

事實相違ノ儀無之哉一應御照會及ヒ候否至急御回答相成度候也

東京府勸業課ヨリ深川區長へ回答案

明治十四年六月十三日

日東保生會社位置移轉届出有無之儀ニ付本月六日付御照會之趣了承右ハ五月五日付ヲ以其區安

宅町四番地へ移轉候旨届出有之候條右様御承知有之度此段及御回答候也

右ニ對スル回答案 (38)

日東保生會社解社願

解社願 (39)

私共儀明治十三年一月廿五日附ヲ以テ本社設立ノ儀奉出願候處同年九月廿九日被御允許爾來殆ト九閱月ニシテ入社人員ハ未タ百名ニ滿タス世評ヲ聞知仕候ニ斯ク入社人ノ得難キ所以ハ全ク本社カ主腦ト致シ候醫師ノ診査ニ因テ己レカ生命ノ伸縮ヲ左右サル、カ如キ感覺ヲ起シ之ヲ嫌忌スルモノ往々之アリ入社ヲ望ム者許多有之候モ皆之カ爲ニ迷誤セラル、ニ因ルト然ルニ本社ノ寄託ヲ受ルハ入社人ノ體質ヲ最モ肝緊トシ醫師ノ診査案ヲ取テ應用スル所ノ豫期命數表ニ照シ始テ寄託掛金ノ割合ヲ定ムルヲ通則ト致シ候得ハ百方熟慮仕候共所詮本社ノ成立ニテハ未タ本邦世俗ノ爲ニ實施シ難ク若シ強テ之ヲ施サントシ眞ノ保生術ニ背キ世俗ノ好ム所ニ從ハ、一

東京府知事 松田道之殿
前書出願ニ付奥印候也

深川區長 大木良房印

東京府ヨリ農商務省へ届並ニ會社へ指令案 明治十四年六月二十七日

御届案

農商務卿宛

日東保生會社解社之儀御届

昨十三年四月二十一日付ヲ以內務卿へ稟議之末許可いふし置候府下麴町區下六番町四十五番地
現時深川區安宅町四番地 若山儀一外三名日東保生會社之儀今般都合ニ依リ解社いふし度旨出願候ニ付聞届候
條此段及御届候也

願人御指令按

書面願之趣聞届候也

(41)

若山氏ノ
設立ノ
關係ヲ
述スル

若山氏の「述情寫」

乏の由を以て丈夫らしく謝辭不及び候ニ付尋て安田善次郎ニ箕村利助ニ人を以て試詢候處敦も設立の節ニ幾分ノ株券を引受さんと申候得共我主として事を助さんと申者之かく奈何ともする不能姑く黙止仕居候處舊幕の頃身代も相應有之候永岡善八儀と申者慶應の末年病ヲ罹り治まへうらざるを鯉生と池田謙齋とて治療を施し全癒儀赴き候より鯉生を稱し命の親ありと平生申居候り四五年音信を通せず候へ共一昨年米國博覽會より歸來後再び其男を以寒暄を問ひ候を思出し同年抄冬雪夜冒して其家を訪ひ希圖の事相謀り候處他人の加入あつゝ募ふ應すへき杯依違の答不候ニ付其後之復人ふも不語獨り大聲俚耳難入かと覺悟を極免居候乍去志之屈せず且 閣下う一臂の力の副可遣との惠言不依頼し且何とかく 閣下の人を欺く彼二三の徒の如き不非ると汝默識深信し不絶米國より惠贈せられぬる數書を繕閱し大ニ悟る處あり時々人ふも談し試ニ候中或は算數家不託し新不表を作らし免或の奔走有志を募るう爲ふ擔石の資財も漸く消盡し加ふる米國不遣し候拙女不を一千圓許も送らざるを得ざるの時來り終不支ふる能もして住地家屋等汝學考て賣却不附し候の昨年四月頃のとかり然る不此時鈍久も家屋を賣買せる遊計子不欺うれ全額の金を受收せざる不地券等の書替を濟候う爲不終不公裁を仰く事不立至り六

月不至り彼より和を入せ八月不の全納まへきとの事ニ付暫く見合居候處其期ニ及び家屋を渡し吳候の直ニ納金せんと申候ニ付欺うるゝとの乍存只今の居不移り候處案の如く一錢も給せず終不東京裁判所不出て上等裁判所不控訴せられ纒不當年七月不至り訴不之贏候得共彼者身代限りとなり誠不盜人不負錢と相成申候扱又母事去年八月頃より十一年來の舊患最劇く相發し病臥まると百有三十五日不して遂不死去致候別不親戚の頼むへき者あきふより此間鯉生一步も門外不出るを得ま尤も同じき四月頃文部省より大部の歴史の翻譯を命せられ之不從事して家計不資まど雖も此不至り病者晝夜劇く苦痛を發まらう爲不瞬間も暈を合まら能もまて看待不刻汝消まら者幾十日精神疲勞して筆を採る能も苦痛の呻吟常不耳不充ちて心氣恰も恍惚ぬり遂不氣盡錢竭き病者亦溢焉と木不就き候是實不去年十二月廿二日の事不候是より先十一月中仲兄九年十二月死う養家の一族不一隘屋を備し養置候處其養母亦鬼録不登る是う爲不二月間不死者を埋葬まら者二回扱是等の皆人世の常事不て今更兒女の譚言の如く度量豁大之 閣下不對して申上へきと不無之候へ共鯉生う一昨年來只今の事を企まるより或人の調弄を被ふり或の募勸不應まら者あきも猶屈せまて從事仕居候得共右等の掣肘不遭ひ更ニ志を伸るを得ま且忌服の嫌等ありて心あふまも一時 閣下不對く胡越の疎情を示し奉りしを謝まらう爲不陳述仕候事不て實不慈父

之惠あるを戴りすんて申上へきと小非は斯くて當年ニ至り再び操觚小從事し漸く負債を消却せ
 と雖も前の訴の事ニ付屢代言者と往來之奔走小日を消せると多し其中三月ニ至り彼永岡ある者
 遽然と來り其加入致居候洵宮術社中舊幕の家人某氏九三と號する者あり天元術によりて人の賦性に十二宮あり之
 を淘汰し去れば運を開くといふを以て教とす神に非ず佛に非ず儒に非ず三教
 の奥義なりと唱ふ一種の齊
 教今來する者往々之ありの大約千人もあるへ前年相談の保生會社の先此等の徒を説得せし如何と
 申候ニ付其社員の素姓を尋候處多くの藝妓芝居者茶屋者等の類にて中ふと華族もあり陸軍武官
 もありと申事ニ付拙者元來の趣意を貴賤の別を問ふ者小非は乍去前年申入候わ株主を募りて
 事を起さんとなり敢て始より盛大を期する小非れとも畢竟是まで踟躕致居候の大藏卿も御盡
 力被下とありぬれともいって我主として事を起さんといふ程の者を得て然後彼卿の御助力を乞
 んう爲かり然る小昨年中種々の故障小遇ひ未も果さず殊小懶疎小經過しぬれ今更株主も募ら
 そうする成果を得ぬりとわ何之顔ありて可申哉と申候處然らと其談判小取掛るへしと日を期し
 て其家小到り候小前年堺縣令を奉職致居候山田某ある者も彼洵宮社中ノ一員にて來會し彼是談
 話の末卿公小果して御助力被下五萬圓位を華族より御募被下候哉如何と申候ニ付夫までの御
 約束無之且固より卿公より御出金被下候次第てもおされわ成否の難期と雖も話して試みへ
 しとまでの仰かりされわ我より先募金して相願ふ小於てわ必も御盡力被下小相違あるよしと申

候處然らと我一族小ても四五萬圓を容易小募集せしとて其日を別々候其翌郷氏を以て其事を
 申上候也次て更小相會し候處永岡申候わ此事業自分も心得さると故教を受くる小非れわ成し難
 し請ふ指示を乞ふと申ふより先其命數表小照して掛金の割合を定むると並醫員ありて逐一寄託
 者の體質を検査せしと等と説き且創立より三四十年の候わ寄託者多く新陳交代せると故準
 備金も必も常小貯置りさるへうらす杯論候處略承知の様子小相見へ且申候わ彼五萬圓の果し
 て卿公より華族を諭して助力被成下哉否確なる所を足下より伺候上りて事を計るべしとの事小
 付其義の兼而申候通卿公御自身の御手許より出ると小も非も華族小貯ふる所の金を徒費せしむ
 るよりわ此美舉小從事せし先わ責て社會の義務をも盡さすとかれわ双方の爲宜うるへし依て
 盡力せんと被仰しまて也畢竟此舉の世人の儉徳を進先風化に益あると汝思さるゝと拙者小微衷
 を憫んで斯までの御好意を示されぬるかり然るを我身小て同志の者を募らして先卿公の確諾
 を乞ひんとするわ却て卿公の好意を空とまるなり加之か小卿公を以て華族と我儕との間の紹
 介人と見做さ小似ぬり商買の間小わ斯る習もあるへさう卿公を國家の大臣かり苟も義理を辨へ
 るる者焉を斯る事を以て卿公小迫るを得んや且足下嚮小わ一族中ても四五萬圓の資本わ咄嗟
 小募集せしと謂これぬり故小其事は已小郷氏小通せり郷氏を必ず卿公小上申せるあるへし然

るを今ふして何之顔ありて更ふ之を伺とんやと申候處されわ再び考ふへし草稿を暫く假し賜へしと申候ニ付兼而安田等お示し候一昨年中編成せる發起人心得書並會社事務大略とを貸し置相別れ又十日許を経て相會候處彼山田某右會社事務大略ノ中より抄出し候ふや謂れもあき割合の挂金表を作し且諭言を附し小生お示し扱永岡の申候の醫者杯ニ検査さまるの日本人の煩を好まざるの不向あり之は省くへしと鯨生之お答て命數表お據し且醫の診查ふよりて命數長短を知し挂金をも定むると故保生の名わあるかり昔英國ふて遊計者う年庚お關せま強弱を問とす同一の挂金を以て受合をし失敗を取らざる則其例あり其上少く理義を弁へざる者なれわ年庚強弱の分を立てましての却て之を殆むへしかからず準備金等の割合も命數表と醫員の診定お基く者かれわ之お由らまゝての不可あり彼三四十後お至りて一旦會社う困難お會まるといふも畢竟命數表お據して此頃ニ寄託者の死まる者漸く多きを實驗しふる上の論ふてされわ平日彼邦會社ふて爲ま如く準備金も貯置うさるへうは之は貯ふる割合を知るの則前いふ通り二者お從ふて定むるものありと申候處彼語窮し終お申候わ我わ今年已ニ四十八なり三四十後おわ彼世の人とあるへし夫までの事わ憂ふるお足らまゝと鯨生此言を聞き怒氣胸お塞し候へ共先辭を和らる今申さるゝ所ふてわ他人の金錢を騙取して一己の利を營むかり足下も兼而商業おわ熟煉との

とかり斯る不正の事をせまとも私利を營まんわ猶他の術もあるへし拙者う此業を企つるわ衰老の者蠶寡孤兒等汝保護せんう爲かり而して己も寄託者の一人ふらと之お由りて後の備も立つへく且會社の事業を取扱と、多少の利益わあるへし然とも目的とまる所わ衆ト共お相立んとまるおあり一己の私利を營むう爲お非す若し足下の言の如くんわ生残りふる老幼寡婦の困難わ如何許あるへき戯れおも斯る詞わ發まへきお非まると相別れ熟ら考へ候お彼う四五萬圓の金を募集し得へきといふわ虚喝ふて全く之は汝餌とて鯨生をして閣下之御助力を以て華族より資金を引出さし先んと計しおるへし彼閣下よりの確諾を仰うせんと促ま所といひ後來の事わ如何成とも關せずかと残酷の言を發するの其志知るへしと存し候間翌日書汝以て議協とされわ共お謀り難しと斷候處彼よりも然の此事わ見合おまへしと申來り候後頓て半月許を経て鯨生う草稿を返附致候其後承り候お彼洵宮術連を集めて保生の業を始免候由如何かる表お據りしものおや尤も異むへき事お候扱此時お至り熟ら慮候お平生命の親ありとて十年來も交り候者う私利の上よりわ斯る不親切かる處置ニ及び候うと未だ一面識もあき行路の人お談するも逆も力を共おまへくもあはれされわ時機未だ熟せざるおやと存し又わ鯨生う平日聞達を求め隠れて自ら養ふの愚かりくと汝慨し居り候乍去一旦彼の言を信し輕々敷も郷氏お告ふれわ定免て閣下之御聽お

お達しあるるへし是まで世故の爲お懸隔せられぬさへあるお愁お輕率の事を申出ぬれお更お再び拜謁を乞ふも何とやら後ろ目なく郷氏おさら面會をせざるも耻うとくして獨り心を苦死居候中愚う許へ日頃經濟書の質疑お來り候長州人某鯨生う悶鬱を見るお忍ひさるおや幸ひ其家お同國の大商寓居しぬれお詢り試さんと申おより又彼草稿を貸し候處數日して持來り其商人お昨年來明を失く目今治療を受ける最中あるう神戸大坂邊お知己も多き事故縱令當人お資を助くる能はとも如何お策もあるへくと思ひ草稿を讀聞せ謀りぬるお實お昨年來神戸お於て蒸氣船會社を目論見居近日彼地へ赴うざるを得ず且之う爲お己う資本を擧お用ひぬるのミかかす友朋知己をも募りて莫大の金を集ぬる上おれお今又之を集むるも稍難うらさるお非す其上目さへ盲ぬれお汽船會社の業も他人お任せんと思ふ所ありあこれ今半年早く此事を聞うて何事を措きても此美擧おお與せへうりくにと只管遺憾お存候由答候是より又稍一月許を経て彼長州人親切ある男おて今般火災保險の取調を命書の中品川彌二郎お同國人あり且お其事お就きてお大藏卿公と必ず親接する事多うるへおれお足下私お鬱憂せすとも彼人お面して是までの成行を上申せし先お卿公おも御答ぬぬのあるまゝ己お品川と面識おありぬれお餘人をもて申通せんとお有之候ニ付其意お任せ候お頓て一兩日を経て人おて先方へ通ぬぬるお品川も疾より足下の企お聞知りぬる

趣おて我邦おうゝる美擧を企る者あらんお一日も早く着手せさくと思ふ也其人お逢ふお苦しうおまおと對へられぬる趣ニ付日からす品川氏へ推參仕候頃お去ル六月三十日のおお御座候斯して談此事お及候處愚う志を稱讚すると前日の對お異らす是お於從來の成行を略述し扱右の次第おれお大藏卿おぬ虚言を申上ぬる様おて今更闕の高き様お覺ゆ郷氏おぬ手據る所を失ひぬる心地おれお此事お何分おも宜お通し賜るへくさるおても是迄心を盡しぬるお鯨生う交際の狭きより未タ力を戮する程の友を得ぬ此上お政府おて萬民の爲お設置せらるゝとおお成ましきおやと申候處おれお其事おれ何日おや余う傍聽しぬるお前島驛遞頭おぬ此事の美あるお稱し英國おも其例おれお彼局に之を設さんと謂おれぬるお彼事お比年來若山儀一ある者う企て居り辛勞從事致居様子おれお彼お立てく先んと思ふありとお大藏卿の申されぬるより前島氏も其儘黙止すとあり尤政府も火災保險の大業お着手せらるゝ最中おれお此事おて引受らるへくとお思おれぬと是までの辛勞も當おらぬお何をおも願書を認ぬて差出さるへく形おきものおぬ政府おても處置おぬし難きものありおぬ我官途上の實驗をもちぬ所ありされとも成否お固より我知る所お非すとお大藏卿おぬ是までの事情委く申上へくとの事おて此朝お辭し去り候う是より先便る所を得ぬれお先願書と會社規則と寄託人心得書とを認ぬ差出せへくと思立候お規則と心得書と

わ倒底彼邦の式を摸せざるを得ざれば何れも彼年報等汝翻譯せざるへうらばと存込候此頃愚
う通家の又通家不係れる者前年中第三銀行不使と居候り故ありて之汝辭し當時別に本業もあ
き不附何きの仕途も有之候り、紹介を頼むと申來り居候ニ依り口授筆記を命じ少許の手宛を遣
とさと糊口之助ふもあらんと存し召寄せ之不從事せしむる中こ何の爲不せらる、哉と問ひ
候ニ付是までの成行と品川氏う好意の趣をも申聞候處されわ株金を募り候て、如何と申候間其
事あれ愚も前日まで株金の事とのミ一隨不思ひぬれと漸く此業體の組立を考ふる不ミューチュ
オール會社不くる方遙に公平至當を得ぬるものあり殊不足下も知る如く前年足下の紹介を以
安田善次郎不話せし處多議不わ從ふへしとのとて止まり足下の兄う箕郵不談せし時も同しと
かり其外余も是まで百方試みぬれとも其効なく又彼より親友ありと唱ふる所の永岡不彼始末あ
り最早株金を募ると不思ひ絶えざると申候所さる不ても此事若し行これならん不わ比年來の辛苦
不徒勞不屬せし若又行とるゝとも一二年の蓄かくの支ふる能はしと申候ニ付いやとよ余も其
事の心得なき不わあらず今文部省より引受る所の翻譯もあまの片手業不すとも月不二百圓内外
の仕事不せへと其書も大部のとかれわ一年程不支ふる不足れり故不若し許可を蒙らと是不て社
員う月給の一部不補ふへし又若し許可を得ず政府不て設立有らせられ不從來學ひ得ぬる所を以

て及とすから應分の務不奉せへし萬一兩ら行これす不 我邦不て先鞭を着せぬるといふ虚榮
を得て安んせへしと答ぬる不そ不餘り不短氣あり余う前年第三銀行不居りし時第四十五銀行の
社長平岡ある者時々親切の談話もあり且俠骨ある者なきの之不談して試むへしと申候ニ付そ不
兎も角も計ふへし余不其談判の成否を頼むへうらばと打過候ひし不頓て五六日汝經て常の如く
筆記不從事しつゝ申候不わ彼談判も半の整ひぬり十五六日頃不わ彼より何分の沙汰あるへしと
申候ニ付如何不計ひぬるやと申候不先貳萬圓の市價に當ぬる公債證書を三四名不て持出せと不
談判せり其中五千圓丈の四十五銀行不て我會社の出納を司る抵當として差出し餘と二三名不て
差出せとあり扱之を抵當として 政府より拜借金をし夫不て創業の入費を賄ひ餘の銀行不託し
置き事を起さと彼等も實際の廣きものあり寄託人も信を置と所あるへしと申候ニ付そは能く成
しぬり乍去 卿公不わ初より拜借金の事の申上るに唯華族の遊金を御勸募被下候様願置ぬるか
りされと右等の人不面會せ不又好手談もあるへきかれとも拜借金の事不申上難しとて半不覺束
かく思ひ打過候ひし不十三日不至り四十五銀行の支配人林和作ある者弊屋ニ來り申處矢張前の
とく唯五千圓の餘の公債證書と第三銀行の取締役川崎八右衛門市川好三不て相弁せへき旨申且
來る十六日不わ右ニ付平岡も一往鯉生不面會致度趣ニ付則出會之處不濱町十二番地當時四十五

銀行所有の家と定免時刻は午後第五時と約し相別れ候後期ニ至り約する處ニ參り候平岡を俄
 小病氣の趣にて出會せず空く歸り候平岡より書狀にて違約の事を謝し兩三日中自身又の其忤弊
 家ニ來るべき由申來候ニ付相待居候處兩人共ニ來らす其中彼林和作ある者再ニ來り過日の談判
 を孰れも承知仕られぬ一同足下ニ面會して約定を結ぶへし付て來る廿一日午前十時川崎八右
 衛門ヲ見世二階ニ於て集會せしと申候ニ付承諾して歸し期日ニ至り相會し候處平岡一先在
 り次ニ川崎出來り良久として安田も來會し孰れも先保生會社の事業を問ひ候ニ付安田も前年
 草稿も見せ置候得共命數表よりて算を起すと云と大略申聞せ候處粗曉りある様子ニ付猶委し
 き事の組立ある上にて望ふよりて説明すへし申候處安田の挂金の割合不審を起し今足下の申
 ざる利子割引の法甚々解し難し通例の利子割合あれは年々何割乃至何歩とあるべきを挂金の
 高毎年同しとあるを如何と申候ニ付再ニ命數表ニ基きて算を起し理と一圓を目的として毎年割
 引まると、一次皆濟挂金を斯くあり年賦挂金を若くありと論し候處益解し難き様子にて唯六ヶ
 敷ノと唱候間そ其筈のとなり彼邦も此術ニ付眞の算法を發明しあるを割合ニまれば近
 世の事なり且素と一科の學問かれ今瞬間席上の談ひては説盡し難しと申候處然る小利子の割
 合かことを知らざしてを寄託する者あるまじと申候ニ付成程足下のとく逐一疑問を爲す者而已

らと然るへし尤物事く有るべきものかれ共先試み見るへし何人と寄託せん者く逐一此六ヶ敷進
 理を質問して然後保生を頼まんとかれ何の會社も奔走し違あらざるへし譬へは足下の業
 とせる銀行のとき來客毎小此銀行ある者如何にして維持し幾許の抵當を政府ニ差出し如何か
 る業をし如何ある贏をまると問ふと逐一條之ニ應對せんや況んや保生算法のときを銀行營業の
 道理を知るとく容易あるもの非自ら算籌を取て試みされれ具に知るへうは彼邦保生の書
 世に刊行せる者不少といへ共衆人皆之を知りて然後寄託すといふ非す且會社も利子割引
 の事たと世小秘する者多しは一ニ逐一人ニ對して弁し難きや故あるへしされとも既小會社と
 いふ者あれを之を信して寄託をまると猶銀行といふ者あれを衆人の此小來りて取引をま
 るう如し尤我邦もて創業の事かれ成丈弁し易き様の説明書を作りて公衆ニ示さんと豫て
 愚う方寸小もあるありと申聞候處然らと其事の姑く措くへし抑此會社を立て世人の信を惹くと
 小株金を募りて此會社こそ是程の抵當ありと示さん方然るへしと思ふありと申候處川崎も亦
 株金を募る方然るへし然るときは株主等も亦得意を誘來りて會社の爲便利あるへしと申候ニ付
 愚之小答て前年安田氏小相談せる頃愚も亦去り思ひある一體此會社掛金の算法を創業の入
 費まら給るを得れは立行へき様小あしめるものあり其上餘りあれを之を寄託者小歸る公平

至當の道ありと申斯くて過日御手許へ差上置候庶務局への弁論の大要を説明し扱唯世人の信を惹くの一事に至りては足下等の説く所尤あれとも豫約のとく足下等より抵當を差出し拜借金を爲し得た世人も大に信を置とへし其故を我邦の人今日の有様にては盡く猶政府に依頼し政府を信するあれを政府にて庫金を貸し賜らると必ず遊計者流り所業ニは非すと思ふへしされば愁ふ二十萬の株金を募るは遙か勝るへし且成否を期し難きれを兼ては安田氏も承知の通り可成の特許の恩をも乞ひ奉るへしと思へば若し幸ふ 准允を得て會社に信用の城を固むるに此二事お過ぐる者あるへからば其上足下等より社會の地位を以て助るんにや寄託者も亦陸續廣至せしむるは難うらざるへし尤斯く言へばとて愚る所見を主張するは非す足下等も愚る比まを猶善く世故に通る者ありされば愚る足下等の多議に従ふへし唯寄託者お割戻すへき金を株主等お分配するの非義あるお忍びさるありと申候處孰れも餘り承服の體お無之候得共別お異議も唱ふる者無之うくて安田を先一千圓の保生金を得るおは挂金お如何ある割合ありやと坐中の者の年齢お從ひ問ひ候ニ付臆記する所の大略を申聞候處鉛筆を出し之を清算し平均幾許お當るを以て一千人の寄託者あれを幾萬圓の挂金あり成程是あれを株金おしとも會社を維持せらるゝなりと即座お曉る様子お相見へ申候時お平岡豫約の事を演述し我銀行よりお五千圓お當る公債證

書を差出川崎市川よりお各七千五百圓お當るの公債證書を出し合せて二萬圓の高お當るものを以て拜借金汝願ひ許可を得た其金を第三銀行お託し置會社への寄託者よりおる挂金を第四十五銀行にて預り一切會社の出納も同行にて司候様約束を取締り候積り也諸君御同意ありやと申候處市川お期お後れ此時纔お來り遅刻致し前よりの相談お聞うされとも諸君承諾お余も亦異議おしと申候ニ付鯨生今一應會社のと汝述ふへきやと申候處安田平岡の兩人おて先刻承る處お我々大略了會しおれお我々より申通まへしと申候お市川も然と同意あり川崎も異議おしと申候依而會社よりの預る金又銀行よりの會社へ貸金も共お年八歩の利子を出まへき事をも約し了て扱鯨生お申候は安田君お豫て知らるゝとく一鉢愚る此事を企る始 大藏卿お依頼し奉る五萬圓許お同卿公より御勸募被下候様願ひおるお盡力して見るへしとの仰ありおるおよりいふて愚よりも同志の人を募りて五萬圓程も集らと再び申上おんと思ひおるあり夫より已來愚も屢々家累お罹りて掣肘を蒙りおると衣食お奔走おるとの爲お志を伸ふるを得まして今日まで過るあり且其間お永岡輩お言を信して同卿公おも郷氏おも面目を失しおり然るお今平岡君の助ありて貴君おても此席お列し今日斯く諸君の約諾を得るお愚お於て辱之至りあり附ては決して貴君等汝疑ふとおわあおねと貴君等より二萬圓の價に當る程の公債證書を確お鯨生お貸さ

んと汝約せりといふ證書を類せるものを賜らば夫をもて郷氏に示し 卿公に御覽に入せんわ此度之偽をさる汝知召し前日輕卒の罪をも贖ふに足り且に拜借金を願ふに於ても確證とかりて都合宜しうるべきに付何分一紙の左券を乞ふと申候處平岡安田異口同音に我々兩人今日斯く保證致さうかの諾言を金石よりも固しいうて後日違背せると候とんや又他二人に於ても我々お於て決爽快せしむへうにすされぬ證書を必要にもあるよしと申候に付然れど拙者の兩君の身代と社會の地位とに任して別證書を要せざるへし且其趣を逐一郷氏に由りて 卿公に申上るゝ又願書も早速認めて差出すへし扱今一事諸君に依頼しむきを願書に連署を爲すのとかり抑此二萬圓の抵當に差出す者も拙者も囊中裏より出るに非ず殊に一人の名を以て願出も異なるものありと申候に兩人共連署の事も猶篤と熟考の上にて挨拶に及ぶへしと申候に付強ても申難く謝して相別れ候斯て其翌郷氏へ参り昨日の結果を略述し往日輕卒の罪を謝し 卿公へも宜敷く申相願として別を其翌又品川氏を訪ひ一昨日の始末を述べ扱斯くまで相成候に抵當を差出し扱借金を願はるべきものや特許を賜るべきものやと申候處されぬ其事かれ此舉を人民保護の爲におかれぬ政府にても夫程の事も被成ても可然と余も存するありされとも衆議によるべき事故如何に決すべきや又特許の事は是まで例もなき事なれと次々企つる者ありと共相立さる

場合もかり終に此會社の事を疑はしむるとも立至らば縦令足下の會社に安穩かりとも自ら世間の信も薄らくへしされぬとも亦免許ありても可然歟去斯といふに我思ふ所を述べる迄かり何れにしても前日も申如く足下獨り思ふものにて詮議も成らざると故一日も早く願書を差出す方可然附て問ひまきを會社に用ふる命數表を兼ての話に外國のを使ふといへるに我邦も明治五六年來詳密に調べさせざるに戸籍表あり之よりして新に作らば如何と申され候より左程のものあらば夫よりして試み作り可申とて其日に謝し去り是より通家の者にお前口授せる年報等より會社規則と寄託人心得書とを編輯せし先患に前年草しむる願書の稿を改訂し又前年草を會社事務大略を刪補して願書に添へ差出さんと存し稍着手候得共元來其草稿を未だ米國より保生術専門の書を得ざる前チエムブル氏に學藝韻府政學辭書マクログク氏に通商航海辭書紹介人袖珍書並に紐育のイクイテイブル社の年報ニウジェルシーのミユチエールベネフィット社の年報等より作りたるもの候へば算法等も載せず極めて杜撰に涉り候をもて更にお右等の原本と新に得たる十數部の書を繙閱参照し是を撰ひ彼を扱ひ數日お迄保生術由來概略の稿を脱し人を備ふて淨寫せし先旁に人をして戸籍表の詳密なるを探求せしめ扱熟慮候に此業をもし我邦に草創の事なれぬ此事を願出るも取扱はるゝ官人の若し此術を詳し

さらんふを願意を達する迄大に遲滞すへしさかくも米國ふわ州政廳ふインシュールンス、コム
ミツシヨスルといふ官人あり此術を詳おせる人を擧て之に任し殊更ふ此諸會社の營業の有様
を注意せし免疑しき事あるとき帳簿をも検査せし免るとかれわ創立の後ふ何れの官廳ふ
此事を管理する課を設るるゝあるへしさる時わ我社の基く算法を明瞭おかく置まして後暗
き極となりよしさらん此兩便の爲めふ之をも添へて願出へしと存し又更ふ諸書ふ就き最も簡易
ある算法を彼是折衷抄譯し更ふ人を雇ふて傍ら諸表を抄寫せし免候此間昨年來坐して事を操る
日の多き故にや血流滯の爲頭痛甚しく其中脊部兩脚と石瘍七八箇一時ふ發し疼痛劇として
坐す能とす臥す能とす輾轉反側しつゝ猶病を力免て大約三十日間おして右の諸書漸く稿を脱し
斯くて依頼書保生證書等の諸式も反譯し其雛形を作らし免ぬるふ思の外日數も經且わ數部を淨
寫せし免んと心挂候ふより寫字の者を求免候ふ筆工を専らふする者ゝ甚得難と不得止事市谷牛
込ふ四谷淺草下谷と各處ふ草稿を分ちて淨寫せし免日に奴厮を東西ふ奔らし淨本と原稿とを集
免て自ら之を校合し漸く一部を完ふせし免八月下旬之頃ふ有之候此間戶籍表を求免させ候者何
分通例の者より外ふ得難き旨歸り報し候間猶勘考仕候ふ不十分ある命數表ふよりて作らんよ
りと死生の割合を彼我天地の懸隔も之あるよし殊ニ米國歴驗表彼邦ふて多年實験して製ぬる

上ふ猶二十餘間襲用し其間ふの南北戦争の年もあるふ紐育のミユチユオール會社の診査醫員
統計表ふ據れを其寄託者う死亡の數を猶彼表面ニ載する所より少きふ由て挂金の割合も向後の
分を減せらるゝとは是あり且わ同社の割挂の高を四割三割二割程ふ及候得共我邦ふてわ社費を要
すると彼の如く大からさるふより唯流行病の節死者の保生金より幾分り差減き置き候ゝ必ず
損失を償ふへしと存込候ニ付乃ち彼表を用ひ猶詳密の死亡表を得て較算仕るへきと存し其事を
も右草稿の中へも記し置き斯くて最初ふ淨寫　　ゝる一部と寄託人心得用昏諸式等を殘らす相
纏免品川氏へ至り示候處談再ひ命數表の事ふ及候ニ付前條の見込申述候ふ自ら申も如何かれと
足下又わ余の如く彼邦ふも駐留し略情態も解せる者のみかれわ彼ふて多年實験せる所わ我ふ於
ても事理ふ於て大に相違なきを知れともさなき邊は是等ふ迷ふものあり殊ニ人の生命の如大な
る懸隔なきを明かるとかれとも我邦ふてわ斯くありて一證を擧て論せと妄説を破るふ便りよ
ろしうるへしと思ふなりされわ余より戶籍局長ふ頼みて精表を取寄せ可示といと懇ふ申され候
ふよりされわ何卒頼入と申辭し去りて其後郷氏ふ至り是までの出來へを話し拜借金のとわ如
何あるへきと問ひ候ふされわ政府ふても其金貸貸賜る名目ふ差支らるゝと余を思ふかり其故
を其金を勸商局より出へきふも非す國債よりとへきふ非す由ては余ふ於て成否を定めて申難し

尤大隈公お若山も比年來辛苦致し居る者かれをあれ立させて遣し度ものありとの仰お有之
 りと申候ニ付卿公の例あう御好意の段お君よりも宜敷恩謝を奉願とて歸り是より又一本の
 淨寫出來候ニ付不取敢拜趨し執事お託して閣下の電覽お供せんとを願置き扱又品川氏お趨き戸
 籍表の事頼入候お最早取寄せ置うれ明治六年より九年迄の表竝お此年間死者生者の通計より死
 者お百分の何個お當ると迄取調被遣候是より又日ならずして再ひ拜趨仕候處閣下よりの御命も
 御座候ニ付返し賜り候草稿等を持し伊藤公へ奉伺候處凡そ四ふひ出て、纔お拜謁を得心願之
 趣申上候處何れおも願書等を可差出旨仰お從ひ則東京府へ差出し申候是より先品川氏の被申候
 を大藏卿宛おて直々差出すへしと有之申候處 閣下の御命おより始めて内務の御所轄あると汝知
 り其由更お品川氏へ申通候處内務大藏兩卿公宛おて可差出と被諭候ニ付其如くいし東京府へ
 差出し候お實お九月十三日の事お御座候斯て同き十七日お至り東京府より召出ニ付代人差出し
 候處更お知事宛おて可差出旨被申渡候ニ付其如く致し翌日再ひ代人もて差出し何日頃内務へお
 御執達被下おやと爲承候處來ル廿二日と其課の官人被申候由然るお月末お至り別お御沙汰も無
 之ニ付私お人して内務へ爲伺候處未々何の聞へもおしとのとニ付十月お入り更お府廳へ爲伺候
 お己お先月中執達お及ひぬりとの答お候得共如何ある齟齬おやと存し居又人お託して内務へ爲

伺候處未々其類の物の差出しお不相成とのと故彌不審晴まやらに同き七日又々代人を府廳ニ出
 し今回お確と承り來候様申付候お由り綿密お問質し候處其課の官人も少く不審の様子おて頓て
 帳簿を調へ未々申達せざる旨おて今日中お必す所理おへしとの答の由歸り報し候されと前日
 の行違も有之候ニ付其後私お又内務へ爲伺候處八日の夜お入り送附お相成候由出願之日より府
 廳お留めらるゝもの二十有六日されとも彼御省へ出るうらと何れお御沙汰有へしと半お相樂
 め居り是より又保生證書十九種を反譯し依頼書中病名の譯語往年學ひ候蘭書おへ出てさるゝ多
 く有之候ニ付醫者お質して之汝譯し更に衆人お示し候保生寄託の解説と表とを作り別お又管短
 かる公告の文と略表とを作り又品川氏より被借候諸戸籍表を計算し命數表の粗おるものおても
 製せんと人おも詢り種々配慮仕候へ共何分死者の年齢を載せさると生者の年紀餘りお隔り居候
 ニ付欲さる所の結果を不得策究し米國の戸籍表お載さる所死者の年齢お比算して別冊之如き假
 表を製し之を品川氏お呈し候是より先八月中願書及他の草稿相成候時平岡お赴き願書お連署調
 印の事相頼み候處同人お斷お及候ニ付然り許可の後お會社の相談役或り其類の事おて他三名と
 もお名を貸し吳間敷哉一體此社お世人の信を得ると汝専らとさるもの故彼邦おてお貴族大商の
 名を假る例もあり殊お米國の余り摸倣せる會社おてお紐育州々統領の名さへ見へぬり且今般會

社の組立をミユチユオール、システムといふ者なきの貴名を加へるとして事あるとき身代限り
ふ及ふ等の事を決して之なき杯諄々申聞候處許可の後、兎も角もと申候ニ付其儘致し更市
川ふ至る右の依頼ふ及候處矢張前人と同様の答ふて唯申候は拙者も種々の事ふ名を出し居候を
以て又市川うといへるゝも面ふせあり尤他三名同意かれは格別の事ありと有之談稍他事ニ移
候ふ此美舉ふ附ては拙者も應分の盡力の致せし斯く申も嗚呼うましと拙者も山梨縣ふ於
ては父祖代々の舊家かれは通家の間豪族もあり書状通して知らし免は縣内人民ふ歸依せしむる
は難事ふも非るへしと頼もしく申候ニ付さうと會社の紹介人取締と成り吳ましきやと紹介人
と一ト口ふいへは口入の如きものと早まるゝあるへされと米國ふては此業を渡世とせる豪家も
間之ありと是より紹介人う挂金より幾分の口錢を受るとかと申聞候處いやと拙者も夫等を受
るは無用あり此事ニ付而て縦令一年ふ百貳百の金も棄とも厭としといと親切ふ申吳候尤曩ふ平
岡氏も鯉生う通家の者ふ對し當時彼等の間ふ行とるゝ懇親會其他何々會ふとふ集會せる者等ふ
解勸先と二三百の寄託者も容易ふ集まるへし杯申候由ニ付鯉生面會の節も紹介人ふらんと淺頼
入候處是亦承知ふて申候は俗ふいふ奉加帳のときものを作りて寄託人を募らと猶更速なるへ
れは一日も早く衆人ニ解し易き様の掛金割合表を製しふる方便利あるへしと申候ニ付愚も其事

を思とさるふあふねと是まで多事ふ紛れて黙止しふりと申之を製さ何分頼ミ入ると申別れ
候の九月中旬の事ふ御座候扱又此頃安田ふも連署の事頼むへしと存候へ共舉家伊香保邊へ湯治
ふ參り候由承り候ニ付申入れす川崎も亦前二人と同様の事あるへされたと存し黙止して鯉生一
名ふて願書差出し候也斯くて保生證書依頼書等の雛形等も追々調ひ候ニ付鯉生考へ候ふ是等々
彫刻ふも手間取り保生證書の義を殊ニ大金の證書とあるものかれ成へと彼邦の製ふ做ひ贋
造相成らざる物を作りふと就而て紙料も注文致し置りされは開業の節間ふ合不申と存候ニ付其
事ふ取掛らんと存候へ共何分六月末より専ら此事ふのミ取掛り居翻譯ふ從事する違なく其上通
家の者ふ些少あり毎月の給料を遣し居筆番寫字の料より其外一兩名日毎ふ弊屋へ參り製表
寫字の手傳を致し候者ふは便當等の手宛も致し殊ニ先年中の訴訟ニ付代言人に給し候のミふて
相手は身代限りとあり候等の情實ありて囊底殆んど空と相成候ニ付右彫刻料紙等の費用を給ま
る能とす然るふ市川の過日も親切の相談も有之候ニ付先右の情實を話し費用を助ふ吳ましきや
と申込候處拙者も金貸を渡世とせる者かれは金ふは皆利息を要すると故夫ふては面白うらす一
層同盟の四人ふて之を助へし尤平岡う此事の紹介をせる者かれは之ふ告めて廻狀ふても出さ
と皆不同意あるまじと申候ニ付されは教ふ任せんとて別れ候其中廣告の文等も出來候ニ付通